

2025 年度

情報公開

- 大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に係る申請書
- 実務経験のある教員等による授業科目
- 客観的な指標の算出方法
- 卒業の認定に関する方針
- シラバス
- 学校関係者評価

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	理学療法学科	夜・通信	255 時間	240 時間	
	作業療法学科	夜・通信	255 時間	240 時間	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校HP www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html にて公表

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人HP www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	歯科医院院長 (1998. 4. 1～)	2020. 2. 1～ 令和 11 年度の定時 評議員会終結の時	民間の視点からの 適正な学校運営の 指導・助言
非常勤	介護老人福祉施設 事務長 (2003. 9. 1～)	2020. 2. 1～ 令和 11 年度の定時 評議員会終結の時	民間の視点からの 適正な学校運営の 指導・助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p>	
<p>1. 教員授業担当科目 新年度のシラバスデータに各授業担当教員が直接アクセスし、新年度シラバスの授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項確認および加筆・訂正を直接行う。</p> <p>2. 外来講師担当科目 郵送またはメールによって新年度シラバスの授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項内容の確認を行う。</p> <p>3. 学内にて最終確認を行う。</p> <p>4. 新年度開始時期に、印刷した新年度のシラバスを学生に配布する。また、学校ホームページにて公開を行う。</p>	
授業計画書の公表方法	学校 HP www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html にて公表
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p>	
<p>授業科目の学習成果の評価及び単位の認定は次の学則第23条に基づき、筆記試験、実技試験、レポートを主軸に置き科目ごとに客観的な基準を設け判定している。</p>	
<p>1. 授業科目の評価は、試験・出席状況・学習状況・学習報告等によって行う。</p> <p>2. 授業科目については、随時試験を行い履修の認定を行う。</p> <p>3. 病気その他やむを得ない理由により試験を受けることができなかった者又は不合格の者については、追試験又は再試験及び再実習を行うことができる。</p> <p>4. 出席時間数が授業時間数の3分の2に達しない者は、科目についての評価を受ける資格を失う。ただし、臨床実習については、規定時間の履修を原則とする。</p> <p>5. 臨床実習の評価は、実習内容・実習記録等によって行う。</p> <p>6. 臨床実習の履修の認定は、実習終了後に行う。</p> <p>評価は100点を満点とし60点以上を合格とする。合格した者には単位の認定を行う。</p>	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価の方法は学則細則第3条 3項に基づき、90点以上を「秀」、80点以上90点未満を「優」、70点以上80点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」、60点未満を「不可」と判定している。

さらに公平性と透明性を確保し統一した基準で、かつ国際的に通用する基準であり、各学生の授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的にG P A (Grade Point Average) 制度を採用している。この制度では、各評価に対し、秀=4.0、優=3.0、良=2.0、可=1.0、不可=0.0のG P (Grade Point) を付与し、次のとおり平均点 (G P A) を算出している。

1. G P A成績評価について

標語	G P	素点	
秀	4.0	100点～90点以上	合 格
優	3.0	90点未満～80点以上	
良	2.0	80点未満～70点以上	
可	1.0	70点未満～60点以上	
不可	0.0	60点未満	不合格

2. G P Aの算出方法

$$\frac{〔秀〕 修得単位数 \times 4 + 〔優〕 修得単位数 \times 3 + 〔良〕 修得単位数 \times 2 + 〔可〕 修得単位数 \times 1}{\text{総履修単位数}}$$

※単位認定は算出の対象としない。

※少数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの数字で成績表に記載する。

【単位の計算方法】学則第21条による

1 単位の授業科目を45時間の学習を必要とする内容をもって構成し、次の基準により計算するものとする。

1 単位：15～30時間（講義・演習）、30～45時間（実験・実習・実技）
45時間（臨床実習）

客観的な指標の
算出方法の公表方法

学校 HP www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html にて公表

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

- ・理学療法士法及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、以下の教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。

【学則 第五章 第 25 条】医療専門課程における卒業の認定は次のとおりとする。

- ① 学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者について、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。
- ② 卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士（医療専門課程）の称号を付与する。
- ③ 学科長は、卒業を認定したものに對し本校所定の卒業証書を授与する。
- ④ 本校を卒業した者には、次の国家試験受験資格が与えられる。

理学療法学科：理学療法士国家試験受験資格
作業療法学科：作業療法士国家試験受験資格

【細則 医療専門課程 教育課程の履修、評価および卒業の要件】（卒業の要件）

第 13 条 次の卒業に必要な単位を修得すれば卒業を認める。

1) 理学療法学科

分野	旧単位	新単位
基礎分野	14	14
専門基礎分野	33	35
専門分野	72	72
合計	119	121

2) 作業療法学科

分野	旧単位	新単位
基礎分野	14	14
専門基礎分野	36	38
専門分野	69	72
合計	119	124

※旧単位…2024 年度以前入学者
新単位…2025 年度入学者

【単位の計算方法】学則第 21 条による

1 単位の授業科目を 45 時間の学習を必要とする内容をもって構成し、次の基準により計算するものとする。

1 単位：15～30 時間（講義・演習）、30～45 時間（実験・実習・実技）、
45 時間（臨床実習）

卒業の認定に関する
方針の公表方法

学校 HP www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html にて公表

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校法人HP www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表
収支計算書又は損益計算書	学校法人HP www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表
財産目録	学校法人HP www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表
事業報告書	学校法人HP www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表
監事による監査報告（書）	学校法人HP www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

【理学療法学科】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	理学療法学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3175 単位時間/単位	1995 単位時間/単位	285 単位時間/単位	945 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		75人	0人	6人	83人	89人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員による科目 旧年度シラバスの回覧または直接入力によって新年度シラバスの加筆・訂正等記入の確認を行う。 ・外来講師科目 郵送またはメール等によって新年度シラバスの確認を行う。 ・学内にて最終確認を行う。 ・新年度開始時期に、印刷したシラバスをオリエンテーションで学生に配布する。 ・学校 HP www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html にて公表
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価の方法は学則細則第3条2項に基づき、90点以上を「秀」、80点以上90点未満を「優」、70点以上80点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」と判定している。</p> <p>各学生の授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的にGPA（Grade Point Average）制度を採用している。この制度では、各評価に対し、秀=4.0、優=3.0、良=2.0、可=1.0、不可=0.0のGP（Grade Point）を付与し、平均点（GPA）を算出している。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>理学療法士法及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>留年となり特別学費支援制度規定条件を満たした学生については、同一年次1回に限り、後期納付金の納入を猶予及び免除する。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
22人 (100%)	0人 (0%)	22人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 医療施設（病院等）			
(就職指導内容) ビジネスマナー研修の実施、希望者への模擬面接、履歴書の添削 教員による就職活動指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) 理学療法士国家試験受験資格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
88人	10人	11.4%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、体調不良など		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・脱落者を出さないようにするため、カリキュラム外で少人数指導を行っている ・教員による本人との面談、保護者への電話連絡、保護者との面談など		

【作業療法学科】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
医療		医療専門課程	作業療法学科	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
3年	昼	3240 単位時間/単位	1845 単位時間 /単位	405 単位時間 /単位	1080 単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位			
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人	35人	0人	6人	58人	64人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員による科目 旧年度シラバスの回覧または直接入力によって新年度シラバスの加筆・訂正等 記入の確認を行う。 ・ 外来講師科目 郵送またはメール等によって新年度シラバスの確認を行う。 ・ 学内にて最終確認を行う。 ・ 新年度開始時期に、印刷したシラバスをオリエンテーションで学生に配布する。 ・ 学校 HP www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html にて公表
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価の方法は学則細則第3条2項に基づき、90点以上を「秀」、80点以上90点未満を「優」、70点以上80点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」と判定している。</p> <p>各学生の授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的にGPA（Grade Point Average）制度を採用している。この制度では、各評価に対し、秀=4.0、優=3.0、良=2.0、可=1.0、不可=0.0のGP（Grade Point）を付与し、平均点（GPA）を算出している。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>理学療法士法及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>留年となり特別学費支援制度規定条件を満たした学生については、同一年次1回に限り、後期納付金の納入を猶予及び免除する。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11人 (100%)	0人 (0%)	9人 (81.8%)	2人 (18.2%)
（主な就職、業界等） 医療施設（病院等）			
（就職指導内容） ビジネスマナー研修の実施、希望者への模擬面接、履歴書の添削 教員による就職活動指導			
（主な学修成果（資格・検定等）） 作業療法士国家試験受験資格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
32人	3人	9.4%
（中途退学の主な理由） 進路変更、体調不良など		
（中退防止・中退者支援のための取組） ・脱落者を出さないようにするため、カリキュラム外で少人数指導を行っている ・教員による本人との面談、保護者への電話連絡、保護者との面談など		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
理学療法学科	300,000 円	760,000 円	540,000 円	
作業療法学科	300,000 円	760,000 円	540,000 円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 学校 HP www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html にて公表		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 自己評価結果の客観性・透明性を高めるため、学外関係者による「学校関係者評価委員会」を設置し、学校関係者評価を実施する。 ○主な評価項目：教育、施設、学生サービスなど ○評価委員の定数：5名以上 ○評価委員の選出区分：卒業生、企業関係者、高校関係者、地域住民、教育関連有識者など ○評価結果の活用方法：学校運営等の改善に活用する。評価結果ならびに改善策と実施の時期等についてはホームページで随時公表する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
医療法人和幸会 阪奈中央病院 院長	2021. 1. 1～2025. 12. 31 (任期更新)	企業関係者
奈良県専修学校 各種学校連合会 会長	2020. 1. 1～2025. 12. 31 (任期更新)	教育関連有識者
学校法人興国学園 興国高等学校 校長補佐	2020. 1. 1～2025. 12. 31 (任期更新)	高校関係者
医療法人和幸会 パークヒルズ田原苑 看護部長	2020. 1. 1～2025. 12. 31 (任期更新)	地域住民
医療法人和幸会 阪奈中央病院 リハビリ部長	2020. 1. 1～2025. 12. 31 (任期更新)	企業関係者
医療法人和幸会 阪奈サナトリウム 看護師長	2020. 1. 1～2025. 12. 31 (任期更新)	卒業生
医療法人和幸会 阪奈中央病院 リハビリ部	2024. 8. 11～2025. 12. 31 (新規：任期は前任者の残任期間)	卒業生

学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 学校 HP www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html にて公表
第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 学校 HP www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html にて公表

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H127310001566
学校名 (〇〇大学 等)	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人栗岡学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		17人 (0) 人	14人 (0) 人	17人 (0) 人
内 訳	第Ⅰ区分	11人	12人	
	(うち多子世帯)	0人	0人	
	第Ⅱ区分	-	-	
	(うち多子世帯)	0人	0人	
	第Ⅲ区分	-	0人	
	(うち多子世帯)	0人	0人	
	第Ⅳ区分 (理工農)	0人	0人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	-	0人	
区分外 (多子世帯)	0人	0人		
家計急変による 支援対象者 (年間)				0人 (0) 人
合計 (年間)				17人 (0) 人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が廃止の基準に該当)	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	0人
前半期	人
後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	—	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要について

本校では、公平性と透明性を確保し、統一した基準で、かつ国際的に通用する基準を用いるため、GPA (Grade Point Average) 制度を用いた成績評価を行い、修学指導や優秀な学生の表彰等に利用する。

成績評価の方法は学則細則第3条2項に基づき、90点以上を「秀」、80点以上90点未満を「優」、70点以上80点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」、60点未満を「不可」と判定している。さらに公平性と透明性を確保し統一した基準で、かつ国際的に通用する基準であり、各学生の授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的にGPA (Grade Point Average) 制度を採用している。この制度では、各評価に対し、秀=4.0、優=3.0、良=2.0、可=1.0、不可=0.0のGP (Grade Point) を付与し、次のとおり平均点 (GPA) を算出している。

1. GPA成績評価について

標語	GP	素点	
秀	4.0	100点～90点以上	合格
優	3.0	90点未満～80点以上	
良	2.0	80点未満～70点以上	
可	1.0	70未満～60点以上	
不可	0.0	60点未満	不合格

2. GPAの算出方法

$$\frac{〔秀〕 修得単位数 \times 4 + 〔優〕 修得単位数 \times 3 + 〔良〕 修得単位数 \times 2 + 〔可〕 修得単位数 \times 1}{\text{総履修単位数}}$$

※単位認定は算出の対象としない。

※少数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの数字で成績表に記載する。

以上

卒業の認定に関する方針について

理学療法士法及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、以下の教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。

卒業の認定について

【学則 第五章 第 25 条】医療専門課程における卒業の認定は次のとおりとする。

- ① 学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者について、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。
- ② 卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士（医療専門課程）の称号を付与する。
- ③ 学科長は、卒業を認定したものに対し本校所定の卒業証書を授与する。
- ④ 本校を卒業した者には、次の国家試験受験資格が与えられる。

理学療法学科：理学療法士国家試験受験資格

作業療法学科：作業療法士国家試験受験資格

【細則 教育課程の履修、評価および卒業の要件】（卒業の要件）

第 13 条 次の卒業に必要な単位を修得すれば卒業を認める。

1) 理学療法学科

分野	旧単位	新単位
基礎分野	14	14
専門基礎分野	28	33
専門分野	61	72
合計	103	119

2) 作業療法学科

分野	旧単位	新単位
基礎分野	14	14
専門基礎分野	33	36
専門分野	61	70
合計	108	120

※旧単位…2019 年以前入学者 / 新単位…2020 年以降入学者

【単位の計算方法】学則第 21 条による

1 単位の授業科目を 45 時間の学習を必要とする内容をもって構成し、次の基準により計算するものとする。1 単位：15～30 時間（講義・演習）、30～45 時間（実験・実習・実技）、45 時間（臨床実習）

以上

講義概要

2025年度 理学療法学科
1年生

阪奈中央リハビリテーション専門学校
理学療法学科

《基礎分野》 =科学的思考の基盤・人間と生活=

科目名 Course title	外国語 I (医学英語) ※選択必修	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森 拓也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>医療分野において医療英語の理解は必要不可欠である。リハビリテーション医療分野においても例外ではない。近年、科学的根拠をもとにした治療が求められる中、その科学的根拠を示すものは国際的な論文が多い現状がある。本講義では医療英語の基礎と国際雑誌の読み方を解説し、リハビリテーション医療にかかわる論文に慣れ親しみ、読解方法を得る能力を養うことを目標とする。また、併せて、臨床業務上必要不可欠な医療英語についても学習する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：医療英語とは臨床英語&論文読解 2 医療英語を用いた論文の検索方法 国際雑誌の選定 3 Original Article (原著論文) Case Report (症例報告) Review Article (総説) とは 4 医学英語論文の種類と Title の表現 Title から読み取る論文の良し悪し 5 Abstract とは？ Informative Abstract と Indicative Abstract 6 Summary 症例報告の Summary 総説の Summary 7 Introduction の読み方 8 Materials and Methods と Results の読み方 1 9 Materials and Methods と Results の読み方 2 10 Discussion の読み方 11 Conclusion References Acknowledgement の読み方 12 論文を読んでみよう (グループワーク) 13 論文を読んでみよう (グループワーク) 14 臨床上必須英語・診療上常用英語 15 総復習 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「必ず読めるようになる医学英語論文」 金原出版		
備 考 Other Comments	適宜資料を配布して授業を進める		

科目名 Course title	外国語Ⅱ（医学日本語）※選択必修	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	（日本語科教員 作業療法学科教員）	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期／2単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	留学生を対象に日本語能力試験1級レベルの言語知識、読解、聴解能力の強化および1年次の解剖学、生理学、運動学の授業に進捗に合わせ基本的な医学用語の語彙力を強化することを目的とする。		
授業計画 Course Content	1 日本語能力試験N1 対策講座 言語知識_文字/語彙①&文法① 2 日本語能力試験N1 対策講座 言語知識_文字/語彙②&文法② 3 日本語能力試験N1 対策講座 言語知識_文法③&読解① 4 日本語能力試験N1 対策講座 言語知識_文法④&読解② 5 日本語能力試験N1 対策講座 読解③&聴解① 6 日本語能力試験N1 対策講座 読解④&聴解② 7 日本語能力試験N1 対策講座 模擬試験 8 解剖学用語 総論 9 解剖学用語 骨 10 解剖学用語 関節 11 解剖学用語 靭帯 12 生理学用語 総論 13 生理学用語 細胞の構造と機能 神経系 14 生理学用語 循環器系 15 生理学用語 呼吸器系		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	教育学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高木 琳太郎	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>私たちが関わってきた（関わっている）教育を考えてみることを通して、私たちがほかの人々、物事とともに生きてきた（生きている）日常・社会・世界・関係性について、立ち止まって考えてみる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 階段のぼりと勉強 2 階段のぼりと勉強 3 狼に育てられた子ども 4 狼に育てられた子ども 5 養生 6 養生 7 「生命場」 8 まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	レポート試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	公衆衛生学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	三宅 眞理	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>臨床医学が個人の疾病を対象とするのに対して、公衆衛生学は集団の健康を対象とする。衛生学および公衆衛生は人間の健康に関係するあらゆる事象を研究し健康の維持増進をはかる学問である。「公衆」はどのような集団を指すのか具体的な事象と対策、法規を学び、将来の健康づくりと疾病の予防に貢献できる力を養う。特に、公衆衛生に関する法規の領域は極めて広く、保健医療の専門職には周知が必要である。各領域について、発展の過程や仕組み、現状と対策などから講義する。</p> <p>一般目標（GIO）：現代社会における公衆衛生の理解を深め、自らの疾病の予防と健康作りを心がけ保健医療の専門職として国民の健康増進に貢献できる力をつける。</p> <p>行動目標（SBOs）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ①公衆衛生学の必要性と重要性を説明できる。 ②健康の指標について理解し、疫学・保健統計から説明できる。 ③感染症の基礎知識、予防対策、感染症法、食中毒などについて理解し予防を実践できる。 ④地域環境保全、公害、身の回りの環境衛生と健康について理解し実践できる力を養成する。 ⑤超高齢化社会における社会保障・医療介護の制度について理解を深め活用できる力を養成する。 ⑥地域保健活動、母子保健、学校保健について理解し実践できる力を養成する。 ⑦心疾患、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病の予防理解し、健康教育が実践できる力を養成する。 ⑧精神保健福祉と産業保健のこれまでの背景と現状を理解し、保険医療の専門家として、公衆衛生活動を実践できる力を養成する。 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 衛生・公衆衛生学序論 2 保健統計・疫学 3 感染症対策・国際保健・災害医療と健康危機管理 4 環境保健・地域保健と保健行政 5 母子保健・学校保健 6 成人保健・産業保健 7 高齢者の保健・医療・介護 8 精神保健・障害者の保健・難病対策 		
成績評価等	定期試験 60点で合格		
教科書 Textbooks			
備考 Other Comments			

科目名 Course title	コミュニケーション学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森川 あやこ 荻野 佐代子 勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】患者や対象者や、チーム医療を成す関係者および実習指導者との関わりに必要なコミュニケーションについて学習する。また手段としては言語・非言語を用いたコミュニケーションについて学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの必要性、および場面・状況に応じたコミュニケーションの方法について説明でき、また実施できる。 ・対象者や医療福祉の関係者（実習指導者を含む）と良好な関係を築くためのコミュニケーションが実施できる。 ・患者・対象者の情報を収集するために医療面接が実施できる。 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 コミュニケーションをスムーズにする土台について 2 印象の重要性 3 聴くことの重要性 4 自己表現の理解と演習 5 コミュニケーションの意思疎通、情報伝達 6 手話の基礎知識（聴覚障害者のコミュニケーションを知る） 7 名前、家族を表してみましょう 8 数字を使って表してみましょう（疑問詞の表し方を知る） 9 住所を表してみましょう（方向、指さしの活用を知る） <p>10～15 実習に必要なコミュニケーション 医療面接 傾聴実践</p> <p>※詳細は初講の際に説明</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席点、小テスト、提出物、筆記試験で総合的に評価する。		
教科書 Textbooks			
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	情報処理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	徳永 怜	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>「情報処理学」では、基本的なパソコンの操作を習得し、報告書・レポートの作成やプレゼンテーションが行えるようになることを目的としています。具体的には、Word や Excel を利用した文書の作成、表計算、グラフの作成です（Power Point を用いた資料の作成は、授業の進行状況に応じて、実施の可否を判断します）。</p> <p>授業は、パソコンを用いた実習形式で行います。課題作成に関する質問は受け付けますが、最終的には自分で Word や Excel を利用して報告書・レポートの作成ができるように、主体的に取り組むことを求めます。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 Word の基本操作（1）：基本的な文書作成、文書の編集 2 Word の基本操作（2）：表の作成 3 Excel の基本操作（1）：表の作成と計算 4 Excel の基本操作（2）：数式・関数の利用 5 Excel の基本操作（3）：データの入力・編集 6 Excel の基本操作（4）：グラフの利用 7 Excel の応用操作：データベースとしての利用 8 総復習 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>「課題の提出」、「単位認定試験」で評価します。 「単位認定試験」は Word、Excel を利用した実技試験を予定しています。 割合については初回の講義にて確認。</p>		
教科書 Textbooks	授業ごとに課題プリントを配付します。		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	心理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高橋 京子	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	知覚、感情など、人の様々な側面を通して、人間の心や行動を理解する心理学の基礎を学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション 2 心理学の変遷 3 学習と行動 4 知覚・感覚 5 思考 6 記憶と忘却 7 感情 8 欲求・動機付け 9 知能 10 性格 11 発達① 12 発達② 13 発達③ 14 発達④ 15 社会		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席・コメントペーパー、期末テスト		
教科書 Textbooks	「心理学・臨床心理学概論 第3版」北樹出版		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	統計学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森谷 伸樹	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	理学療法の EBM に必要な統計学について学ぶ。統計処理の基礎を学ぶこと、理学療法士国家試験に頻出の知識について触れること、研究内容に応じて統計処理を選択できることを到達目標とする。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 統計学の基礎、データの尺度・特性値・グラフ 2 推定と検定の基礎、2標本の差の検定—パラメトリック法(1) 3 1標本の差の検定—パラメトリック法(2)、差の検定—ノンパラメトリック法(1) 4 相関、回帰分析 5 重回帰分析、分割表の検定 6 一元配置分散分析、反復測定分散分析 7 信頼性係数、多重ロジスティック回帰分析 8 検査値の判断指標、まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行う		
教科書 Textbooks	リハビリテーション統計学 中山書店		
備 考 Other Comments	講義を中心に実施する。		
実務経験内容	森谷教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員7年の経験を有する。		

科目名 Course title	人間工学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	坂本 清美	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>居住空間や生活機器を使いやすく安全で快適につくることが、今強く求められている。老若男女、少数派・多数派を問わず、豊かで健康的な生活を送るためには必要不可欠なことである。それを実現するためには、こうした空間や機器が、人間そのものに適合するようにデザインされなければならない。</p> <p>人間工学はそれを支援する学問分野である。すなわち、生活を営む人間の形態や生理的・心理的機能を明らかにし、それを機器や環境の設計に結び付けていくことを目的としている。その点、これからの設計者やデザイナーに必要な不可欠な素養といえる。</p> <p>講義では、居住空間や住宅設備・生活機器等を設計していく上でぜひ考慮しなければならない人間の諸機能・諸特性について論じ、設計のガイドラインや方法を紹介していく。毎回1つのテーマをとりあげ解説していく。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 人間工学とは何か: 人間工学の対象事例、必要性、学問領域 2 人間工学の具体化例(イスのデザイン) 3 人体寸法とデザイン: 人間の寸法と形の理解 4 運動機能と身体負担: 筋肉の機能や特性の理解 5 感覚の種類と視覚機能: 感覚の種類、及び視覚機能の理解 6 視覚の生理と心理: 視覚や認知の特性の理解 7 認知人間工学: わかりやすさのデザイン授業計画 8 ヒューマンエラーと安全設計: 生活機器の事故事例の紹介と安全設計 9 疲労・ストレスと快適性デザイン 10 ユニバーサルデザインと人間工学(1) 11 ユニバーサルデザインと人間工学(2): 高齢者のUD、UX(ユーザエクスペリエンス) 12 情報デザインと人間工学 13 人間工学的デザインの実際: 機器, 住宅, オフィス 14 人間工学の今後 15 まとめ(第1回目~14回目) 		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>単位認定試験 100%</p> <p>課題は選択肢問題の予定</p> <p>選択肢問題は20問あり、配点は各5点です。合計で100点</p>		
教科書 Textbooks	<p>初めて学ぶ人間工学(2016/1/1)</p> <p>出版社: 理工図書</p> <p>著者: 岡田 明、後藤 義明、八木 佳子、他</p>		
備考 Other Comments			

科目名 Course title	物理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	大又 巧也	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>物体に力を加えると、物体は力の大きさに比例し、質量に反比例する大きさの加速度で運動が変化します。物体を人体として考えることで自分が動いたり他人を動かしたりする事と力の関係がわかるようになればリハビリテーションに役立ちます。物理の法則を使って見えない力を知り、2つ以上の力を組合せたり、又力を無効にすることを、実際に日常の活動として理解できるようになることがねらいです。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 物理量とその表し方、ベクトルとスカラー 2 いろいろな運動と力 3 力のつり合いと運動の法則 4 物体の重心と回転運動 5 力のモーメント① 6 力のモーメント② 7 運動、仕事のエネルギー 8 演習 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「PT・OT ゼロからの物理学」 羊土社		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	保健体育	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	山口 典孝・森山 琢磨	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／演習	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	自身の現体力を把握し、運動方法や運動の意義などを考える。さらには生活習慣病と運動の重要性を理解し、生活習慣病予防に役立てていく。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション、ドッチボール 2 ショートテニス 3 卓球 4 バスケットボール 5 ショートテニス 6 バレーボール 7 バスケットボール 8 ショートテニス 9 ショートテニス 10 卓球 11 フットサル 12 卓球 13 ショートテニス 14 ショートテニス 15 フットサル		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	活動点		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		

《専門基礎分野》＝人体の構造と機能及び心身の発達＝

科目名 Course title	解剖学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	柴田 雅朗	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>人体を構成する器官のうち、骨格と関節・靭帯について学ぶ。 各部位の名称とともに、その構造や働きについて理解する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 骨学総論 骨格の分類 骨の形態・分類・構造、骨の血管と神経、骨の機能 2 骨学総論 骨発生（軟骨内骨化と膜内骨化）と骨のリモデリング 3 骨学各論 頭蓋骨：顔面頭蓋、脳頭蓋 4 骨学各論 頭蓋骨：内頭蓋底と外頭蓋底、新生児の頭蓋冠 5 骨学各論 脊柱：脊柱の全景、各椎骨の特徴 6 骨学各論 胸郭：胸郭の全景、構成する骨の特徴（胸椎、胸骨、肋骨） 7 骨学各論 上肢骨：上肢帯骨（鎖骨、肩甲骨） 8 骨学各論 上肢骨：自由上肢骨（上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨、中手骨、指骨） 9 骨学各論 下肢骨：下肢帯（寛骨、骨盤） 10 骨学各論 下肢骨：自由下肢骨（大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨、足根骨） 11 骨学復習 1 12 骨学復習 2 13 関節・靭帯総論 関節の連結様式による分類と運動軸、基本構造、関節の機能 14 関節・靭帯各論 頭蓋の縫合、顎関節 15 関節・靭帯各論 脊柱の連結（関節）、脊柱の運動 16 関節・靭帯各論 胸郭の連結（関節）、胸郭の運動 17 関節・靭帯各論 上肢：上肢帯の連結、自由上肢骨の連結、肩関節の運動 18 関節・靭帯各論 上肢：肘関節と靭帯、橈骨と尺骨の連結、関節の運動 19 関節・靭帯各論 上肢：手関節、手根骨の関節、指節間関節、関節の運動 20 関節実習（顎関節、環椎後頭関節、環軸関節、肋椎関節） 21 関節・靭帯各論 下肢：下肢帯の連結、自由下肢骨の連結 1、股関節の運動 22 関節・靭帯各論 下肢：自由下肢の連結 2（膝関節、脛腓関節、足関節、足根骨の関節）、 関節の運動、関節・靭帯の復習 1 23 関節・靭帯の復習 2 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	<p>「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版」 医学書院 「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」 南江堂</p>		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	解剖学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	柴田 雅朗	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	4 5時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>全身の筋を知り、起始・停止の部位から作用を理解できる。 神経の基本構造を知り、筋・臓器との関連を理解できる。伝導路の構成を理解できる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 筋学総論 骨格筋組織、筋の構造と形態による分類、筋の補助装置、運動単位 2 筋学各論 上肢の筋（上肢帯、上腕の筋） 3 上肢の筋（前腕、手の筋） 4 下肢の筋（下肢帯、大腿、下腿の筋） 5 下肢の筋（足の筋） 6 体幹の筋（頭頸部の筋） 7 体幹の筋（背部、胸部、腹部の筋） 8 筋学実習（骨格標本と筋のペーパーモデルを用いて） 9 神経学総論（神経組織、神経系の分類と構成） 10 神経学総論（神経系の発生、脊髄と脳の発生、末梢神経系の発生） 11 神経学各論 中枢神経系（脊髄） 12 中枢神経系（脳幹、小脳） 13 中枢神経系（間脳、終脳） 14 中枢神経系（終脳） 15 末梢神経系（脊髄神経） 16 末梢神経系（脊髄神経） 17 末梢神経系（脳神経、視覚・嗅覚・味覚の伝導路） 18 末梢神経系（脳神経、視覚・嗅覚・味覚の伝導路） 19 末梢神経系（自律神経） 20 伝導路（下行性：錐体路と錐体外路） 21 伝導路（上行性：感覚の伝導路） 22 伝導路（上行性：感覚の伝導路） 23 復習 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	<p>「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版」 医学書院 「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」 南江堂</p>		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	解剖学Ⅲ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	前田 裕子	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅲでは、人体と細胞についての基礎知識、酸素を運ぶ血液の循環と心臓、栄養の消化と吸収を行う消化器系を学ぶ。</p> <p>以下の項目を、スライドを使いながら説明し、資料プリントや練習問題を配布して理解を深めて行きたい。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 DVD「驚異の人体機能」：体全体を概観する 2 細胞の構造：人体の区分、細胞小器官、細胞膜 3 細胞分裂、組織：上皮組織 4 組織：支持組織、筋組織、神経組織 5 血管の構造、吻合、心臓の構造、冠状循環 6 刺激伝導系、体循環系動脈（総頸動脈、外頸動脈） 7 動脈：脳、上肢、胸部、腹部、下肢 8 静脈：脳、上肢、奇静脈系 9 静脈：門脈系、下肢の静脈、胎児の循環 10 リンパ系：リンパ本幹、リンパ節 胸腺、脾臓 11 消化器系①：歯、舌、唾液腺、咽頭 12 消化器系②：嚥下、食道、胃、十二指腸 13 消化器系③：小腸の構造、大腸の構造 14 消化器系④：肝臓、膵臓、胆道 15 腹膜、間膜 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。（100%）		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」 南江堂 「日本人体解剖学 下巻 改訂20版」 南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。		

科目名 Course title	解剖学Ⅳ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	前田 裕子	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅳでは、体液の調節と尿の生成を行う泌尿器系、種を保存する働きをする生殖器系生体機能を調節する器官として内分泌系を、受容と応答という観点から感覚器系を学ぶ。</p> <p>以下の項目をスライドで説明し、資料プリントや問題を配布して、理解を深めていきたい。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 肝臓・膵臓の機能・構造、腹膜 2 呼吸器系：鼻、咽頭、喉頭 3 呼吸器系：気管、気管支、肺、胸膜、呼吸の仕組み 4 泌尿器系：腎小体、尿細管 5 泌尿器系・男性生殖器：腎の機能、排尿の仕組み、男性生殖器、精巣 6 男性生殖器：精子の発生、陰嚢、尿道、付属器官、陰茎 7 女性生殖器：卵巣、卵子の発生、黄体、月経周期、膣 8 女性生殖器：外陰部、会陰、ヒトの発生、胎盤 9 内分泌系：下垂体、視床下部、松果体、甲状腺 10 内分泌系：甲状腺の病気、血中カルシウム濃度調整ホルモン、副腎皮質 11 抗ストレス作用、性ホルモン、感覚器、外皮の構造 12 角質器、体性神経、視覚器（眼球壁、脈絡膜、毛様体） 13 視覚器（虹彩、網膜、水晶体、眼筋） 耳（外耳、鼓膜） 14 眼：眼の付属器官 耳：外耳、鼓膜 15 耳：中耳、内耳の構造 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。（100%）		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」 南江堂 「日本人体解剖学 下巻 改訂20版」 南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。		

科目名 Course title	基礎運動学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【運動器の基本的構造とその機能について学習する。 人間の基本運動の機構を科学的に分析するために必要な力について学習する。</p>		
授業計画 Course Content	<p>Chapter 1 運動器の構造と機能</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 骨の構造と機能 2. 関節の構造と機能 ※一部生体力学の基礎を含む 3. 骨格筋 4. 身体運動のエネルギー代謝 <p>Chapter 2 生体力学の基礎</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体運動の面と軸 2. 筋の活動張力と重力 3. ベクトル 4. トルク、モーメント 5. 重心 6. 床反力 7. 仕事 8. てこの種類 9. 滑車 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第7版」 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験9年及び専任教員28年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎運動学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高山 弘幹	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】下肢（骨盤含む）について、骨運動や関節運動、および筋の作用、その他の身体への応用を学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・股関節・膝関節・足関節・足趾の関節の骨運動および関節運動を説明できる。 ・股関節・膝関節・足関節・足趾の関節の筋の作用を説明できる。 ・股関節・膝関節・足関節・足趾の関節運動の制限因子について説明できる。 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 股関節の骨指標・関節包内運動・構成運動 2 大腿骨の頰体角・前捻角、Sharp角・CE角・ローザーネラトン線 3 股関節筋の靭帯・関節唇の機能、スカルパ三角 4 股関節筋の機能、関節中心と筋のベクトル 5 股関節運動の制限因子、腰部・骨盤運動と股関節の関係性、股関節トルクと体重のつり合い 6 膝関節の骨・靭帯、FTA、ミクリッツ線 7 膝の運動学（転がり滑り、Screw-home movement、Roll back） 8 前十字靭帯・後十字靭帯・側副靭帯の機能、膝蓋大腿関節の運動学 9 膝関節関節の筋機能、膝関節剪断力について 10 足関節・足部の骨・靭帯、Leg Heel Angle 11 足関節の運動 12 足部の運動、距腿・距骨下関節に作用する筋肉 13 足部内在筋、クロスサポートメカニズム、ウィンドラス・トラス機構 14 縦アーチと横アーチ 15 運動連鎖（上行性・下行制、OKC・CKC） <p>※詳細は初講の際に説明</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>筆記試験（80%） 小テスト（20%） ※小テストは2回目以降の授業開始時に実施予定</p>		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第7版」 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験11年及び専任教員2年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎運動学Ⅲ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】 上肢について、骨運動や関節運動、および筋の作用、その他の身体への応用を学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 肩関節（肩甲帯含む）・肘関節（前腕含む）・手関節・手指の関節の骨運動および関節運動を説明できる。 ・ 肩関節（肩甲帯含む）・肘関節（前腕含む）・手関節・手指の筋の作用を説明できる。 ・ 肩関節（肩甲帯含む）・肘関節（前腕含む）・手関節・手指の制限因子について説明できる。 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 上肢帯と上肢の運動：肩甲帯 2 上肢帯と上肢の運動：肩甲帯 3 上肢帯と上肢の運動：肩甲帯 4 上肢帯と上肢の運動：肩甲上腕関節 5 上肢帯と上肢の運動：肩甲上腕関節 6 上肢帯と上肢の運動：肩甲上腕関節 7 上肢帯と上肢の運動：肩甲上腕関節 8 上肢帯と上肢の運動：肘関節 9 上肢帯と上肢の運動：肘関節 10 上肢帯と上肢の運動：肘関節 11 上肢帯と上肢の運動：手関節 12 上肢帯と上肢の運動：手関節 13 上肢帯と上肢の運動：手指 14 上肢帯と上肢の運動：手指 15 上肢帯と上肢の運動：手指 <p>※詳細は初講の際に説明</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第7版」 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員10年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎運動学Ⅳ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】頭頸部・体幹・顔面の運動、および歩行について学習する。 頭頸部・体幹については骨運動や関節運動、および筋の作用、その他の身体への応用を学習する。 歩行については概要、運動、筋活動について学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭頸部・体幹の各関節の骨運動や関節運動について説明できる。 ・頭頸部・体幹の各関節の筋の作用について説明できる。 ・顔面筋の作用・開口閉口について説明できる。 ・歩行周期について説明することができる。 ・歩行の重心移動や決定因子について説明できる。 ・歩行の関節角度について説明できる。 ・歩行の筋活動について説明できる。 ・歩行の関節モーメントについて説明できる。 ・歩行に関連する用語について説明することができる。 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 脊柱の運動学：腰椎 2 脊柱の運動学：胸椎・胸郭 3 脊柱の運動学：頸椎 4 顔面の運動学 5 姿勢 力学の基礎（重心と筋活動、床反力と筋活動） 6 安静時立位姿勢と筋活動 立位姿勢制御 7 歩行 基礎知識 歩行周期 8 歩行 基礎知識 歩行周期 9 歩行時の重心とその仕組み 10 歩行 関節角度 11 歩行 筋活動 12 歩行 筋活動 13 歩行 関節モーメント 14 歩行 関節モーメント 15 総復習 国家試験問題 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第7版」 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験5年及び専任教員7年の経験を有する。		

科目名 Course title	生理学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	山本 知子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	<p>生体の機能・働きとそのメカニズムを学ぶ。細胞の機能から始まり、細胞の集まりである組織、組織の集まりである器官、器官の集まりである個体に至るまで、機能とその統合を理解する。ミクロの視点からマクロの視点へと進み、正常な生命活動を一貫して学ぶ</p>		
授業計画 Course Content (予定)	<p>(以下を 15 回で実施)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生理学基礎 <ul style="list-style-type: none"> ①生理学とは ②人体構成要素 ③細胞の構造と機能 ④細胞膜を隔てた物質移動 2 神経の機能 <ul style="list-style-type: none"> ①神経細胞と支持細胞 ②シナプス ③活動電位と局所電位 ④興奮伝導と興奮伝達 3 筋肉の機能 4 神経系の構成 <ul style="list-style-type: none"> ①反射 ②中枢神経と末梢神経 ③体性神経と自立神経 5 自律神経と内臓機能 <ul style="list-style-type: none"> ①交感神経と副交感神経 ②伝達物質と受容体 ③神経支配様式と神経各論 ④内臓反射と中枢 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 定期試験、小テスト、レポート		
教科書 Textbooks	「シンプル生理学 改訂第 8 版」 南江堂		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	生理学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	種村 麻里	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>生理学は、生体の機能とそのメカニズムを解明する学問である。様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的な仕組みを解き明かすものである。</p> <p>特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上で、その生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となる。本科目では、体性神経系と運動の機能、中枢神経系の高次機能、感覚器系の構成と機能について学ぶ。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脊髄・脳幹の構造と機能 2. 体性神経系と運動機能① 脊髄の運動機能 3. 体性神経系と運動機能② 脳幹の運動機能 4. 体性神経系と運動機能③ 小脳・間脳の運動機能 5. 体性神経系と運動機能④ 大脳基底核の運動機能 6. 体性神経系と運動機能④ 錐体路 7. 中枢神経系の高次機能① 新皮質の構造と機能分化 8. 中枢神経系の高次機能② 新皮質連合野の統合機能 9. 中枢神経系の高次機能③ 睡眠と覚醒 10. 中枢神経系の高次機能④ 辺縁系と視床下部の機能 11. 感覚系の構成と機能① 感覚の一般的性質 12. 感覚系の構成と機能② 体性感覚 内臓感覚 13. 感覚系の構成と機能③ 視覚 14. 感覚系の構成と機能④ 聴覚と平衡感覚 15. 感覚系の構成と機能⑤ 嗅覚と味覚 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>筆記試験</p> <p>100点満点中60点以上で合格とする。</p>		
教科書 Textbooks	<p>教科書「シンプル生理学 改訂第8版」南江堂</p> <p>参考書「標準生理学 第9版」医学書院</p>		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	生理学Ⅲ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	種村 麻里	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>生理学は、生体の機能とそのメカニズムを解明する学問である。様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的な仕組みを解き明かすものである。</p> <p>特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上で、その生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となる。本科目では、血液、消化と吸収、栄養と代謝、内分泌系の機能、生殖について学ぶ。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1. 血液の生理① 血液の組成 細胞成分 2. 血液の生理② 血液凝固 3. 血液の生理③ 血液型 免疫機構 4. 消化と吸収① 消化管の基本的構造 口腔内と胃内の消化 5. 消化と吸収② 肝胆膵の働き 6. 消化と吸収③ 小腸内の消化と吸収 7. 消化と吸収④ 大腸の働きと排便 肝臓の機能 8. 栄養と代謝① 基礎代謝と栄養所要量 9. 栄養と代謝② 三大栄養素の中間代謝 10. 内分泌系の機能① ホルモンの一般的性質と分泌調節 11. 内分泌系の機能② 視床下部、下垂体のホルモン 12. 内分泌系の機能③ 甲状腺のホルモンと骨代謝 13. 内分泌系の機能④ 膵臓のホルモン 14. 内分泌系の機能⑤ 副腎のホルモン 15. 生殖① 精巣、卵巣のホルモンと生殖機能 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	教科書「シンプル生理学 改訂第8版」南江堂 参考書「標準生理学 第9版」医学書院		
備 考 Other Comments	適宜、配布資料により講義を進める		

科目名 Course title	生理学Ⅳ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森 拓也	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>生理学Ⅳでは、人体における循環系の機能、呼吸の生理、尿の生成と排泄、体温とその調整について学習する。その中でも特に理学療法士に必要なかわりの深い内容、国家試験の頻出問題を解説する。到達目標は人体での生理的な機能の重要性を理解し、本講義範囲の国家試験問題を読解する経験を得るところまでとする。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 循環系の機能 心臓の構造と基本的性質 自動性・興奮性・伝導性・収縮性 2 循環系の機能 心電図と不整脈のメカニズム 心臓ポンプ機能 3 循環系の機能 血管系とリンパ系官、循環調整機構 4 循環系の機能 循環調節機構と局所循環 5 呼吸の生理 呼吸の仕組み、構造・構成・喚起、ガス交換 6 呼吸の生理 血液中の酸素運搬、二酸化炭素の運搬、一酸化炭素中毒 7 呼吸の生理 呼吸・肺換気量の調整、異常、人工呼吸 8 尿の生成と排泄 腎の機能的構造、糸球体ろ過 9 尿の生成と排泄 腎血漿流量、クリアランス 尿細管による再吸収 10 尿の生成と排泄 尿細管における分泌、尿の成分と排尿 11 体液とその調節 体液の区分と水バランス、体液のイオン組成 12 体液とその調節 体液の恒常性を維持するしくみ 13 体温とその調整 体温、熱生成、熱放散 14 体温とその調整 行動性体温調整、体温調整機構 15 体温とその調整 高体温と低体温 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	シンプル生理学 改訂第8版		
備 考 Other Comments	適宜、配布資料により講義を進める		

科目名 Course title	人間発達学 I (運動)	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	松本 茂樹	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	(運動発達) ①作業療法を実施するうえで、正常発達知識が必要であることを知る。 ②乳幼児が、座位・立位を獲得するまでの過程を知る。 ③生後10ヶ月までの粗大運動発達が、視覚・聴覚・体性感覚・上肢機能、 認知・実務経験発達の基盤となり、関連しながら発達することを知る。 ④発達学的な運動分析を知る。 ⑤発達領域の作業療法を知る。		
授業計画 Course Content (予定)	1 オリエンテーション 2 新生児 3 頭部のコントロール 4 抗重力活動 5 立ち直り運動 6 座位・立位・歩行技能 7 視覚技能 8 上肢技能		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) レポート		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	人間発達学Ⅱ（心理）	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	三枝 好恵	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	<p>(発達心理)</p> <p>子どもから成人、老人への生涯発達。生まれたばかりで他者の世話なしには生きていけなかった赤ん坊も、やがては自分の周りの世界を発見し、言葉を発し、歩くようになっていきます。これまで自分が成長してきた過程を振り返り、認知や情緒、対人関係の発達を学んでいきます。基礎的な発達心理学の概念を習得することを目標とします。</p>		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 発達とは—発達心理学の基礎 2 乳幼児期の発達 3 言葉の発達① 4 言葉の発達② 5 心の理論 6 児童期のころ 7 青年心理学 8 老年心理学—認知症の理解 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 発達心理 テスト、出席率、授業内での小テスト		
教科書 Textbooks	Cross basic リハビリテーションテキスト 人間発達学 メジカルビュー社		
備 考 Other Comments			

＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	精神医学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	嶋 健作、高橋 隼、正木 慶大	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	<p>授業目的精神医学の基礎的知識を習得し、精神医学という身近な疾患を理解する第一歩とする。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医学の意義と基本的理念を理解し、説明できる。 2. 基本的な精神症状の概念を理解し、用語を正しく使用できる。 3. 精神障害を生物・心理・社会的な観点から多面的に捉えることができる。 4. 精神疾患の分類体系を理解し、その概要を説明できる。 5. 代表的な精神疾患の特徴を理解し、その概要を説明できる。 6. 精神科的治療の種類と方法を理解し、その概要を説明できる” <p>授業概要本講義では精神医学を総論的に学ぶ。医学・医療における精神医学の意義と役割、基本的な理念、精神医療の歴史を概観したのち、多様な精神症状の概念的知識と評価・検査法を体系的に学ぶとともに、身体的基盤を有する精神障害から環境や心理的側面の関与が大きい精神障害に至るまで精神障害の成因論と、薬物・身体療法および精神療法に関する基本的知識を体系的に習得する。現在臨床に従事する精神科医師が自身の経験を交えて講義する。</p>		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、精神医学の歴史など 2 中枢神経の解剖と生理 3 神経徴候、せん妄 4 精神科に関する検査など 5 統合失調症総論 6 統合失調症各論 7 気分障害総論 8 気分障害各論 9 器質性精神障害総論 10 器質性精神障害各論 11 神経症、生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 12 人格障害 13 知的障害、発達障害 14 精神作用物質、てんかん 15 復習とまとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 80～85 点、小テスト 5 点× 3～4 回 (15～20 点)		
教科書 Textbooks	医学書院 精神医学 第 4 版増補版 (標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野)		
備 考 Other Comments	<p>講義予定については進行状況などによって適時変更があります。</p> <p>準備学習: 上記に該当する部分をテキストで読んでおくこと。</p> <p>試験やレポートに対するフィードバック方法として資料、テキストを復習すること 小テストで要点を理解し、本試験に挑むこと。”</p>		
実務経験内容			

科目名 Course title	病理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森 拓也	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>病理学とは、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることによって、病気の本態を究明する学問である。</p> <p>本講義においては、始めに病理学の位置付け、役割、その重要性を説明した後、病気の原因（病因論）について講述、テキストの総論・各論各項目に沿って授業を進める。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 病理学とは何か？（病因論）病理学とは何か、病理学の役割と内容、病気の原因（病因論）、生命の防御機構、細胞傷害と細胞増殖、細胞組織の修復と再生：細胞死（壊死とアポトーシス）、変性、再生、創傷治癒、骨折治癒、異物処理 2 炎症：炎症の徴候、急性炎症、分類、慢性炎症、特殊性炎、感染症 3 免疫機構：液性・細胞性免疫、免疫担当細胞、抗原と抗体、アレルギー、自己免疫疾患 4 循環障害：充血、うっ血、虚血、血栓症、出血、塞栓症、梗塞、ショック、浮腫、脱水症 5 循環器：先天性心疾患、虚血性心疾患、心内膜炎、弁膜症、心筋症、心肥大と心不全、血管の病気 6 腫瘍：特徴、組織分類、転移、良性・悪性の鑑別、機能性腫瘍、腫瘍マーカー、発生要因、腫瘍の宿主との関係、疫学 7 呼吸器：上気道（鼻、咽頭）下気道（気管、気管支、肺）の病気、COPD、肺炎、肺がん 8 代謝異常：石灰沈着、細胞内外物質沈着、黄疸、蛋白質代謝異常、脂質代謝異常、糖質代謝異常 9 消化器：口腔、唾液腺、食道の病気、胃・腸の病気、肝臓、膵臓の病気 10 遺伝と遺伝病：先天異常（奇形）、遺伝要因と環境要因、先天性代謝異常、遺伝子診断 11 造血系：赤血球・白血球の異常、血小板の異常、リンパ節の病気、脾臓、胸腺の病気 12 泌尿器・生殖器：腎臓・膀胱の病気、女性生殖器（子宮頸部・体部、卵巣）、乳腺の病気、織毛性疾患、男性生殖器（精巣、前立腺）の病気 13 中枢神経系・末梢神経系：脳血管障害、感染症、脱髄疾患、変性疾患、脳腫瘍 14 運動器：骨・軟骨の病気、骨の炎症及び腫瘍病変、関節・筋肉の病気 15 病理学総括（復習・国家試験対策） 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 + 提出物		
教科書 Textbooks	「カラーで学べる病理学 第5版」ニューヴェルヒロカワ		
備考 Other Comments	すべての講義で10分程度の小テスト実施。		

科目名 Course title	臨床心理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高橋 京子	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	臨床心理学について概説するとともに、臨床心理学的な方法や、理解について学ぶことをねらいとする。		
授業計画 Course Content (予定)	(15回で行う) 1 臨床心理学について 2 パーソナリティ 3 アセスメント 4 発達と心理的問題 5 心理的介入 6 臨床心理学の応用 7 国家試験対策		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験・レポート・授業中の態度など		
教科書 Textbooks	「心理学・臨床心理学概論 第3版」北樹出版		
備 考 Other Comments			

＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	社会福祉概論	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	後藤 登美子	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>社会福祉は日常生活に深くかかわるものです。この授業では第三者的に社会福祉の学習に取り組むのではなく自身の生活にひきつけて考えていきたい。社会福祉サービスが一人ひとりの行き方をできるだけ満足のいく形で実現できるよう支援するものであると認識してもらいたいです。</p> <p>尚、授業は講義だけでなく、ビデオ等を通しても行ないます。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における福祉制度と福祉政策 わが国における福祉制度の概念と理念 福祉政策の概念と理念について 福祉制度と福祉政策の関係とは 2 福祉制度の発達過程 日本における福祉の始まり 近代社会と福祉 現在社会と福祉 3 わが国の社会保障の概要 年金保険制度と企業年金の仕組み 医療保険制度 労働保険制度 介護保険制度 4 低所得者に対する支援と生活保護制度 公的扶助の概念 生活保護法について 5 自立支援プログラムと生活福祉資金貸付制度について 自立支援プログラムの意義と実際 低所得者対策 6 児童の福祉（子ども家庭福祉） 児童虐待問題について ひとり親家庭への支援・施策について DV問題について 7 高齢者の福祉 介護保険制度について 8 利用者本位における契約制度について 成年後見制度 日常生活自立支援事業 福祉サービス利用者保護のためのシステム 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 試験・平常点 (レポート等)		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	リハビリテーション I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加・梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	4 5時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】 講義では臨床実習概要、感染対策、見学発表、施設の概要や療法士の役割、リハビリテーションの概論について学習する。早期見学実習を通じてリハビリテーション職種である療法士の役割を学習し動機を促進する。また障害者体験を通じ日常生活に機能障害や環境が及ぼす影響を学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの各分野の役割と目的を説明できる。 ・各施設の概要と各施設での療法士の役割について説明できる。 ・自己の目指す目標を発表できる。 ・スタンダードプリコーションについて説明できる。 ・障害が日常生活に及ぼす影響について説明できる。 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義概要 説明 2 リハビリテーションについて① 3 リハビリテーションについて② 4 感染対策 5 施設見学オリエンテーション 6 リハビリテーション施設見学 7 リハビリテーション施設見学 8 リハビリテーション施設見学 9 リハビリテーション施設見学 10 リハビリテーション施設見学 11 リハビリテーション施設見学 12 リハビリテーション施設見学 13 リハビリテーション施設見学 14 リハビリテーション施設見学 15 リハビリテーション施設見学 16 リハビリテーション施設見学 17 リハビリテーション施設見学 18 発表準備・障害体験オリエンテーション 19 発表準備・障害体験オリエンテーション 20 障害体験 21 障害体験 22 まとめ発表会 23 まとめ発表会 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>体験学習レポート 発表会内容</p>		
教科書 Textbooks	<p>別途資料を配布する</p>		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	<p>勝村智加：作業療法士として臨床経験 7 年及び専任教員 7 年の経験を有する。 梅田達成：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 7 年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	リハビリテーションⅡ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	大江 俊	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>多職種連携が必須となっている医療に基づき、作業療法の基礎となる「作業」や「活動」、「作業療法・作業療法士とは」という意味を考え、歴史をたどり、法規などを知ることにより全体像を学ぶ。また、作業療法士にとって必要な知識・適正・態度などについて考え、理学療法と作業療法の共通点、相違点を理解し、各々の専門性を理解する機会とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>作業療法の歴史、意義、目的、対象、領域について他者に説明できる。</p> <p>作業療法に関わる法律について他者に説明できる。</p> <p>作業療法士として適切な資質、思考について理解し、医療人としての素養、倫理観を養う。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 「作業」及び「作業療法」の定義 2 世界における作業療法の歴史 3 日本における作業療法の歴史 4 作業療法の対象となる領域 5 医療倫理と作業療法士に求められる資質・適正・態度 6 作業療法における理論・モデル（MOHO、CMOP） 7 作業療法の実際（身体障害、精神障害） 8 作業療法の実際（発達障害、老年障害） <p>※詳細は初講の際に説明</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>小テスト（30%） 定期試験（70%）</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	適宜資料を配布予定		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験8年及び専任教員1年の経験を有する。		

科目名 Course title	リハビリテーションⅢ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】リハビリテーション医療にかかわる職種の役割について理解し、どのように他職種と連携するのかを学習する。実際に理学療法士・作業療法士・看護師での多職種連携の演習を行う。</p> <p>(内容はこの通りであるが概要からは削除：理学療法士のスポーツ分野での多職種連携、作業療法士の精神分野での多職種連携についても学習する。)</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションに関わる職種とその役割について説明できる。 ・多職種連携の必要性について説明できる。 ・症例を通じて多職種連携を経験し、対象者の支援について発表できる。 		
授業計画 Course Content	<p>(理学療法士)</p> <p>1 多職種連携 理学療法 総論</p> <p>2 スポーツ理学療法</p> <p>(作業療法士)</p> <p>3 多職種連携 作業療法 総論</p> <p>4 精神科作業療法</p> <p>(看護師)</p> <p>5 多職種連携 看護 総論</p> <p>(言語聴覚士)</p> <p>6 嚥下障害総論・嚥下障害の実際</p> <p>7 言語聴覚総論・失語症と構音障害</p> <p>(リハビリテーション関連職種)</p> <p>8 多職種連携 医療ソーシャルワーカー 総論</p> <p>9 多職種連携 ケアマネージャー 総論</p> <p>10 多職種連携 栄養士 総論</p> <p>11 多職種連携 心理士 総論</p> <p>(3科多職種連携)</p> <p>12 多職種連携総論</p> <p>13 多職種連携 症例課題 グループワーク</p> <p>14 多職種連携 症例課題 グループワーク</p> <p>15 多職種連携 発表</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験と3科多職種連携課題(提出・発表)の合算で評価		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容			

《専門分野》＝基礎理学療法学＝

科目名 Course title	理学療法概論	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士に関する歴史・教育・法律・職域・対象等を学び職業としての理学療法士像を明確にする。 ・リハビリテーションの概念の理解を深める。 ・リハビリテーションチームの理解を深める。 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法の定義、リハビリテーションの定義、法律、カリキュラム 2. 保健制度、診療報酬 3. 歴史、倫理、職能団体 4. 理学療法の実際 5. 急性期の理学療法 6. 回復期の理学療法 7. 生活期の理学療法 8. まとめ、研究、行政、他 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 平常点		
教科書 Textbooks	PTOTビジュアルテキスト 理学療法概論 羊土社		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	理学療法士として臨床経験5年及び専任教員18年の経験を有する。		

科目名 Course title	障害学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】 障害の概要や器官別に生じる障害、および症候学について学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活機能分類・障害分類について説明・分類ができる。 ・各器官から生じる障害を説明できる。 ・リハビリテーションに関わる主な症候について説明できる。 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害について、器官別障害について、 2. 症候学 炎症・疼痛、 3. 可動域制限. 拘縮、 4. 筋力低下、筋萎縮 5. 麻痺、高次機能障害、 6. 運動耐用能の低下等、- 7. 器官別障害学 運動器 8. 器官別障害学 脳疾患 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし（資料配布）		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験5年及び専任教員18年の経験を有する。		

科目名 Course title	動作分析学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	藤善 将	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	本講座では、作業療法についての知見を振り返り深めたいうえで、作業療法士が ADL の向上・自立に向けて介入していく視点について学ぶ。作業という人の営みを様々な角度から分析する臨床的視点を持ち、言語化できることを目標とする。		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 作業療法についての振り返り 2 作業療法の理解に向けたグループワーク 3 活動分析（前開きシャツ・靴下など） 4 分析結果の発表・ディスカッション 5 巧緻動作と ADL の関係性についてのグループワーク 6 分析結果の発表・ディスカッション 7 食べる行為についての作業分析（グループワーク） 8 分析結果の発表・ディスカッション 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として教員 6 年及び臨床 2 7 年の経験を有する。		

＝理学療法評価学＝

科目名 Course title	評価学 総論	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間 / 講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】 評価学各論の前段階として療法士が行う評価の概要とその過程、および評価の意義や目的を（変更：について）学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療法士が行う評価の過程を説明できる。 ・療法士が行う情報収集について説明できる。 ・療法士が行う検査・測定の種類について説明できる。 ・療法士が行う統合と解釈について説明できる。 ・療法士が行う予後予測や目標設定について説明できる。 ・療法士が行う再評価と効果判定について説明できる。 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 評価の概要、目的、手順 2 理学療法評価の評価手順 3 結果の記載方法、SOAP 法、ケースレポートについて 4 帰納的問題解決法 5 演繹的問題解決法 6 予後予測・目標設定 7. 8 症例を通じて、評価（情報収集・検査測定・結果の統合と解釈・問題点の抽出・予後予測・目標設定・治療計画の立案・再評価について） 		
成績評価の方法・ 基準・評価	筆記試験（終講試験）・平常点		
教科書 Textbooks	PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版 羊土社 PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編（第2版補訂）金原出版		
備考	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験5年及び専任教員18年の経験を有する。		

科目名 Course title	評価学各論 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 眞吾、宝田 愛	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】 療法士として患者や対象者の身体に触れるための準備として「骨や血管の触診技術」を（変更：について）学習する。 また「バイタル測定」や「形態測定」の意義や目的、および測定技術を学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションに関わる主な身体の四肢・体幹の骨・血管について触診できる。 ・バイタル測定については、体温・脈拍・血圧・呼吸数・動脈血酸素飽和度の測定意義や目的、および測定方法を説明できる。 ・バイタル測定については、体温・脈拍・血圧・呼吸数・動脈血酸素飽和度の測定ができる。 ・形態測定については、体格（体重、身長、BMI）、四肢長、四肢周径の測定意義や目的、および測定方法を説明できる。 ・形態測定については、体格（体重、身長、BMI）、四肢長、四肢周径の測定ができる。 		
授業計画 Course Content	<p>1～8 触診（骨・動脈）について 9～11 バイタル測定について 12～15 形態測定について</p> <p>※詳細は初講の際に説明</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価	小テスト・実技試験（口頭試問）の成績を加味して判定する。		
教科書 Textbooks	PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版 羊土社 PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編（第2版補訂）金原出版		
備 考	なし		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員27年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年及び専任教員5年の経験を有する。		

科目名 Course title	評価学各論Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	宮脇 孝治、大江 俊	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】 四肢体幹の「可動域測定」について意義や目的、および測定技術を学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四肢・体幹の可動域測定の意義や目的、測定方法について説明できる。 ・関節可動域の標準角度や制限する因子について説明できる。 ・四肢・体幹の可動域測定ができる。 		
授業計画 Course Content	<p>1 ROM総論 (ROM 定義・関節の構成要素・基礎知識)</p> <p>2～6 ROM上肢 (肩関節、肘関節、前腕、手関節、手指)</p> <p>7～13 ROM下肢 (股関節、膝関節、足関節、足趾)</p> <p>14～15 頸部、体幹・別法・まとめ</p> <p>※詳細は初講の際に説明</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価	小テスト・実技試験 (口頭試問) の成績を加味して判定する。		
教科書 Textbooks	PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版 羊土社 PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 (第2版補訂) 金原出版		
備 考	なし		
実務経験内容	宮脇教員：理学療法士として臨床経験8年及び専任教員5年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験8年及び専任教員1年の経験を有する。		

科目名 Course title	評価学各論Ⅲ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森谷 伸樹、高山 弘幹、宝田 愛	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 2 単位
授業方法 Teaching Methods	60 時間 / 講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	<p>【概要】 四肢体幹の「筋力測定」について意義や目的、および測定技術を学習する。</p> <p>【到達目標】 筋力測定の意義や目的、方法について説明できる。 徒手筋力測定の実施ができる。またその結果を判定できる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 総論 筋力とは MMT の原理、原則、注意点 肩甲骨外転と上方回旋(前鋸筋)、肩甲骨拳上(僧帽筋)、 2 肩甲骨内転(僧帽筋中部線維)、肩甲骨下制と内転(僧帽筋下部線維) 肩甲骨内転と下方回旋(菱形筋群) 3 肩関節屈曲(前方拳上)(三角筋前部、棘上筋、烏口腕筋)、肩関節伸展(後方拳上)(三角筋後部) 4 肩関節外転(側方拳上)(三角筋中部および棘上筋)、肩関節水平外転(三角筋後部) 5 肩関節水平内転(大胸筋)、肩関節外旋(棘下筋、小円筋) 6 肩関節内旋(肩甲下筋)、肘関節屈曲(上腕二頭筋、上腕筋、および腕橈骨筋) 肘関節伸展(上腕三頭筋) 7 前腕回外(回外筋、上腕二頭筋)、前腕回内(回外筋、方形回内筋) 8 手関節伸展(長短橈側手根伸筋、尺側手伸筋) 手関節屈曲(橈側手根屈筋、尺側手根屈筋)、 9 PIP 関節および DIP 関節(浅指屈筋、深指屈筋)の屈曲 複合テスト 10 PIP 関節および DIP 関節、MP 関節伸展(指伸筋、示指伸筋、小指伸筋) 11 指 MP 関節屈曲(虫様筋と骨間筋)、 12 指外転(背側骨間筋)、内転(掌側骨間筋) 13 母指 MP、IP 関節屈曲(短母指屈筋、長母指屈筋)、母指 MP、IP 関節伸展(短母指伸筋、長母指伸筋) 14 母指外転(長母指外転筋、短母指外転筋)、母指内転(母指内転筋)、 15 対立運動(母指対立筋、少子対立筋) 16 股関節屈曲・伸展 17 股関節伸展別法 18 股関節外転、股関節内転 19 股関節外旋、股関節内旋 20 膝関節屈曲(総合)、内側・外側 21 膝関節伸展 22 足関節底屈、足関節背屈内がえし 23 足の内がえし、足の底屈を伴う外がえし 24 母趾と足ゆびの MP 関節屈曲、DIP、PIP 関節屈曲、 25 母趾と足ゆびの MP 関節、IP 関節伸展 26 頸部屈曲、伸展、回旋 27 頸部屈曲、伸展、体幹屈曲 28 体幹回旋、体幹伸展 29 骨盤拳上、体幹側面 30 安静な吸気 <p>脳神経支配筋のテスト 徒手筋力測定の別法(ハンドヘルドダイナモメーター、握力テスト等機器を使用するテスト法)</p>		
成績評価の方法・基準・評価	小テスト・実技試験(口頭試問)の成績を加味して判定する。		
教科書 Textbooks	新・徒手筋力検査法 原著第10版 協同医書出版社		
備考	なし		
実務経験内容	宝田教員：作業療法士として臨床経験6年及び専任教員5年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員7年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験11年及び専任教員2年の経験を有する。		

科目名 Course title	評価学各論Ⅳ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	中野 里佳、森谷 伸樹	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】 感覚、疼痛、身体で生じる反射、筋緊張などの各種測定について、意義や目的および測定方法を（変更： について）学習する。</p> <p>【到達目標】 感覚検査の意義や目的について説明できる。 感覚検査を実施できる。またその結果を判定できる。 疼痛検査の意義や目的について説明できる。 疼痛検査を実施できる。またその結果を判定できる。 深部腱反射・表在反射・病的反射・姿勢反射の意義や目的について説明できる。 深部腱反射・表在反射・病的反射・姿勢反射を実施できる。またその結果を判定できる。 筋緊張の検査について意義や目的について説明できる。 筋緊張の検査を実施できる。またその結果を判定できる。</p>		
授業計画 Course Content	<p>全 15 コマの内訳</p> <p>1～3：筋緊張の検査について理解し実施ができるようになる。 4～8：反射検査について理解し実施ができるようになる。 9～13：感覚検査について理解し実施ができるようになる。 14～15：疼痛検査について理解し実施ができるようになる。</p> <p>※詳細は初講の際に説明</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価	小テスト・実技試験（口頭試問） の成績を加味して判定する。		
教科書 Textbooks	PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版 羊土社 PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編（第2版補訂）金原出版		
備 考	なし		
実務経験内容	中野教員：作業療法士として臨床経験21年及び専任教員4年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員7年の経験を有する。		

＝理学療法治療学＝

科目名 Course title	動物介在療法学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	川嶋 舟	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	<p>犬や猫、馬やイルカなど、動物を介することで、人が癒されたり、人の機能の改善を図ったりすることが知られており、動物を介在して行うため動物介在療法とされている。動物介在療法に関わる人材の多くが、犬や馬、イルカなどの動物の専門家によるアプローチであり、人のリハビリテーションの専門家である理学療法士、作業療法士が動物介在療法を実践する場はまだ少ない。この講義では、動物介在療法の中でも、特に人に近い存在と言われる馬を介した馬介在療法について学び、理学療法士、作業療法士が馬介在療法を実践することのメリット、その実践に必要な知識を学ぶ。</p>		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 動物介在療法とは、馬介在療法とは 日本や世界で行われている動物介在療法を知る。そしてその中で特に馬を扱ってリハビリテーションを行う馬介在療法とは何かを学ぶ。 2 馬という動物について 馬の生理、運動、解剖学的な知識、馬の生態やについて学ぶ。 3 馬と人の関係について 人と馬が共に共存していく歴史を学び、人と馬の関係性を歴史的に考えていく。」 4 人について 単に人の解剖、運動、生理学的視点だけでなく、馬に関わっているときの人の身体機能や精神機能について学ぶ 5 馬介在療法の効果について（身体機能面） 馬介在療法の中で、乗馬を利用し体幹機能の向上を目的としたヒポセラピーなど、身体機能への効果について学ぶ。 6 馬介在療法の効果について（精神機能面） 馬は人の幼児程度の知能と言われ、それが人にとってノンバーバルコミュニケーションを利用した精神機能面への効果が期待されるとされており、どのような効果が期待できるかを学ぶ。 7 馬介在療法の実践について 日本で理学療法士、作業療法士が実践しているホースセラピーはどのようなものがあるのかを学ぶ。 8 馬介在療法の運用について 馬介在療法を実施適応し実践していくための、運用方法や費用等について学び、理学療法士、作業療法士が実際の現場でどのように馬介在療法を実施するのかを学ぶ。 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 提出物および定期試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	必要に応じて、実際に馬との関わる機会を提供する。		

科目名 Course title	日常生活活動学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈、宮脇 孝治	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義・実技	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】 日常生活活動について概要・評価、および動作介助の技術について学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活活動の概要について説明できる。 ・日常生活活動の評価が出来る。 ・日常生活活動にかかわる基本的動作の介助が出来る。 		
授業計画 Course Content	<p>1～8 座学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活活動の概念と療法士の役割 ・日常生活活動別の問題点と援助の視点 ・日常生活活動の障害 ・評価の方法 <p>9～15 実技 ※詳細は初講の際に説明</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実技試験、筆記試験の合算		
教科書 Textbooks	<p>「ADL とその周辺 評価・指導・介護の実際 第3版」 医学書院 又は 「PT・OT ビジュアルテキスト ADL 第2版」 羊土社</p> <p>※変更の可能性あり</p>		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	<p>木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員10年の経験を有する。 宮脇教員：作業療法士として臨床経験8年の経験及び専任教員5年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	物理療法学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 眞吾	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】物理的なエネルギーを生体に活用する物理療法について、エネルギーの特性や適応・禁忌事項、および実施方法について学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>温熱療法について、エネルギーの特性、適応、禁忌、実施方法について説明できる。</p> <p>温熱療法について、実施ができる。</p> <p>寒冷療法について、エネルギーの特性、適応、禁忌、実施方法について説明できる。</p> <p>寒冷療法について、実施ができる。</p> <p>超音波療法について、エネルギーの特性、適応、禁忌、実施方法について説明できる。</p> <p>超音波療法について、実施ができる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 物理療法の目的、理学療法のなかでの位置づけ、物理療法各機器の概説 2 物理療法の対象と病理(炎症と創傷治癒)、物理療法の対象と病理(疼痛) 3 物理療法の対象と病理(筋トーン異常)、物理療法の対象と病理(運動制限) 4 温熱が全身、局所に与える影響① 5 温熱が全身、局所に与える影響② 6 ホットパック・パラフィン療法 7 ホットパック・パラフィンの演習 8 超音波療法① 9 超音波療法② 10 極超短波療法 11 極超短波療法・超音波療法の演習 12 寒冷療法 生理学的作用について 13 寒冷療法の目的・適応・禁忌について、RICE について 14 アイスマッサージ、アイスパック、コールドパック、コールドスプレー、持続的冷却装置の使用法、注意点などについて 15 アイスパック コールドパックの演習 <p>※詳細は初講の際に説明</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>毎回の講義での提出物を評価：50%</p> <p>筆記試験：50%</p> <p>合計：100%として評価する</p>		
教科書 Textbooks	「物理療法テキスト 改訂第3版」 南江堂		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員27年の経験を有する。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	地域臨床見学実習	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	4 5時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>到達目標</p> <p>(1) 職業人としての適正を理解することができる。</p> <p>(2) 対象者との適切な対人関係やスタッフとの適切な対人関係を構築できる。</p> <p>(3) 地域におけるリハビリテーションスタッフの業務と役割を理解することができる。</p> <p>(4) 患者（対象者）の持つ障害を ICF や ICDH を用いて分類し、それぞれの持つ問題の多様性を知ることが出来る。</p> <p>(5) 記録が出来る。</p>		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習成果と実習課題を総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	実習課題：実習日誌・感想文		
実務経験内容	<p>赤松教員：理学療法士として臨床経験 12 年及び専任教員 27 年の経験を有する。</p> <p>桶田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 18 年の経験を有する。</p> <p>梅田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 7 年の経験を有する。</p> <p>宮脇教員：理学療法士として臨床経験 8 年及び専任教員 5 年の経験を有する。</p> <p>高山教員：理学療法士として臨床経験 11 年及び専任教員 2 年の経験を有する。</p> <p>森谷教員：理学療法士として臨床経験 12 年及び専任教員 7 年の経験を有する。</p>		

講義概要

2025年度 理学療法学科
2年生

阪奈中央リハビリテーション専門学校
理学療法学科

《専門基礎分野》＝人体の構造と機能及び心身の発達＝

科目名 Course title	人間発達学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	荒川 鉄也	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	胎児期～老年期までの発達（変化）を考えていく。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 発達概念 2 発達理論 3 発達検査 4 姿勢反射・反応 5 運動発達（0～3ヶ月） 6 運動発達（4～6ヶ月） 7 運動発達（7～9ヶ月） 8 運動発達（10～12ヶ月） 9 運動発達（13ヶ月以降） 10 姿勢反射・反応と6歳までの発達 11 上肢の発達 12 ADLの発達（遊び・食事・排泄・更衣） 13 感覚・知覚・認知・社会性の発達 14 学童期・青年期・成人期・老年期の発達 15 補足講義・まとめ・復習 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「イラストでわかる人間発達学」 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		

＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	内科学 I	学 科 Department	共通
担当者名 Instructor	栗岡 英行	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>リハビリテーションが必要とされる患者さんでは、脳神経や筋骨格系の疾病のみならず種々の内臓疾患に罹患していることが多い。より有効なリハビリテーションを実施するためには、それら内臓疾患についての理解が不可欠である。</p> <p>内科学では、これまでに履修した解剖学、生理学、病理学の知識をもとに、様々な疾患について病態生理から症状、診断法（様々な検査を含む）、治療法、予後などを学ぶ。</p> <p>特に臨床現場で頻りに遭遇する疾患について理解を深めるとともに、過去の国家試験問題にも留意しながら学習をすすめる。さらに医療従事者の一員として必要とされる一般的な医学的知識の習得にもつとめる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 内科学総論；内科学とは、主な疾患 2 診療の基本；カルテと問診 3 診察法（1）；バイタルサインの見方・考え方 4 診察法（2）；身体所見の取り方と疾患 5 内科的検査法、主な症候、治療法の進歩 6 循環器疾患（1）；循環器解剖生理の復習、高血圧と低血圧、ショック 7 循環器疾患（2）；動脈硬化と虚血性心疾患（①） 8 循環器疾患（3）；虚血性心疾患（②）、心不全 9 循環器疾患（4）；不整脈 10 循環器疾患（5）；様々な心疾患（弁膜症、心筋疾患、先天性心疾患など） 11 循環器疾患（6）；動脈・静脈疾患、リンパ系疾患 12 呼吸器疾患（1）；呼吸器解剖生理の復習、呼吸器検査と症候 13 呼吸器疾患（2）；病原微生物と呼吸器感染症 14 呼吸器疾患（3）；閉塞性肺疾患と拘束性肺疾患 15 呼吸器疾患（4）；その他の肺疾患（腫瘍、胸膜疾患など）と呼吸不全 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（授業時間内）と期末試験による		
教科書 Textbooks	「なるほどなっとく！内科学 第3版」 南山堂		
備考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験36年の経験を有する。		

科目名 Course title	内科学Ⅱ	学 科 Department	共通
担当者名 Instructor	栗岡 英行	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>リハビリテーションが必要とされる患者さんでは、脳神経や筋骨格系の疾病のみならず種々の内臓疾患に罹患していることが多い。より有効なリハビリテーションを実施するためには、それら内臓疾患についての理解が不可欠である。</p> <p>内科学では、これまでに履修した解剖学、生理学、病理学の知識をもとに、様々な疾患について病態生理から症状、診断法（様々な検査を含む）、治療法、予後などを学ぶ。</p> <p>特に臨床現場で頻りに遭遇する疾患について理解を深めるとともに、過去の国家試験問題にも留意しながら学習をすすめる。さらに医療従事者の一員として必要とされる一般的な医学的知識の習得にもつとめる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 消化管疾患（1）；消化器解剖生理の復習、口腔～小腸までの疾患 2 消化管疾患（2）；大腸～肛門までの疾患、消化器腫瘍 3 肝臓・胆嚢・膵臓疾患（1）；肝臓・胆嚢・膵臓解剖生理の復習、肝炎・肝硬変・肝癌ほか 4 肝臓・胆嚢・膵臓疾患（2）；胆石・胆嚢炎、膵炎、膵癌など 5 代謝性疾患（1）；糖尿病 6 代謝性疾患（2）；肥満症・メタボリック症候群・脂質異常症・痛風・骨粗鬆症など 7 内分泌疾患 ；内分泌解剖生理の復習、主な内分泌疾患 8 血液疾患（1）；血液解剖生理の復習、貧血 9 血液疾患（2）；血液の腫瘍、造血幹細胞移植、出血性疾患 10 アレルギー・膠原病疾患（1）；アレルギー総説、主なアレルギー疾患 11 アレルギー・膠原病疾患（2）；自己免疫疾患総論、主な膠原病疾患 12 腎・泌尿器科疾患（1）；腎・泌尿器の解剖生理の復習、腎不全と透析・移植療法 13 腎・泌尿器科疾患（2）；主な腎疾患・泌尿器科的疾患 14 感染症（1）；感染症総論（感染経路、感染予防対策、治療法など） 15 感染症（2）；感染症各論（代表的な感染症） 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（授業時間内）と期末試験による		
教科書 Textbooks	「なるほどなっとく！内科学 第3版」 南山堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験36年の経験を有する。		

科目名 Course title	臨床神経学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森下 真次	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>神経疾患とは何かを知る。 神経解剖学・神経生理学を通し、神経症状を理解する。</p> <p>神経疾患特有の症候・検査を知る。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 神経系の構造と機能① 2 神経系の構造と機能② 3 運動とその障害 4 感覚とその障害 5 自律神経系 6 脳神経系 7 意識障害 8 頭痛 9 てんかん 10 神経診断法 11 末梢神経疾患 12 脊髄疾患 13 脳髄疾患 14 高次脳機能障害① 15 高次脳機能障害② 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 選択式		
教科書 Textbooks	「病気がみえる⑦ 脳・神経 第2版」 メディックメディア		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験39年の経験を有する。		

科目名 Course title	臨床神経学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森下 真次	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	各神経疾患につき病態を理解し、治療法を知る。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 抹消神経疾患／脱髄性疾患 2 神経変性疾患 1 3 神経変性疾患 2 4 筋疾患／代謝性神経障害 5 感染性疾患 6 認知症 7 頭痛、てんかん、復習 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	テストによる評価		
教科書 Textbooks	「病気がみえる⑦ 脳・神経」 メディックメディア		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験39年の経験を有する。		

科目名 Course title	整形外科学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	寺西 朋裕	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	整形外科の基礎を修得の上、臨床応用への対応を学ぶ。続いて日常診療で遭遇する運動器疾患について学ぶ。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 整形外科的基礎知識 2 整形外科治療法 3 整形外科疾患総論 4 炎症性疾患 5 代謝・退行性疾患 6 先天性疾患① 7 先天性疾患② 8 循環障害と壊死疾患① 9 循環障害と壊死疾患② 10 骨・軟部腫瘍① 11 骨・軟部腫瘍② 12 神経・筋疾患① 13 神経・筋疾患② 14 脊椎の疾患① 15 脊椎の疾患② 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	講義終了後、試験を行って評価する。		
教科書 Textbooks	「標準整形外科学 第15版」 医学書院 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第5版」 医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験31年の経験を有する。		

科目名 Course title	整形外科学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	寺西 朋裕	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	脊椎疾患、外傷性疾患について学び、臨床能力のさらなる向上を図る。		
授業計画 Course Content	1 骨折① 2 骨折② 3 脊髄損傷① 4 脊髄損傷② 5 脊髄損傷問題 6 捻挫・脱臼 7 神経障害① 8 神経障害② 9 末梢神経損傷 10 腱・靭帯損傷 11 スポーツ障害① 12 スポーツ障害② 13 タナ障害 14 熱傷 15 切断・離断		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	講義終了後、試験を行って評価する。		
教科書 Textbooks	「標準整形外科学 第15版」 医学書院 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第5版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験31年の経験を有する。		

科目名 Course title	外科・救急医学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	中江 晟	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	理学療法士として必要な外科学の知識を取得する。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 外科の歴史 2 外科学総論 3 外科学総論、損傷、創傷 4 外科学総論、熱傷 5 ショック・感染症 6 救急 7 手術供覧 8 器具供覧 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	考査による		
教科書 Textbooks	「STEP 外科 ①外科総論・脳神経外科 第2版」海馬書房		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験47年の経験を有する。		

科目名 Course title	精神医学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>現代の主要な精神疾患について医学的に理解する。</p> <p>疾患に限らず精神の様々な問題について考える。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 講師の自己紹介 授業の概要 症例 アルツハイマー型認知症 2 症例 脳血管性認知症 ニューロンとシナプス 心とは 3 症例 統合失調症 統合失調症ノート 4 症例 統合失調症残遺状態 統合失調症治療 リハビリテーション 5 症例 うつ病 うつ病ノート 6 症例 アルコール依存 アルコール依存ノート 7 症例 パニック障害 8 症例 PTSD 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版増補版 医学書院		
備 考 Other Comments	作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員7年の経験を有する。		

科目名 Course title	小児科学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	西野 正人	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>基本的にはテキストを中心に、小児の特徴・疾患について講義します。医師・看護師のカルテ内容を把握して、治療を協力して行える力をつけるようにスライド等資料を活用しながら、短時間の講義時間内でも、小児の特殊性を理解してもらいます。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 小児の成長と発育に関して様々な症例を紹介し、合わせて小児科学概論、栄養、保健（健診等）についても随時触れてゆきたい。代謝疾患、内分泌疾患についても触れる。 2 感染症の数々の症例（写真を中心とした）を通して小児への感染症、消化器疾患を理解して頂く。 3 血液疾患を通じて、免疫や膠原病についても触れて理解を深めて頂きたい。 4 腎疾患を通して腎の生理、免疫、アレルギー、膠原病についても随時触れてゆきたい。 5 新生児・未熟児疾患、先天異常と遺伝症 6 神経・筋・骨系疾患 7 循環器疾患、呼吸器疾患 8 習癖・睡眠関連疾患・心身医学的疾患・虐待、重症心身障害児 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	臨床心理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小澤 裕子	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	4期の人生プロセスにそって代表的ストレス症状の原因と治療を理解する。自他ともに役立つ内容とする。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どものストレス症状① 夜尿 2 子どものストレス症状② チック・喘息 3 思春期のストレス症状① 登校拒否 4 思春期のストレス症状② 拒食症 5 中年期のストレス症状 うつ その① 6 中年期のストレス症状 うつ その② 7 老年期のストレス症状 認知症、死の心理学 8 まとめ（国試概説） 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	論述式の筆記試験（持込不可）により全体的な理解力と表現力を評価します。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	テキストは使用せず、毎回レジュメを配布します。 講義内容については変更する場合がある。		

＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	リハビリテーションⅢ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 真吾	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>平均生存率（平成 29 年）が男性 81 歳女性 87 歳とますます高齢化社会が進む現在の日本におけるリハビリテーション医療の重要性を理解し、リハビリテーション医療が取り組む高齢者に多い主要な疾患とその障害についての基本的な病態を講義する。その上で個々の疾患からくる機能障害だけでなく、その障害を持って生きてゆく人たちが対面する社会的障害に対する対応もリハビリテーション医学の領域であり障害の有無に関わらず全ての人が平等に生きられる社会にすることがリハビリテーション医療の使命であることを理解できるように講義を行いたい。</p>		
授業計画 Course Content	<p>（15時間で行う）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 リハビリテーション医学・医療の基本概念 2 リハビリテーション医学とチーム医療 3 リハビリテーション医学における障害受容の心理 4 高齢者のリハビリテーション ロコモチーブシンドローム、フレイル、転倒、骨折、廃用症候群 5 脳血管障害のリハビリテーション 認知症と高次脳機能障害 6 神経難病のリハビリテーション（パーキンソン病他） 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席点、小テスト、筆記試験を総合して評価する。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	限られた講義時間のなかでリハビリテーション医学の基本概念と高齢者の身体機能を含めてより多く発症する病態を中心に講義を行う。		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 12 年及び専任教員 27 年の経験を有する。		

《専門分野》＝基礎理学療法学＝

科目名 Course title	臨床運動学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 演習	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>解剖学，基礎運動学で学習した知識を基に基本的動作について学習を進める。</p> <p>寝返り・起き上がり・立ち上がり・その他の動作についてメカニズムを理解し，動作観察と分析を行う。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 総論・寝返り 2 寝返り 3 寝返り 4 起き上がり 5 起き上がり 6 起き上がり 7 立ち上がり 8 立ち上がり 9 着座 10 歩行 12 歩行 13 歩行 14 その他動作 15 まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践」 メジカルビュー社		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 18 年の経験を有する。		

科目名 Course title	臨床運動学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>上肢・下肢・体幹における身体構造と機能、および生体力学や運動学などの専門基礎課程で学習した内容をもとに、病態と合わせて病態運動学として理解を深める。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 股関節の解剖と症例検討 ① 2 股関節の解剖と症例検討 ② 3 股関節の運動学と生活動作への影響 4 膝関節の解剖と運動学、運動力学 5 膝関節の運動連鎖と症例検討（評価と動作分析）① 6 膝関節の運動連鎖と症例検討（評価と動作分析）② 7 手関節の運動学と動作分析 8 脊椎の解剖学と運動学 9 脊椎の疾患別評価 ① 10 脊椎の疾患別評価 ② 11 足関節の解剖学と運動学 12 足関節の機能障害と運動学 ① 13 足関節の機能障害と運動学 ② 14 肩関節の運動学総論 15 肩関節の疾患別運動学 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「観察による歩行分析」 医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容			

科目名 Course title	動作分析学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	中本 隆幸	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>動作観察・分析について学習する。</p> <p>動作分析（観察）は、理学療法士において必要不可欠な評価方法であるが、評価尺度が決まっていないため、評価方法の中でも難しい分野である。基礎を再確認し、具体的な症例を提示することにより、理解を深めることがねらいである。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 理学療法・理学療法評価法を再確認する 2 理学療法士における動作分析学の必要性を整理する 3 基礎運動学・臨床運動学における動作分析に関する整理 4 立位姿勢についての動作観察・動作分析 5 歩行についての動作観察・動作分析 6 それ以外の動作についての動作観察・動作分析Ⅰ ①寝返り ②起き上がり 7 それ以外の動作についての動作観察・動作分析Ⅱ ③座位姿勢 ④床からの立ち上がり 8 それ以外の動作についての動作観察・動作分析Ⅲ ⑤立ち上がり ⑥片脚立位 ⑦その他 9 正常と臨床動作の観察・分析の整理とまとめ 10 VTR 症例による動作観察・動作分析① 11 VTR 症例による動作観察・動作分析② 12 VTR 症例による動作観察・動作分析③ 13 VTR 症例による動作観察・動作分析④ 14 VTR 症例による動作観察・動作分析⑤ 15 VTR 症例による動作観察・動作分析⑥ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	定期試験		
教科書 Textbooks	「動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践」 メジカルビュー社		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験35年の経験を有する。		

＝理学療法評価学＝

科目名 Course title	理学療法評価学Ⅲ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高山 弘幹、森谷 伸樹	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／2単位
授業方法 Teaching Methods	75時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 CourseDescription・ Course objectives	神経学的検査と評価および整形外科的検査法の理解と実践について学習する。 到達目標は、神経学的検査と評価について理解し、実施できる。 また、整形外科的検査法について理解し、実施できる。		
授業計画 Course Content	1－27：神経学的検査・バランス検査 28－38：整形外科テスト 1 <神経学的検査総論> 評価学とは、神経学的検査とは 2 筋緊張、姿勢筋緊張とは、姿勢反射について 3 筋緊張異常から生じる異常動作と異常歩行 4 筋緊張の評価方法 5 深部腱反射の検査意義について 6 深部腱反射のメカニズム 7 深部腱反射の検査方法の解説①（上肢） 8 深部腱反射の検査方法の解説②（下肢） 9 錐体路と錐体路障害の解説 10 病的反射の評価意義と検査方法の解説、運動機能検査の解説 11 BRST、SIAS 12 運動麻痺と検査 13 脳神経検査について（概論） 14 脳神経検査の紹介と実践 15 感覚検査について（概論） 16 神経生理（感覚神経） 17 感覚検査の実践（表在感覚） 18 感覚検査の実践（深部感覚） 19 感覚検査の実践（温痛覚、2点識別、立体など） 20 不随運動 21 小脳の働きについて 22 失調の検査方法の解説①（上肢） 23 失調の検査方法の解説②（下肢） 24 協調性、失調について 25 バランス評価 26 バランス評価 BBS と転倒の評価 27 患者を想定した実践：CVA、脊髄損傷、糖尿病、末梢神経障害 28 <整形外科テスト> 各関節についての代表的な整形外科的検査法について学習 腰部骨盤① 29 腰部骨盤② 30 股関節 31 足関節 32 膝関節① 33 膝関節② 34 肩関節① 35 肩関節② 36 肘・前腕・手関節 37 頸椎 38 整形外科テストまとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価	筆記試験と実技試験にて評定する。変更がある場合は各教員の初講で説明する。		
教科書 Textbooks	「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」 南山堂 適切な判断を導くための整形外科徒手検査法 メジカルビュー社 「絵で見る脳と神経 しくみと障害のメカニズム 第4版」 医学書院		
備 考			
実務経験内容	森谷教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員7年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験11年及び専任教員2年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法評価演習ⅡA	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数教員（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／2単位
授業方法 Teaching Methods	45時間／講義・演習	実務経験	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	<p>理学療法評価プロセスは対象者の社会レベル、能力レベル、機能レベルの問題を抽出し、その問題解決策をプランニングする過程である。問題の抽出、治療プランの立案は解剖学、生理学、運動学等の基礎医学的知識、整形外科、脳神経外科、内科学などは臨床医学的知識、さらには理学療法評価学や理学療法治療学的知識を統合しなければ成し遂げることはできない。つまり評価演習は総合教育・実践教育に位置付けられる。また理学療法は人間を対象とするため、知識、技術だけでなくコミュニケーションやマナー、配慮も必要不可欠であり、評価演習ではこれらの対人スキル含め能力向上を図る。下記①-⑤の向上を目標に授業を展開する。</p> <p>【目標】 臨床現場（実習）を想定したシミュレーションを通じ対人スキルの向上 問題解決能力の向上 実践の中での学習方法の確立 自己教育（育成）力の向上 理学療法評価プロセスの経験 統合と解釈の理解と実践 IDH から ICF への展開</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・症例提示（THA） 2 検査測定の実践① 3 検査測定の実践② 4 グループディスカッション（対人スキル・リスク管理） 5 実技練習① 6 実技練習② 7 実技練習③ 8 実技試験 9 実技試験（中間試験） 10 グループディスカッション・グループフィードバック 11 評価プロセス説明・Case2 症例提示（TKA） 12 グループディスカッション・グループフィードバック（疾患・手術から Imp 予測） 13 既往・合併症から Imp 予測、糖尿病に関する症状・治療について 14 社会的背景から能力障害を予測 15 併存症についてのリスク管理 16 検査測定方法と計画 17 実技練習 18 検査結果の提示 統合と解釈（経過要約・HとD・リスク管理） 19 個別フィードバック 20 統合と解釈（DとIの関係性） 21 個別フィードバック 22 統合と解釈（Iの原因追究） 23 まとめ 個別フィードバック 		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	演習内容（評価表）実技試験の両方で評定する。		
教科書 Textbooks	「リハビリテーション リスク管理ハンドブック 第4版」 メジカルビュー社		
備考 Other Comments			
実務経験内容	<p>赤松教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員27月分年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験5年及び専任教員18年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験5年及び専任教員7年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験8年及び専任教員5年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験11年及び専任教員2年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員7年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	理学療法評価演習ⅡB	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数教員（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／2単位
授業方法 Teaching Methods	45時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>理学療法評価はボトムアップリーズニングとトップダウンリーズニング双方の利点を活かし、はじめて障害の全容を明らかにできる。評価演習ⅡBでは脳血管障害を題材にトップダウンリーズニングによる理学療法評価プロセスを学ぶ構成としている。脳血管障害は多彩な障害像を呈する。多くの場合、関節可動域障害、筋力低下だけでなく、筋緊張異常や感覚障害が動作障害に関与するため、統合と解釈では高い情報処理能力が求められる。また神経系の検査・測定は状況や目的に応じ方法を工夫しなければ意味のある結果を残せない。トップダウンリーズニングによる脳血管障害の評価の難易度は高いが、一連の取り組みにより習得できるものも多いと考える。</p> <p>さらに評価演習ⅡBは実際の患者様に協力いただいている。極めて現場に近い環境で実践的な対人スキル、リスク管理能力、技術、学力を高めるとともに、医療者、治療者としてのあり方や倫理観を深めて欲しい。下記①-⑤を到達目標として授業を展開する。</p> <p>【目標】 ①症例との関わりを通じた対人スキルの向上 ②症例の生活上の問題、症例の要望に即した評価の実践 ③動作観察、分析能力の向上 ④神経系の理学療法評価技術の向上 ⑤トップダウンリーズニングによる統合と解釈の理解と実践</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 症例情報からリスクの確認と管理方法の検討 2 医療面接の目的と情報収集項目、基本動作能力確認の意義 3 医療面接の実践 1 4 医療面接の実践 2 5 動作観察項目および動作観察条件の検討 1 6 動作観察項目および動作観察条件の検討 2 7 リスク管理方法の検討、動作観察の計画・準備 8 動作観察事前練習 9 動作観察の実践 10 動作観察の記録 11 動作分析 姿勢動作障害の仮説立案 1 12 動作分析 姿勢動作障害の仮説立案 2 13 中枢神経障害に対する評価 14 検査実施計画 1（リスク管理方法を含む）。 15 検査実施計画 2 16 検査実技練習 17 検査の実践 1 18 検査の実践 2 19 検査の解釈 20 統合と解釈 HとDとの関係 21 統合と解釈 DとIとの関係 22 統合と解釈 Iの原因追及 23 統合と解釈 予後予測 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験50点に演習内容（評価表）50点の合計点。		
教科書 Textbooks	なし		
備考 Other Comments	デイリーノート レポート・レジュメの作成		
実務経験内容	<p>赤松教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員27月分年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験5年及び専任教員18年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験5年及び専任教員7年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験8年及び専任教員5年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験11年及び専任教員2年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員7年の経験を有する。</p>		

＝理学療法治療学＝

科目名 Course title	物理療法学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 眞吾	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	物理療法学Ⅱでは水治療法、圧迫療法、電気療法、光線療法、牽引療法について学習する。物理療法学Ⅰと同様にこれらの治療がもたらす効果のメカニズムを生理学的知見交えて学習する。各療法の適応、禁忌についても生理学的背景に基づいて理解を促す。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 水治療法 静水圧 浮力が身体に及ぼす影響 2 水治療法 水の抵抗 水温と生理的反応、水中運動療法効果と禁忌 3 渦流浴 各温度と効果 禁忌、上肢用 下肢用 渦流浴の体験 4 圧迫（浮腫除去）療法 浮腫のメカニズム 疾患と浮腫 5 弾性包帯の巻き方 実技 6 オリエンテーションと電気療法の基礎 7 神経筋電気刺激/治療的電気刺激 8 経皮的電気刺激/機能的電気刺激 9 光線療法の特徴と皮膚整理機能 10 紫外線療法/赤外線療法 11 レーザー療法/持続的他動運動（CPM療法） 12 牽引療法 13 牽引療法 実技、総復習 14 国家試験問題解説 15 総復習 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席点、小テスト、筆記試験を総合して評価		
教科書 Textbooks	「物理療法学テキスト 改訂第3版」 南江堂		
備 考 Other Comments	電気療法、圧迫療法の演習 適時小テストの実施		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験12年及び専任教員27年の経験を有する。		

科目名 Course title	義肢装具学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	橋本 寛	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	義肢装具士
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	<p>義肢の概観を学び、リハビリテーションとの関連や基本原理を講義します。基本的な義肢装具の用語や概念が説明でき、基本原理を理解応用できるようになることを到達目標とします。見本や臨床例などを交えて講義を行います。アクティブラーニングの手法を織り交ぜて実施しますので、積極的に参加してください。また他の専門科目の知識を活用して理解を深めるようにしてください。</p>		
授業計画 Course Content	<p>※（ ）内は教科書の章 例：1-1…第1章1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 義肢装具 総論 切断とリハビリテーション（1-1, 1-2） 2 義手概論（種類、名称、機能、構造） 3 義足の種類と構造① 下腿義足（2-4） 4 義足の種類と構造② 足部 ミニグループワーク下腿義足（2-4） 5 義足の種類と構造③ 大腿義足（2-4） 6 義足の種類と構造④ 大腿義足 7 下肢切断のリハビリテーション（2-5, 2-6） その他の義足、大腿義足、下腿義足のリハビリテーション1-11, 12, 13） 8 スポーツ義足（2-7） 義肢まとめグループワーク 9 装具とリハビリテーション（3-1） 10 脳卒中片麻痺の装具①（3-2） 11 脳卒中片麻痺に装具②（3-2） 長下肢装具のチェックアウト、下肢装具実習 12 脳卒中片麻痺の装具③（3-2） 13 脊髄損傷の装具（3-3） 14 様々な装具 運動器疾患の装具、側弯症装具（3-4, 5） 小児疾患の装具 足部障害の装具（3-6, 7） 15 義肢装具学まとめ グループワーク（課題割り当て） <p>※・授業の進捗状況に応じて、進度を変更することがあります。 ・理解する項目や覚える事柄が多く出てきます。各回で復習をいれますので、丸写しにせず、“思い出す努力”をしながら理解し、ほかの人に説明できるようになってください。 ・適宜討論や発表、指名発言を求めますので、積極的に参加してください。</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>最終試験合計60%以上を合格とします。試験範囲は教科書及び講義中の配布資料とします。</p>		
教科書 Textbooks	<p>「Crosslink 理学療法学テキスト 義肢装具学」 メジカルビュー社</p>		
備 考 Other Comments	<p>教科書「義肢装具学」（「Crosslink 理学療法学テキスト メジカルビュー社」）を使用し、不足部分を講義の配布資料で補います。平常点は、授業への積極的な参加（発表、討議、質問）とします。</p>		
実務経験内容			

科目名 Course title	義肢装具学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>切断患者に対する理学療法士の役割を理解する</p> <p>断端管理を理解し、弾性包帯を断端に巻くことができるようになる</p> <p>義足装着前後の理学療法を理解する</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 下肢切断 概論 2 切断術後の機能障害 3 切断術後の断端管理 4 義肢について 5 義肢アライメントについて 6 下肢切断患者の評価 7 下肢切断患者の理学療法（訓練） 8 模擬義足でのアライメント修正・訓練 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験5年及び専任教員18年の経験を有する。		

科目名 Course title	日常生活動作学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森谷 伸樹	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	臨床および国家試験で頻出の疾患について復習すると共に、その疾患における日常生活動作の特徴を学ぶ。		
授業計画 Course Content	<ul style="list-style-type: none"> 1 ADL 概論 2 脳血管障害の ADL 3 脳血管障害の ADL 4 脊髄損傷の ADL 5 脳性麻痺の ADL 6 関節リウマチの ADL 7 人工股関節全置換術の ADL 8 切断の ADL 9 呼吸器疾患の ADL 10 循環器疾患の ADL 11 パーキンソン病、脊髄小脳変性症の ADL 12 筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症の ADL 13 筋ジストロフィーの ADL 14 高次脳機能障害の ADL 15 自宅退院を想定した ADL 評価 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第6版（医学書院）		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	神経理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／2単位
授業方法 Teaching Methods	45時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	脳卒中片麻痺の障害像と理学療法評価について、講義資料・書籍を使用し、なるべく理解しやすいようにすすめる。VTRを用いて、視覚的な理解を深めるとともに、実技も多く取り入れ、障害像の理解を深める。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 脳卒中片麻痺の概論 片麻痺の障害像（1）感覚障害、運動障害、脳神経障害、構音障害、嚥下障害 2 脳卒中片麻痺の概論 片麻痺の障害像（1）感覚障害、運動障害、脳神経障害、構音障害、嚥下障害 3 片麻痺の障害像（2）意識障害、高次脳機能障害 4 片麻痺の障害像（2）意識障害、高次脳機能障害 5 片麻痺の障害像（3）陽性徴候と陰性徴候について 主な合併症、呼吸器系の異常、廃用症候群、過用症候群 6 片麻痺の障害像（3）陽性徴候と陰性徴候について 主な合併症、呼吸器系の異常、廃用症候群、過用症候群 7 片麻痺の障害像（4）立ち直り反応、平衡反応、姿勢筋緊張、筋緊張の評価、バランスの評価 8 片麻痺の障害像（4）立ち直り反応、平衡反応、姿勢筋緊張、筋緊張の評価、バランスの評価 9 片麻痺の評価（1）症例を通じて評価の意義を理解する 10 片麻痺の評価（1）症例を通じて評価の意義を理解する 11 片麻痺の評価（2）評価項目について、プルンストロームテスト、片麻痺の回復過程について 12 片麻痺の評価（2）評価項目について、プルンストロームテスト、片麻痺の回復過程について 13 片麻痺の評価（3）片麻痺の評価に対する考え方 歩行パターン、分まわし、反張膝、尖足位の異常歩行をグループで分析 14 片麻痺の評価（3）片麻痺の評価に対する考え方 歩行パターン、分まわし、反張膝、尖足位の異常歩行をグループで分析 15 片麻痺の評価（4） 前回のつづき 16 片麻痺の評価（5） 前回のつづき 17 CVAの原因とリスク 18 筋緊張・感覚の評価と治療 19 歩行の評価と治療 20 症例検討評価 21 症例検討評価と治療プログラム 22 症例検討評価と在宅目指しての治療プログラム 23 実技（臥位や立位への促通など） 		
成績評価の方法・ 基準・評価	筆記試験		
教科書	「脳卒中理学療法の理論と技術 改訂第3版」 メジカルビュー社 「脳卒中の治療・実践神経リハビリテーション」 市村出版		
備 考	PC、プロジェクター、DVD、実技室等も用いる		

科目名 Course title	小児理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	荒川 鉄也	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>正常発達と異常発達についての理解を深める。</p> <p>小児疾患についての理解を深め、理学療法を行う上での知識・技術を習得する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 小児理学療法の総論・運動発達を理解 2 正常発達 / 粗大運動・微細運動の発達 3 発達と評価 4 正常姿勢反射① 5 正常姿勢反射②・異常姿勢反射 6 脳性麻痺に対する理学療法 総論 7 脳性麻痺に対する理学療法 痙直型① 8 脳性麻痺に対する理学療法 痙直型② 9 脳性麻痺に対する理学療法 アテトーゼ型 10 小児整形外科疾患に対する理学療法 11 重症心身障害に対する理学療法 12 筋ジストロフィーに対する理学療法 13 ダウン症候群に対する理学療法 発達障害に対する理学療法 14 ハイリスク児・低出生体重児・小児呼吸器障害児に対する理学療法 15 まとめ・復習 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法学 小児理学療法学テキスト 改定第3版」 南江堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験13年の経験を有する。		

科目名 Course title	脊髄損傷理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	宮下 創	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	脊髄損傷の病態と理学療法について講義と実技をとおして学習する。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 脊髄損傷の総論 2 脊髄損傷の疫学 3 脊髄損傷の予後 4 脊髄損傷のの評価（完全損傷） 5 脊髄損傷の評価（不完全損傷） 6 脊髄損傷の運動療法（完全損傷） 7 脊髄損傷の運動療法（不完全損傷） 8 脊髄損傷の動作分析（実技） 9 脊髄損傷の運動療法（実技） 10 脊髄損傷の介助誘導方法 11 回復期リハビリテーションにおける脊髄損傷の理学療法 12 急性期リハビリテーションにおける脊髄損傷の理学療法 13 脊髄損傷の合併症 14 脊髄損傷の車いす操作方法 15 まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版」 文光堂		
備 考 Other Comments	実技を行うため、ジャージ着用のこと。		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験14年の経験を有する。		

科目名 Course title	運動器理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師・教員（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／2単位
授業方法 Teaching Methods	45時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>○股関節障害の代表的変形性股関節および大腿骨頸部骨折の理学療法について概説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変形性股関節症 病態生理・評価の画像評価が説明できる。 ・大腿骨近位部骨折 病態生理・評価の説明ができる。 <p>○臨床でよく遭遇する腰椎関連疾患を中心に、病態とその評価・治療方法について実技指導も踏まえて講義する。</p> <p>○膝関節疾患（OA・TKA・骨折・ACL-R）の病態解釈から理学療法について、実技を含めた講義を実施する。</p> <p>○臨床現場でよく遭遇する足関節疾患を中心に急性期～機能回復期の理学療法プロセスについて評価・治療方法（実技指導）を踏まえて講義する。</p> <p>○臨床現場で診療することが多い肩関節疾患を中心に、病態や解釈の仕方・病態に応じた評価及び治療について講義する。また評価・治療に関しては、実技での演習も行いながら、実際に体験していただきながら講義を行う。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 変形性股関節症について 2 大腿頸部・転子部骨折について 3 股関節疾患の評価実技を行う 4 超音波エコー：エコーの基礎 5 超音波エコー：足関節 6 超音波エコー：膝関節 ① 7 超音波エコー：膝関節 ② 8 超音波エコー：肩関節 ① 9 超音波エコー：肩関節 ② 10 超音波エコー：肩関節 ③ 11 超音波エコー：まとめ <p style="text-align: center;">（評価：小テスト、定期テスト、レポート）</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<ol style="list-style-type: none"> 12 膝 OA・RA の病態や違いについて TKA 術後の理学療法 13 膝関節骨折（プラトー骨折・膝蓋骨骨折）術後の理学療法 14 ACL 損傷について、再建術後のメディカル・アスレティックリハビリテーション 15 非特異的腰痛の理学療法 16 椎体骨折並びに腰椎分離症の理学療法 17 腰部脊柱管狭窄症・腰椎椎間板ヘルニアの理学療法 <p style="text-align: center;">（評価：定期テスト）</p> <ol style="list-style-type: none"> 18 足関節疾患（足関節果部骨折）の病態解釈と理学療法 19 足関節疾患（アキレス腱断裂など）の病態解釈と理学療法 20 足関節疾患（足関節捻挫）の病態解釈と理学療法 21 肩関節疾患（肩関節周囲炎）の病態解釈と理学療法 22 肩関節疾患（腱板断裂）の病態解釈と理学療法 23 肩関節疾患（上腕骨近位部骨折）の病態解釈と理学療法 <p style="text-align: center;">（評価：筆記試験の点数）</p> <p>学習課題ノートの作成を評価し、補点を行う（千葉先生）</p>		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法 運動器障害理学療法学テキスト 改訂第2版」 南江堂		
備考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	神経筋難病理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	向井 公一	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>理学療法の対象患者の中に、神経難病と言われる疾患を抱える方々が多い。中でも、神経筋疾患は重篤な機能障害や活動制限を有することがあり、理学療法の重要性が言われる。</p> <p>この神経筋疾患の疾患概要と理学療法の繋がりについて学ぶ。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス / 多発性硬化症について 2 多発性硬化症の理学療法について 3 錐体外路系疾患について① 4 錐体外路系疾患について② 5 脊髄小脳変性症について① 6 脊髄小脳変性症について② 7 筋委縮性側索硬化症について① 8 筋委縮性側索硬化症について② 9 筋委縮性側索硬化症について③ 10 ギランバレー症候群について① 11 ギランバレー症候群について① 12 筋疾患について (DMD、PN、MG) ① 13 筋疾患について (DMD、PN、MG) ② 14 筋疾患について (DMD、PN、MG) ③ 15 まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>定期試験と日々の出席を総合的に勘案して評価を行います。</p> <p>実技を含むため、できる限り出席すること。</p>		
教科書 Textbooks	<p>「シンプル理学療法学シリーズ 神経筋障害理学療法学テキスト 第3版」 南江堂</p>		
備 考 Other Comments	<p>実技も含めて行うので、実習のできる格好で臨むこと (実習は事前に通知)</p>		
実務経験内容	<p>理学療法士として臨床経験20年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	呼吸理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>講義概要</p> <p>呼吸管理に必要な解剖・生理学の復習と血液ガスの解釈、肺機能とその検査法について 呼吸器疾患に対する評価・治療の流れと、リハビリテーションに必要な知識について</p> <p>到達目標</p> <p>座学の知識から臨床思考へ移行する1歩目にし、興味を持つきっかけにすると共に呼吸に関する評価 項目の列挙が、疾患別また症状別にできる。</p> <p>また血液ガスの解釈、肺機能とその検査法から必要な情報を読み取りリスク管理・病態把握 に繋げ、解剖・生理学の知識から呼吸器疾患のより深い理解や理学療法の対象を明確化でき る。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに呼吸療法総論 2 呼吸管理に必要な解剖・生理 3 血液ガスの解釈 4 呼吸リハビリテーションの評価。ADL・QOLの評価 5 呼吸不全の概念と病態 6 各疾患別の病態と理学療法（COPD） 7 各疾患別の病態と理学療法（拘束性肺疾患） 8 各疾患別の病態と理学療法（ARDSの呼吸管理と理学療法） 9 各疾患別の病態と理学療法（睡眠時無呼吸症候群、肺がん） 10 各疾患別の病態と理学療法（肺炎） 11 開胸術後の理学療法 12 人工呼吸器とその適応・離脱 13 在宅での呼吸リハビリテーション、在宅人工呼吸療法 14 新生児・乳幼児の呼吸管理 15 排痰法、気管吸引 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法シリーズ 内部障害 理学療法テキスト改訂第3版」 南江堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験5年及び専任教員7年の経験を有する。		

科目名 Course title	心血管理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	原田 靖章	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>循環器疾患に関する理解を深め、リハビリテーションを行う目的を学ぶ。</p> <p>循環器疾患に対するリハビリ（心臓リハビリテーション）を行う上での評価、方法、リスク管理を理解する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 心臓リハビリテーション総論 2 循環器系の基礎（解剖、生理、血圧、心拍数） 3 心電図の基礎 4 運動負荷試験、運動生理 5 心筋梗塞（虚血性心疾患）に対するリハビリテーション 6 大動脈疾患、動脈系抹消循環障害に対するリハビリテーション 7 心不全に対するリハビリテーション 8 フィジカルアセスメント 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法シリーズ 内部障害 理学療法テキスト改訂第3版」 南江堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務 経験内容	理学療法士として臨床経験17年の経験を有する。		

科目名 Course title	糖尿病理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	糖尿病の内科的知識から理解を深める。その上で運動療法が糖尿病に与える効果や運動処方 of 根拠を基礎医学的な知見を踏まえ学習する。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 糖尿病とは 2 糖尿病の急性合併症 3 糖尿病の慢性合併症（網膜症） 4 糖尿病の慢性合併症（神経障害 腎症） 5 運動療法が糖尿病に与える効果 6 運動療法処方の実際とその理論的背景 1 7 運動療法処方の実際とその理論的背景 2 8 運動療法処方の実際とその理論的背景 3 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法シリーズ 内部障害 理学療法テキスト改訂第3版」 南江堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務 経験内容	理学療法士として臨床経験5年及び専任教員7年の経験を有する。		

科目名 Course title	スポーツ理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	本講義では、スポーツ障害に対する理学療法について解説する。スポーツ障害を下肢のスポーツ障害（足関節捻挫、膝前十字靭帯損傷、Jones 骨折など）、上肢のスポーツ障害（投球障害肩、野球肘など）、成長期のスポーツ障害（腰椎分離症、筋筋膜性腰痛症、オスグッド・シュラッター病、シンスプリントなど）プログラムについて解説し、実技含めて解説する。また、各疾患に対する理学療法実施場面における注意点や実際について解説する。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の進め方と評価についてオリエンテーション 2 足関節捻挫に対する理学療法 3 膝前十字靭帯損傷に対する理学療法 4 疲労骨折（Jones 骨折）に対する理学療法 5 投球障害肩に対する理学療法①前編 6 投球障害肩に対する理学療法②後編 7 野球肘に対する理学療法①前編 8 野球肘に対する理学療法②後編 9 投球障害肩に対する下肢・体幹への理学療法 10 腰椎分離症や筋筋膜性腰痛症に対する理学療法① 11 腰椎分離症や筋筋膜性腰痛症に対する理学療法② 12 オスグッド・シュラッター病やシンスプリントに対する理学療法① 13 オスグッド・シュラッター病やシンスプリントに対する理学療法② 14 成長期に対する理学療法の実際・注意点 15 スポーツ理学療法まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<ul style="list-style-type: none"> ・試験（筆記）35% スポーツ理学療法の意義や方法を理解しているか否かで評価する。 ・授業内課題 35% 授業内容を踏まえて、スポーツ理学療法の意義や方法について、論理的な考察を行い、適切にまとめられているかを評価する。 ・授業態度およびプレゼンテーション 30% グループで分担、協力し、責任をもってやり遂げたかを、次の観点から評価する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 実験プロトコルの内容と作成方法 2. 実験準備と手順 3. データ処理および発表資料の作成 4. 発表と質疑・応答の対応 		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	プリント配布予定		
実務経験内容			

科目名 Course title	動物介在療法学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	山本 妃呂己 磯脇 知世	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【講義概要】</p> <p>すでに1年次後期の動物介在療法Ⅰでは、馬介在療法（Horse-assisted Therapy）について概論的に学び、馬の特徴、人と馬の関係、人と馬の類似点、馬のリハビリテーションへの活用方法、馬と社会資源などについて大まかに知識を得た。</p> <p>この講義では、実際に馬介在療法を児童福祉施設で実践・活用している理学療法士、作業療法士をお招きし、馬介在療法の上でどのように実施して理学療法、作業療法を実践するのか、実践例や実技を交えて学んでいく。また、理学療法士、作業療法士が馬介在療法を使って支援する際、どのように評価、プログラム立案をするのか、その考え方の基礎を学ぶ。さらに、馬介在療法を実践する際は、数名のスタッフが連携して実施することが多いため、その際が多職種連携についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 馬介在療法を実践する上での理学療法的な評価の視点を理解する。 ② 馬介在療法を実践する上での作業療法的な評価の視点を理解する。 ③ 馬介在療法を実践する上での支援の基本的な考え方を理解する。 ④ リハ職が馬介在療法を実践する際が多職種の連携を理解する。 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 馬介在療法と理学療法について 理学療法士が馬介在療法を実践するとはどういうことか、専門性は何かについて学ぶ。 2 馬介在療法を介しての理学療法評価上の視点について 特に基本的な身体機能面を評価する際に重要な視点について学ぶ。 3 馬介在療法を介しての理学療法評価についての実践例 実際に馬を活用しての実技を通して、馬介在療法における理学療法評価の視点を学ぶ。 4 馬介在療法を介しての理学療法的支援について、多職種連携の視点について 理学療法計画を立てる際の重要な視点を学ぶ。また、馬介在療法は複数のスタッフで実践することが多いので、多職種の連携の必要性を学ぶ。 5 馬介在療法と作業療法について 作業療法士が馬介在療法を実践するとはどういうことか、専門性は何かについて学ぶ。 6 馬介在療法を介しての作業療法評価上の視点について 特に応用動作的な評価、精神機能面を評価する際に重要な視点について学ぶ。 7 馬介在療法を介しての作業療法評価についての実践例 実際に馬を活用しての実技を通して、馬介在療法における作業療法評価の視点を学ぶ。 8 馬介在療法を介しての作業療法的支援について、多職種連携の視点について作業療法計画を立てる際の重要な視点を学ぶ。また、馬介在療法は複数のスタッフで実践することが多いので、多職種の連携の必要性を学ぶ。 <p>※講義は、馬の体調や天候、学生の理解によって順番が変わることがある。</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	主に講義態度（出席など）と筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	馬を使った実践をするため、服装に留意すること。 動物アレルギーのある者は事前に申し出ること。		

科目名 Course title	パーソナルトレーニング論	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	杉本 拓也	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	本講義では、人々のスポーツをする・観る・読む・聞く等の要求を自身で理解し、対象者に対して適切なトレーニング方法を知ること、また、医療だけでなく、様々な状況を視野に入れながら対象者に適切なトレーニング方法を提供できるよう指導力を身につけるため、正しい指導法を理解することを目的とする。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 エクササイズサイエンス① 筋系・神経系・骨格系の構造と機能 2 エクササイズサイエンス② 生体エネルギー機構、レジスタントトレーニングへの適応 3 エクササイズサイエンス③ 有酸素性持久カトレーニング、栄養学 4 エクササイズテクニク① 柔軟性、自重、スタビリティーエクササイズ 5 エクササイズテクニク② レジスタントトレーニングのエクササイズ 6 エクササイズテクニク③ 持久カトレーニングのプログラムデザイン 7 エクササイズテクニク④ プライオメトリックトレーニングとスピードトレーニング 8 エクササイズテクニク⑤ アスリートを対象としたレジスタントトレーニング 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	理学療法士として臨床経験17年の経験を有する。		

＝地域理学療法学＝

科目名 Course title	生活環境論	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	成田 亜希	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>理学療法士が臨床で行う家屋評価・整備について理解する。</p> <p>福祉住環境整備の必要性、評価の重要性、対象者や家族への説明の重要性、整備の技術や手順、疾患別での特性などについて理解する。また、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、新バリアフリー法について理解する。</p> <p>家屋平面図の記載方法を理解する。</p> <p>事例を挙げ、家屋整備を検討する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者を取り巻く社会状況と住環境 2 高齢者を取り巻く社会状況と住環境 3 福祉住環境整備の共通基本技術 4 福祉住環境整備の共通基本技術 5 疾患別・障害別福祉住環境整備 6 疾患別・障害別福祉住環境整備 7 家屋平面図の記載について（自宅平面図を書こう！） 8 家屋平面図を作成し問題点・解決策を検討する（事例提示） 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>小テスト 課題（平面図） 筆記試験の合算</p>		
教科書 Textbooks	なし。適宜資料を配布する。		
備 考 Other Comments	<p>参考図書：「福祉住環境コーディネーター検定試験 2級テキスト 改訂6版」東京商工会議所 毎回、復習テスト（小テスト）を行います。必ず復習し、次の講義までに理解し、覚える習慣を身につけましょう！</p>		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	検査測定実習	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／2単位
授業方法 Teaching Methods	80時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>(1) 意義や目的を理解して、検査測定を実施すること。</p> <p>(2) オリエンテーション技術向上。</p> <p>(3) 可能な範囲で情報収集、面接、動作観察（できれば分析）、検査測定等を経験し、知識、技術を向上させること。</p> <p>(4) 評価実習の前段階として検査測定等から評価における専門知識と専門技術を整理すること。</p>		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習成果		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	課題：実習日誌、感想文		
実務経験内容	<p>赤松教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員27年の経験を有する。</p> <p>桶田教員：理学療法士として臨床経験5年及び専任教員18年の経験を有する。</p> <p>梅田教員：理学療法士として臨床経験5年及び専任教員7年の経験を有する。</p> <p>宮脇教員：理学療法士として臨床経験8年及び専任教員5年の経験を有する。</p> <p>高山教員：理学療法士として臨床経験11年及び専任教員2年の経験を有する。</p> <p>森谷教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員7年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	評価実習	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／4単位
授業方法 Teaching Methods	160時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>(1) 面接過程、評価過程に必要な知識・技術の整理をすること。</p> <p>(2) 評価過程（情報収集、面接、検査、測定、統合と解釈、問題点抽出）、目標設定、治療プログラム作成等を体験すること。</p> <p>(3) 治療実習の前段階として、評価から治療の専門知識と専門技術を整理すること。</p>		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習前評価を受講すること 実習成果と実習後評価の合算		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	課題：実習日誌、感想文、レジメ		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員27年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験5年及び専任教員18年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験5年及び専任教員7年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験8年及び専任教員5年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験11年及び専任教員2年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員7年の経験を有する。		

講義概要

2025年度 理学療法学科
3年生

阪奈中央リハビリテーション専門学校
理学療法学科

《専門基礎分野》＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	臨床薬学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	前田 和宏	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間 / 講義	実務経験 Experience	薬剤師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	薬理の理解に対し、薬物の基本および対象疾患と薬物療法、副作用の話を中心に行う。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 薬理学総論：医薬品とその適切な使用の根拠となる薬理学の基礎知識を深め、薬物療法の基礎概念を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の分類と法律・作用原理について（薬物動態・薬物代謝を含む） ・好ましくない副作用（有害作用）と薬物相互作用 ・リスクマネジメント（多剤服用症状を含む）と薬物依存・耐性 2 感染症、炎症の制御と薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどのようなものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び用法について学ぶ。 3 神経疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどのようなものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び用法について学ぶ。 4 精神疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどのようなものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び用法について学ぶ。 5 循環器系疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどのようなものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び用法について学ぶ。 6 疼痛の制御と薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどのようなものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び用法について学ぶ。 7 注意すべき頻用される薬物と要点チェック：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどのようなものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び用法について学ぶ。併せて講義の要点を復習する。 8 総復習 		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講試験にて、その習熟度を判定する。		
教科書 Textbooks	リハベーシック 薬理学・臨床薬理学		
備考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		

科目名 Course title	臨床栄養学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	安永 龍子 ・ 島村 知歩	期間及び単位 Term/Credits	3年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>(栄養学)</p> <p>目的：近年、リハビリテーションの効果と栄養をはじめとした身体状況との関連が注目をあびている。特に入院治療者には、低栄養状態も多いと報告され、栄養改善なしには治療効果は見込めない。今後、栄養状態の回復のためのチーム医療の一員として、また退院後の治療効果向上のための栄養学の知識を習得する。</p> <p>概要：①1日のエネルギー量の算出方法と摂取する食品群の量、主食・主菜・副食のバランスから「健康な食事」について知る。②「まれに・ときどき」見られる栄養素欠乏と身体的臨床所見を知る。③特にビタミン・ミネラルの体内作用と欠乏症を知る。④病態に応じた栄養管理の基礎を学ぶ。</p> <p>(保健学)</p> <p>保健学は、健康の探求とその維持増進を目的とする諸科学を統合した人の生命、健康に関わる学問です。健康を維持増進させるための様々な保健活動を理解し、疾病予防や医療人としての自分自身の健康管理について考えることができることをねらいとします。</p> <p>「国民衛生の動向」を参考にし、どのような保健活動が行われているのかを学習します。</p>		
授業計画 Course Content	<p>(栄養学)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 必要エネルギー量（健常時・疾病時）と「健康な食事」 2 栄養素欠乏時の臨床所見 3 ビタミン・ミネラルの体内作用 4 病態に応じた栄養管理と食事指導 <p>(保健学)</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 保健学とは 6 生活習慣病対策について 7 健康増進対策について 8 老人保健について 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>(栄養学)</p> <p>筆記試験（持ち込みについては講義にて提示する）</p> <p>(保健学)</p> <p>筆記試験、（その他があれば講義にて提示する）</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	<p>(保健学：参考) 厚生省の指標 増刊 「国民衛生の動向」 財団法人厚生統計協会 講義内容については変更する場合がある。</p>		

科目名 Course title	画像診断学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	レントゲン画像から理学療法実施上の留意点について説明できる CT, MRI 画像から理学療法実施上の留意点について説明できる		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 画像検査について 2 画像のみかた（レントゲン） 3 画像のみかた（CT） 4 MRIの特徴と見方① 5 MRIの特徴と見方② 6 内科疾患の画像読影 7 脳の機能解剖 8 脳画像の診方 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		

《専門分野》＝基礎理学療法学＝

科目名 Course title	理学療法研究概論	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森谷 伸樹	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	理学療法の EBM に必要な研究法について学ぶ。研究法の基礎を学ぶこと、理学療法士国家試験に頻出の知識について触れること、研究内容に応じて研究法を選択できることを到達目標とする。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 統計学の基礎、データの尺度・特性値・グラフ 2 推定と検定の基礎、2 標本の差の検定－パラメトリック法(1) 3 1 標本の差の検定－パラメトリック法(2)、差の検定－ノンパラメトリック法(1) 4 相関、回帰分析 5 重回帰分析、分割表の検定 6 一元配置分散分析、反復測定分散分析 7 信頼性係数、多重ロジスティック回帰分析 8 検査値の判断指標、まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行う		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 12 年及び専任教員 7 年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎理学療法学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数教員	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要等	<p>基礎科目の確立。 まず、国家試験に触れて慣れる。 国家試験の構成を理解し、どのような問題がどのような形で出題されるのか、またどのように解答すべきかを理解する。 重要な問題、よく出題される問題の理解を高める。 自身でまずは学習しまとめる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 脳血管障害 共通 ① 2 脳血管障害 共通 ② 3 脳血管障害 共通 ③ 4 脳血管障害 専門 ① 5 脳血管障害 専門 ② 6 脳血管障害 専門 ③ 7 代謝疾患 ① 8 内分泌疾患 ② 9 消化器疾患 ③ 10 整形外科疾患 (脊椎) 11 整形外科疾患 (熱傷・膝) 12 整形外科疾患 (スポーツ・小児) 13 整形外科疾患 (骨折・脱臼) 14 整形外科疾患 (神経障害) 15 整形外科疾患 (上肢) 		
成績評価等	中間試験 50 点、終講試験 50 点		
教科書 Textbooks			
備考 Other Comments	参考図書「クエスチョン・バンク 2021 理学療法士 共通・専門問題」メディックメディア		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験 12 年及び専任教員 27 年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 7 年の経験を有する。他		

科目名 Course title	基礎理学療法Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 真吾	期間及び単位 Term/Credits	3年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	<p>実習前後の知識レベルの確認</p> <p>国家試験、特に実地問題を解答するのに必要な知識を整理する</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 脊損 2 義肢 3 装具 4 神経疾患 5 筋疾患 6 小児疾患 7 呼吸器疾患 ① 8 呼吸器疾患 ② 9 呼吸器疾患 ③ 10 循環器疾患 ① 11 循環器疾患 ② 12 循環器疾患 ③ 13 まとめ ① 14 まとめ ② 15 まとめ ③ 		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験		
教科書 Textbooks	なし		
備考 Other Comments	参考図書：「クエスチョン・バンク 2021 理学療法士 専門問題」メディックメディア		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験12年及び専任教員27年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法管理学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高木 綾一	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間 / 演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目 標 Course Description・ Course objectives			
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 リハビリテーションとは 2 リハビリテーションを取り巻く環境 3 地域包括ケアシステムとは 4 理学療法士が活躍する分野 5 診療・介護報酬 書類管理 6 多職種連携 カンファレンス 7 安全管理学 8 理学療法機器の保守点検 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	リハビリテーション職種のマネジメント 株式会社シービーアール		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		

科目名 Course title	理学療法管理学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高木 綾一	期間及び単位 Term/Credits	3年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・ Course objectives			
授業計画 Course Content	<p>以下の内容を8回で行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法の実施後の診療記録と書類管理（電子カルテ等） ・理学療法の実施に関わるカンファレンス ・理学療法機器の配置計画 ・人事考課 ・労務管理 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	リハビリテーション職種のマネジメント 株式会社シービーアール		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		

科目名 Course title	がんリハビリテーション	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	3年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>がんのリハビリテーションにおける理学療法士の役割を説明できる</p> <p>がんのリハビリテーションにおける理学療法について説明できる</p> <p>リンパ浮腫に対する理学療法について説明できる</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 がんのリハビリテーションの概要 2 がんの治療法・評価方法 3 がんのリハビリテーションの実際 4 骨転移について 5 がん細胞の基本的特性について 6 がん悪液質について（症例検討を含む） 7 リンパ浮腫 8 心のケアとリハビリテーション 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験		
教科書 Textbooks	なし		
備考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		
実務経験内容	<p>川原 勲：理学療法士として臨床経験33年の経験を有する。</p> <p>厚地 里香：理学療法士として臨床経験9年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	理学療法治療演習 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文/宮脇	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 演習	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	臨床で求められる治療能力の向上を図る。 運動器、脳血管障害に応じて基本的な運動療法が実施できるようになることを目的とする。		
授業計画 Course Content	1、治療プログラムの立案 2、総論 運動療法の種類と適応、関節可動域制限に対する理学療法 3、実技 上肢の伸張運動と関節内運動 4、実技 上肢の伸張運動と関節内運動 5、実技 上肢の伸張運動と関節内運動 6、実技 下肢の伸張運動と関節内運動、筋力増強 7、実技 下肢の伸張運動と関節内運動、筋力増強 8、概要 片麻痺に対する ADL 練習の進め方 9、概要 片麻痺に対する ADL 練習の進め方 10、概要 片麻痺に対する ADL 獲得に向けて 11、概要 片麻痺に対する ADL 獲得に向けて 12、実技 立位・立ち上がり練習 13、実技 歩行練習 14、実技 歩行練習 15、実技 片麻痺に対する治療介入		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	初回講義にて提示（実技試験・演習課題の合算）		
教科書 Textbooks	なし（講義資料および既存の教科書を適宜利用）		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		
実務経験内容	桶田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 18 年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験 8 年及び専任教員 5 年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法治療演習Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	和田 善行 中村 珍輔	期間及び単位 Term/Credits	3年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>臨床で求められる評価・治療能力の向上を図る。</p> <p>症例情報より障害の把握を行うことができる。</p> <p>症例に応じた治療プログラムの立案と実施が出来る。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1、中枢神経障害に対する理学療法（川平法） 2、中枢神経障害に対する理学療法（川平法） 3、中枢神経障害に対する理学療法（川平法） 4、中枢神経障害に対する理学療法（川平法） 5、循環器障害に対する理学療法 6、循環器障害に対する理学療法 7、呼吸器疾患に対する理学療法 8、呼吸器疾患に対する理学療法 9、ロボティクスリハ 10、ロボティクスリハ 11 運動器・疼痛に対する理学療法 総論 12 運動器・疼痛に対する理学療法 13 運動器・疼痛に対する理学療法 14 小児に対する理学療法 15 小児に対する理学療法 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks			
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		
実務経験内容	臨床で各分野従事する理学療法士		

科目名 Course title	総合理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	3年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>理学療法業務における多様な領域を総合的に理解し、説明できる。</p> <p>(学校保健、国際支援、災害、産業、スポーツ、障害者スポーツ、ウイメンズ・ヘルス、メンズ・ヘルス)</p> <p>(産業) 産業理学療法に必要な「知識・現状」の理解を目的とする。産業における理学療法士の貢献について考えることが出来る。</p>		
授業計画 Course Content	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健領域における理学療法士の役割 ・運動器検診とスポーツテストについて ・世界のリハビリテーション 国際協力について ・世界保健機関緊急医療チームとリハビリテーション ・災害時の理学療法 ・赤十字社の医療救護活動 ・ウイメンズ・ヘルス、メンズヘルスの理学療法 ・産業理学療法 ・障害者スポーツ ・スポーツ損傷膝の理学療法 ・投球障害の理学療法 ・スポーツ損傷の予防 ・実技、実習 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし (各講義での配布資料あり)		
備考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		

＝地域理学療法学＝

科目名 Course title	予防理学療法	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	西川 正一郎	期間及び単位 Term/Credits	3年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	<p>介護予防における理学療法士の役割について説明できる。</p> <p>介護予防における理学療法について説明できる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 予防医学・予防理学療法総論 2 予防理学療法と施策 行政と経済的側面 3 老年医学と予防理学療法（1）老年症候群 4 老年医学と予防理学療法（2）認知症 5 老年医学と予防理学療法（3）転倒・骨折 6 老年医学と予防理学療法（4）フレイル、サルコペニア 7 疾患と予防理学療法（1）運動器疾患 8 疾患と予防理学療法（2）呼吸器疾患（3）循環器疾患 		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	予防理学療法学要論 医歯薬出版株式会社		
備考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		

科目名 Course title	地域理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>リハビリテーションの理念・目的、地域リハビリテーションの理念・目的の理解の下、介護保険制度や地域包括ケアシステムの目的を理解する。その上で、理学療法士の専門性から、地域における理学療法士の役割について考え、理解する。</p> <p>地域地学両方の現場をイメージできるようになることを狙いとする。</p> <p>講義では、現場で求められる知識や技術が概説される。</p> <p>地域で働く理学療法士にとって大切なこと、求められる能力についての理解を深めながら、現場のイメージができるようになることをねらいとする。</p>		
授業計画 Course Content	<p>(2コマ各 担当講師変更)</p> <p>1・2 リハビリテーションの理念・目的 / 地域リハビリテーションの目的 介護保険制度の目的、基本理念、地域包括ケアシステムについて 理学療法士に求められる能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・望む生活を把握する ・業務連携について ・専門性の理解 <p>地域理学療法とは 地域における理学療法士の役割</p> <p>3 患者援助に必要な面接技法 急性期病院・デイサービスでの理学療法</p> <p>4 患者援助に必要な面接技法 急性期病院・デイサービスでの理学療法</p> <p>5 地域理学療法における評価 老健施設・デイケア・訪問での理学療法</p> <p>6 地域理学療法における評価 老健施設・デイケア・訪問での理学療法</p> <p>7 回復期病院での理学療法 まとめ</p> <p>8 回復期病院での理学療法 まとめ</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	平常点として、講義内に振り返りを行い確認。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	治療実習 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期／7単位
授業方法 Teaching Methods	280時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>実習指導者の指導（援助と助言）のもと、以下の項目を模倣～見守りにて実施できること。</p> <p>(1) 医療従事者としての基本的態度を定着させること。</p> <p>(2) 各疾患（障害）に即した検査測定が実施できること。</p> <p>(3) 検査結果の解釈、各症例の障害像を理解・把握できること。</p> <p>(4) 治療の目的に応じ標準的な治療を選択し、理論的に裏付けられたプログラムを設定できること。</p> <p>(5) 標準的な治療が安全かつ効果が期待できる方法で実施できること。</p>		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>実習前評価を受講すること 実習成果と実習後評価を総合的に判断する</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	実習課題：実習日誌・感想文・レジメ		
実務経験内容	<p>赤松教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員27年の経験を有する。</p> <p>桶田教員：理学療法士として臨床経験5年及び専任教員18年の経験を有する。</p> <p>梅田教員：理学療法士として臨床経験5年及び専任教員7年の経験を有する。</p> <p>宮脇教員：理学療法士として臨床経験8年及び専任教員5年の経験を有する。</p> <p>高山教員：理学療法士として臨床経験11年及び専任教員2年の経験を有する。</p> <p>森谷教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員7年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	治療実習Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	3年次 後期／7単位
授業方法 Teaching Methods	280時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>実習指導者の指導（援助と助言）のもと、以下の項目を模倣～見守りにて実施できること。</p> <p>(1) 医療従事者としての基本的態度を定着させること。</p> <p>(2) 各疾患（障害）に即した検査測定が実施できること。</p> <p>(3) 検査結果の解釈、各症例の障害像を理解・把握できること。</p> <p>(4) 治療の目的に応じ標準的な治療を選択し、理論的に裏付けられたプログラムを設定できること。</p> <p>(5) 標準的な治療が安全かつ効果が期待できる方法で実施できること。</p> <p>(6) 再評価を実施し、治療効果の判定、治療目標、治療プログラム等の再検討や修正ができること。</p> <p>(7) 症例の理学療法評価、治療を通じ研究の必要性を理解すること。</p>		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習成果と実習後評価を総合的に判断する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	実習課題：実習日誌・感想文・レジメ		
実務経験内容	<p>赤松教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員27年の経験を有する。</p> <p>桶田教員：理学療法士として臨床経験5年及び専任教員18年の経験を有する。</p> <p>梅田教員：理学療法士として臨床経験5年及び専任教員7年の経験を有する。</p> <p>宮脇教員：理学療法士として臨床経験8年及び専任教員5年の経験を有する。</p> <p>高山教員：理学療法士として臨床経験11年及び専任教員2年の経験を有する。</p> <p>森谷教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員7年の経験を有する。</p>		

講義概要

2025年度 作業療法学科
1年生

阪奈中央リハビリテーション専門学校
作業療法学科

《基礎分野》 =科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解=

科目名 Course title	外国語 I (医学英語) ※選択必修	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森 拓也	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>医療分野において医療英語の理解は必要不可欠である。リハビリテーション医療分野においても例外ではない。近年、科学的根拠をもとにした治療が求められる中、その科学的根拠を示すものは国際的な論文が多い現状がある。本講義では医療英語の基礎と国際雑誌の読み方を解説し、リハビリテーション医療にかかわる論文に慣れ親しみ、読解方法を得る能力を養うことを目標とする。また、併せて、臨床業務上必要不可欠な医療英語についても学習する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：医療英語とは臨床英語&論文読解 2 医療英語を用いた論文の検索方法 国際雑誌の選定 3 Original Article (原著論文) Case Report (症例報告) Review Article (総説) とは 4 医学英語論文の種類と Title の表現 Title から読み取る論文の良し悪し 5 Abstract とは？ Informative Abstract と Indicative Abstract 6 Summary 症例報告の Summary 総説の Summary 7 Introduction の読み方 8 Materials and Methods と Results の読み方 1 9 Materials and Methods と Results の読み方 2 10 Discussion の読み方 11 Conclusion References Acknowledgement の読み方 12 論文を読んでみよう (グループワーク) 13 論文を読んでみよう (グループワーク) 14 臨床上必須英語・診療上常用英語 15 総復習 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「必ず読めるようになる医学英語論文」 金原出版		
備考 Other Comments	適宜資料を配布して授業を進める		

科目名 Course title	外国語Ⅱ（医学日本語）※選択必修	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	（日本語科教員 作業療法学科教員）	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期／2単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	留学生を対象に日本語能力試験1級レベルの言語知識、読解、聴解能力の強化および1年次の解剖学、生理学、運動学の授業に進捗に合わせ基本的な医学用語の語彙力を強化することを目的とする。		
授業計画 Course Content	1 日本語能力試験N1 対策講座 言語知識_文字/語彙①&文法① 2 日本語能力試験N1 対策講座 言語知識_文字/語彙②&文法② 3 日本語能力試験N1 対策講座 言語知識_文法③&読解① 4 日本語能力試験N1 対策講座 言語知識_文法④&読解② 5 日本語能力試験N1 対策講座 読解③&聴解① 6 日本語能力試験N1 対策講座 読解④&聴解② 7 日本語能力試験N1 対策講座 模擬試験 8 解剖学用語 総論 9 解剖学用語 骨 10 解剖学用語 関節 11 解剖学用語 靭帯 12 生理学用語 総論 13 生理学用語 細胞の構造と機能 神経系 14 生理学用語 循環器系 15 生理学用語 呼吸器系		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	教育学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高木 琳太郎	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>私たちが関わってきた（関わっている）教育を考えてみることを通して、私たちがほかの人々、物事とともに生きてきた（生きている）日常・社会・世界・関係性について、立ち止まって考えてみる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 階段のぼりと勉強 2 階段のぼりと勉強 3 狼に育てられた子ども 4 狼に育てられた子ども 5 養生 6 養生 7 「生命場」 8 まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	レポート試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	公衆衛生学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	三宅 眞理	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>臨床医学が個人の疾病を対象とするのに対して、公衆衛生学は集団の健康を対象とする。衛生学および公衆衛生は人間の健康に関係するあらゆる事象を研究し健康の維持増進をはかる学問である。「公衆」はどのような集団を指すのか具体的な事象と対策、法規を学び、将来の健康づくりと疾病の予防に貢献できる力を養う。特に、公衆衛生に関する法規の領域は極めて広く、保健医療の専門職には周知が必要である。各領域について、発展の過程や仕組み、現状と対策などから講義する。</p> <p>一般目標（GIO）：現代社会における公衆衛生の理解を深め、自らの疾病の予防と健康作りを心がけ保健医療の専門職として国民の健康増進に貢献できる力をつける。</p> <p>行動目標（SBOs）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ①公衆衛生学の必要性と重要性を説明できる。 ②健康の指標について理解し、疫学・保健統計から説明できる。 ③感染症の基礎知識、予防対策、感染症法、食中毒などについて理解し予防を実践できる。 ④地域環境保全、公害、身の回りの環境衛生と健康について理解し実践できる力を養成する。 ⑤超高齢化社会における社会保障・医療介護の制度について理解を深め活用できる力を養成する。 ⑥地域保健活動、母子保健、学校保健について理解し実践できる力を養成する。 ⑦心疾患、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病の予防理解し、健康教育が実践できる力を養成する。 ⑧精神保健福祉と産業保健のこれまでの背景と現状を理解し、保険医療の専門家として、公衆衛生活動を実践できる力を養成する。 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 衛生・公衆衛生学序論 2 保健統計・疫学 3 感染症対策・国際保健・災害医療と健康危機管理 4 環境保健・地域保健と保健行政 5 母子保健・学校保健 6 成人保健・産業保健 7 高齢者の保健・医療・介護 8 精神保健・障害者の保健・難病対策 		
成績評価等	定期試験 60点で合格		
教科書 Textbooks			
備考 Other Comments			

科目名 Course title	コミュニケーション学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森川 あやこ 荻野 佐代子 勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】患者や対象者や、チーム医療を成す関係者および実習指導者との関わりに必要なコミュニケーションについて学習する。また手段としては言語・非言語を用いたコミュニケーションについて学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの必要性、および場面・状況に応じたコミュニケーションの方法について説明でき、また実施できる。 ・対象者や医療福祉の関係者（実習指導者を含む）と良好な関係を築くためのコミュニケーションが実施できる。 ・患者・対象者の情報を収集するために医療面接が実施できる。 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 コミュニケーションをスムーズにする土台について 2 印象の重要性 3 聴くことの重要性 4 自己表現の理解と演習 5 コミュニケーションの意思疎通、情報伝達 6 手話の基礎知識（聴覚障害者のコミュニケーションを知る） 7 名前、家族を表してみましょう 8 数字を使って表してみましょう（疑問詞の表し方を知る） 9 住所を表してみましょう（方向、指さしの活用を知る） <p>10～15 実習で必要なコミュニケーション 医療面接 傾聴実践</p> <p>※詳細は初講の際に説明</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席点、小テスト、提出物、筆記試験で総合的に評価する。		
教科書 Textbooks			
備考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	情報処理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	徳永 怜	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>「情報処理学」では、基本的なパソコンの操作を習得し、報告書・レポートの作成やプレゼンテーションが行えるようになることを目的としています。具体的には、Word や Excel を利用した文書の作成、表計算、グラフの作成です（Power Point を用いた資料の作成は、授業の進行状況に応じて、実施の可否を判断します）。</p> <p>授業は、パソコンを用いた実習形式で行います。課題作成に関する質問は受け付けますが、最終的には自分で Word や Excel を利用して報告書・レポートの作成ができるように、主体的に取り組むことを求めます。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 Word の基本操作（1）：基本的な文書作成 2 Word の基本操作（2）：文書の編集 3 Excel の基本操作（1）：データの入力・編集 4 Excel の基本操作（2）：表の作成 5 Excel の基本操作（3）：数式・関数の利用 6 Excel の基本操作（4）：グラフの利用 7 Excel の応用操作：データベースとしての利用 8 総復習 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>「課題の提出」、「単位認定試験」で評価します。 「単位認定試験」は Word、Excel を利用した実技試験を予定しています。 割合については初回の講義にて確認。</p>		
教科書 Textbooks	授業ごとに課題プリントを配付します。		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	心理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高橋 京子	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	知覚、感情など、人の様々な側面を通して、人間の心や行動を理解する心理学の基礎を学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション 2 心理学の変遷 3 学習と行動 4 知覚・感覚 5 思考 6 記憶と忘却 7 感情 8 欲求・動機付け 9 知能 10 性格 11 発達① 12 発達② 13 発達③ 14 発達④ 15 社会		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席・コメントペーパー、期末テスト		
教科書 Textbooks	「心理学・臨床心理学概論 第3版」北樹出版		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	統計学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森谷 伸樹	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	作業療法の EBM に必要な統計学について学ぶ。統計処理の基礎を学ぶこと、作業療法士国家試験に頻出の知識について触れること、研究内容に応じて統計処理を選択できることを到達目標とする。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 統計学の基礎、データの尺度・特性値・グラフ 2 推定と検定の基礎、2標本の差の検定—パラメトリック法(1) 3 1標本の差の検定—パラメトリック法(2)、差の検定—ノンパラメトリック法(1) 4 相関、回帰分析 5 重回帰分析、分割表の検定 6 一元配置分散分析、反復測定分散分析 7 信頼性係数、多重ロジスティック回帰分析 8 検査値の判断指標、まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行う		
教科書 Textbooks	リハビリテーション統計学 中山書店		
備 考 Other Comments	講義を中心に実施する。		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験12年及び専任教員7年の経験を有する。		

科目名 Course title	人間工学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	坂本 清美	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>居住空間や生活機器を使いやすく安全で快適につくることが、今強く求められている。老若男女、少数派・多数派を問わず、豊かで健康的な生活を送るためには必要不可欠なことである。それを実現するためには、こうした空間や機器が、人間そのものに適合するようにデザインされなければならない。</p> <p>人間工学はそれを支援する学問分野である。すなわち、生活を営む人間の形態や生理的・心理的機能を明らかにし、それを機器や環境の設計に結び付けていくことを目的としている。その点、これからの設計者やデザイナーに必要な不可欠な素養といえる。</p> <p>講義では、居住空間や住宅設備・生活機器等を設計していく上でぜひ考慮しなければならない人間の諸機能・諸特性について論じ、設計のガイドラインや方法を紹介していく。毎回1つのテーマをとりあげ解説していく。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 人間工学とは何か: 人間工学の対象事例、必要性、学問領域 2 人間工学の具体化例(イスのデザイン) 3 人体寸法とデザイン: 人間の寸法と形の理解 4 運動機能と身体負担: 筋肉の機能や特性の理解 5 感覚の種類と視覚機能: 感覚の種類、及び視覚機能の理解 6 視覚の生理と心理: 視覚や認知の特性の理解 7 認知人間工学: わかりやすさのデザイン授業計画 8 ヒューマンエラーと安全設計: 生活機器の事故事例の紹介と安全設計 9 疲労・ストレスと快適性デザイン 10 ユニバーサルデザインと人間工学(1) 11 ユニバーサルデザインと人間工学(2): 高齢者のUD、UX(ユーザエクスペリエンス) 12 情報デザインと人間工学 13 人間工学的デザインの実際: 機器, 住宅, オフィス 14 人間工学の今後 15 まとめ(第1回目~14回目) 		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>単位認定試験 100%</p> <p>課題は選択肢問題の予定</p> <p>選択肢問題は20問あり、配点は各5点です。合計で100点</p>		
教科書 Textbooks	<p>初めて学ぶ人間工学(2016/1/1)</p> <p>出版社: 理工図書</p> <p>著者: 岡田 明、後藤 義明、八木 佳子、他</p>		
備考 Other Comments			

科目名 Course title	物理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	大又 巧也	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>物体に力を加えると、物体は力の大きさに比例し、質量に反比例する大きさの加速度で運動が変化します。物体を人体として考えることで自分が動いたり他人を動かしたりする事と力の関係がわかるようになればリハビリテーションに役立ちます。物理の法則を使って見えない力を知り、2つ以上の力を組合せたり、又力を無効にすることを、実際に日常の活動として理解できるようになることがねらいです。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 物理量とその表し方、ベクトルとスカラー 2 いろいろな運動と力 3 力のつり合いと運動の法則 4 物体の重心と回転運動 5 力のモーメント① 6 力のモーメント② 7 運動、仕事のエネルギー 8 演習 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「PT・OT ゼロからの物理学」羊土社		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	保健体育	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山口 典孝・森山 琢磨	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／演習	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	自身の現体力を把握し、運動方法や運動の意義などを考える。さらには生活習慣病と運動の重要性を理解し、生活習慣病予防に役立てていく。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション、ドッチボール 2 ショートテニス 3 卓球 4 バスケットボール 5 ショートテニス 6 バレーボール 7 バスケットボール 8 ショートテニス 9 ショートテニス 10 卓球 11 フットサル 12 卓球 13 ショートテニス 14 ショートテニス 15 フットサル		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	活動点		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		

《専門基礎分野》 =人体の構造と機能と心身の発達=

科目名 Course title	解剖学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高森 康晴	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>解剖学は医療を志す者にとって基本の学問であり、人体の構造を理解することは必須である。解剖学 I ではヒトの骨格と関節、靭帯について講義する。</p> <p>骨学の総論では骨の基本的構造や発生、リモデリングなどについて、各論では頭蓋骨～足の骨までを順々に解説する。</p> <p>関節、靭帯の総論ではそれぞれの基本的構造や分類などについて、各論では頭蓋骨～足の連結までを順々に解説する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 骨学総論 1 2 骨学総論 2 3 頭蓋 1 4 頭蓋 2 5 脊柱 1 6 脊柱 2 7 胸郭 1 8 上肢 1 9 上肢 2 10 上肢 3 11 下肢 1 12 下肢 2 13 下肢 3 14 関節、靭帯の総論 1 15 関節、靭帯の総論 2 16 頭蓋の連結 17 脊柱の連結 18 胸郭の連結 19 上肢の連結 1 20 上肢の連結 2 21 上肢の連結 3 22 下肢の連結 1 23 下肢の連結 2 		
成績評価	定期試験：100%		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版」 医学書院		
備考 Other Comments	必要に応じて骨格模型を使用		

科目名 Course title	解剖学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高森 康晴	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期／2単位
授業方法 Teaching Methods	45時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>作業療法士として必要かつ重要な筋系および神経系の基本構造を学び、それらのはたらきや相互作用・相互関係を理解する。</p> <p>筋系の一般的な構造を総論で解説し、次に主要な筋の起始、走行、停止、作用、支配神経について詳しく講義する。</p> <p>神経系については中枢神経と末梢神経の基本的な構造とはたらきを述べ、特に伝導路において各神経間のつながりについて詳しく講義する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 筋系総論 2 筋系 体幹1 頭部 3 筋系 体幹2 頸部 4 筋系 体幹3 胸部 5 筋系 体幹4 腹部 6 筋系 体幹5 背部 7 筋系 上肢1 上肢帯・上腕 8 筋系 上肢2 前腕1 9 筋系 上肢3 前腕2 10 筋系 上肢4 手 11 筋系 下肢1 下肢帯 12 筋系 下肢2 大腿 13 筋系 下肢3 大腿・下腿 14 筋系 下肢4 下腿 15 筋系 下肢5 足 16 神経系 総論 17 神経系 中枢1 18 神経系 中枢2 19 神経系 中枢3 20 神経系 末梢1 21 神経系 末梢2 22 神経系 末梢3 23 神経系 末梢4 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	定期試験： 100%		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版」 医学書院		
備 考 Other Comments	<p>講義は教科書の流れに沿って、パワーポイント（スライド）を用いて行う。</p> <p>パワーポイントの内容をプリント化し、授業資料として配布する。</p> <p>国家試験の過去問を授業時に紹介することにより、必要な知識を自覚し学習意欲を高めることを目指す。</p> <p>骨格模型の閲覧時間を設けて運動器の構造と一の立体的な理解を深めることを目指す。</p>		

科目名 Course title	解剖学Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	前田 裕子	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅲでは、人体と細胞についての基礎知識、酸素を運ぶ血液の循環と心臓、栄養の消化と吸収を行う消化器系を学ぶ。</p> <p>以下の項目を、スライドを使いながら説明し、資料プリントや練習問題を配布して理解を深めて行きたい。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 DVD「驚異の人体機能」：体全体を概観する 2 細胞の構造：人体の区分、細胞小器官、細胞膜 3 細胞分裂、組織：上肢組織 4 組織：支持組織、筋組織、神経組織 5 血管の構造、吻合、心臓の構造、冠状循環 6 刺激伝導系、体循環系動脈（総頸動脈、外頸動脈） 7 動脈：脳、上肢、胸部、腹部、下肢 8 静脈：脳、上肢、奇静脈系 9 静脈：門脈系、下肢の静脈、胎児の循環 10 リンパ系：リンパ本幹、リンパ節 胸腺、脾臓 11 消化器系①：歯、舌、唾液腺、咽頭 12 消化器系②：嚥下、食道、胃、十二指腸 13 消化器系③：小腸の構造、大腸の構造 14 消化器系④：肝臓、膵臓、胆道 15 腹膜、間膜 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。（100%）		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」 南江堂 「日本人体解剖学 下巻 改訂20版」 南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。		

科目名 Course title	解剖学Ⅳ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	前田 裕子	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅴでは、体液の調節と尿の生成を行う泌尿器系、種を保存する働きをする生殖器系生体機能を調節する器官として内分泌系を、受容と応答という観点から感覚器系を学ぶ。</p> <p>以下の項目をスライドを使いながら説明し、資料プリントや問題を配布して、理解を深めていきたい。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 呼吸器系：鼻、咽頭、喉頭 2 呼吸器系：気管、気管支、肺、胸膜、縦隔 3 泌尿器系：腎小体、尿細管 4 泌尿器系：腎の機能、尿管、膀胱、排尿器構 5 男性生殖器：精巣、精子の発生、精巣上体 6 男性生殖器：精管、付属器官、陰茎 7 女性生殖器：卵巣、卵子の発生、黄体 8 女性生殖器：卵管、子宮、月経周期、会陰 9 女性生殖器：胎児の成長、胎盤 10 内分泌系：下垂体、甲状腺、上肢小体 11 内分泌系：副腎、膵臓、性ホルモン 12 皮膚：表皮、真皮、皮膚腺、皮膚感覚 13 眼：眼球の構造 14 眼：眼の付属器官 耳：外耳、鼓膜 15 耳：中耳、内耳の構造 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。(100%)		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」 南江堂 「日本人体解剖学 下巻 改訂20版」南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。		

科目名 Course title	基礎運動学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【運動器の基本的構造とその機能について学習する。 人間の基本運動の機構を科学的に分析するために必要な力について学習する。</p>		
授業計画 Course Content	<p>Chapter 1 運動器の構造と機能</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 骨の構造と機能 2. 関節の構造と機能 ※一部生体力学の基礎を含む 3. 骨格筋 4. 身体運動のエネルギー代謝 <p>Chapter 2 生体力学の基礎</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体運動の面と軸 2. 筋の活動張力と重力 3. ベクトル 4. トルク、モーメント 5. 重心 6. 床反力 7. 仕事 8. てこの種類 9. 滑車 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第7版」 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験9年及び専任教員28年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎運動学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高山 弘幹	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】下肢（骨盤含む）について、骨運動や関節運動、および筋の作用、その他の身体への応用を学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・股関節・膝関節・足関節・足趾の関節の骨運動および関節運動を説明できる。 ・股関節・膝関節・足関節・足趾の関節の筋の作用を説明できる。 ・股関節・膝関節・足関節・足趾の関節運動の制限因子について説明できる。 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 股関節の骨指標・関節包内運動・構成運動 2 大腿骨の頸体角・前捻角、Sharp角・CE角・ローザーネラトン線 3 股関節筋の靭帯・関節唇の機能、スカルパ三角 4 股関節筋の機能、関節中心と筋のベクトル 5 股関節運動の制限因子、腰部・骨盤運動と股関節の関係性、股関節トルクと体重のつり合い 6 膝関節の骨・靭帯、FTA、ミクリッツ線 7 膝の運動学（転がり滑り、Screw-home movement、Roll back） 8 前十字靭帯・後十字靭帯・側副靭帯の機能、膝蓋大腿関節の運動学 9 膝関節関節の筋機能、膝関節剪断力について 10 足関節・足部の骨・靭帯、Leg Heel Angle 11 足関節の運動 12 足部の運動、距腿・距骨下関節に作用する筋肉 13 足部内在筋、クロスサポートメカニズム、ウィンドラス・トラス機構 14 縦アーチと横アーチ 15 運動連鎖（上行性・下行制、OKC・CKC） <p>※詳細は初講の際に説明</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>筆記試験（80%） 小テスト（20%） ※小テストは2回目以降の授業開始時に実施予定</p>		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第7版」 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験11年及び専任教員2年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎運動学Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】 上肢について、骨運動や関節運動、および筋の作用、その他の身体への応用を学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 肩関節（肩甲帯含む）・肘関節（前腕含む）・手関節・手指の関節の骨運動および関節運動を説明できる。 ・ 肩関節（肩甲帯含む）・肘関節（前腕含む）・手関節・手指の筋の作用を説明できる。 ・ 肩関節（肩甲帯含む）・肘関節（前腕含む）・手関節・手指の制限因子について説明できる。 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 上肢帯と上肢の運動：肩甲帯 2 上肢帯と上肢の運動：肩甲帯 3 上肢帯と上肢の運動：肩甲帯 4 上肢帯と上肢の運動：肩甲上腕関節 5 上肢帯と上肢の運動：肩甲上腕関節 6 上肢帯と上肢の運動：肩甲上腕関節 7 上肢帯と上肢の運動：肩甲上腕関節 8 上肢帯と上肢の運動：肘関節 9 上肢帯と上肢の運動：肘関節 10 上肢帯と上肢の運動：肘関節 11 上肢帯と上肢の運動：手関節 12 上肢帯と上肢の運動：手関節 13 上肢帯と上肢の運動：手指 14 上肢帯と上肢の運動：手指 15 上肢帯と上肢の運動：手指 <p>※詳細は初講の際に説明</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第7版」 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員10年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎運動学Ⅳ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】頭頸部・体幹・顔面の運動、および歩行について学習する。 頭頸部・体幹については骨運動や関節運動、および筋の作用、その他の身体への応用を学習する。 歩行については概要、運動、筋活動について学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭頸部・体幹の各関節の骨運動や関節運動について説明できる。 ・頭頸部・体幹の各関節の筋の作用について説明できる。 ・顔面筋の作用・開口閉口について説明できる。 ・歩行周期について説明することができる。 ・歩行の重心移動や決定因子について説明できる。 ・歩行の関節角度について説明できる。 ・歩行の筋活動について説明できる。 ・歩行の関節モーメントについて説明できる。 ・歩行に関連する用語について説明することができる。 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 脊柱の運動学：腰椎 2 脊柱の運動学：胸椎・胸郭 3 脊柱の運動学：頸椎 4 顔面の運動学 5 姿勢 力学の基礎（重心と筋活動、床反力と筋活動） 6 安静時立位姿勢と筋活動 立位姿勢制御 7 歩行 基礎知識 歩行周期 8 歩行 基礎知識 歩行周期 9 歩行時の重心とその仕組み 10 歩行 関節角度 11 歩行 筋活動 12 歩行 筋活動 13 歩行 関節モーメント 14 歩行 関節モーメント 15 総復習 国家試験問題 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第7版」 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	梅田教員：理学療法士として臨床経験5年及び専任教員7年の経験を有する。		

科目名 Course title	生理学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山本 知子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	<p>生体の機能・働きとそのメカニズムを学ぶ。細胞の機能から始まり、細胞の集まりである組織、組織の集まりである器官、器官の集まりである個体に至るまで、機能とその統合を理解する。ミクロの視点からマクロの視点へと進み、正常な生命活動を一貫して学ぶ</p>		
授業計画 Course Content (予定)	<p>(以下を 15 回で実施)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生理学基礎 <ul style="list-style-type: none"> ①生理学とは ②人体構成要素 ③細胞の構造と機能 ④細胞膜を隔てた物質移動 2 神経の機能 <ul style="list-style-type: none"> ①神経細胞と支持細胞 ②シナプス ③活動電位と局所電位 ④興奮伝導と興奮伝達 3 筋肉の機能 4 神経系の構成 <ul style="list-style-type: none"> ①反射 ②中枢神経と末梢神経 ③体性神経と自立神経 5 自律神経と内臓機能 <ul style="list-style-type: none"> ①交感神経と副交感神経 ②伝達物質と受容体 ③神経支配様式と神経各論 ④内臓反射と中枢 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 定期試験、小テスト、レポート		
教科書 Textbooks	「シンプル生理学 改訂第 8 版」 南江堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	生理学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	種村 麻里	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>生理学は、生体の機能とそのメカニズムを解明する学問である。様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的な仕組みを解き明かすものである。</p> <p>特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上で、その生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となる。本科目では、体性神経系と運動の機能、中枢神経系の高次機能、感覚器系の構成と機能について学ぶ。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脊髄・脳幹の構造と機能 2. 体性神経系と運動機能① 脊髄の運動機能 3. 体性神経系と運動機能② 脳幹の運動機能 4. 体性神経系と運動機能③ 小脳・間脳の運動機能 5. 体性神経系と運動機能④ 大脳基底核の運動機能 6. 体性神経系と運動機能④ 錐体路 7. 中枢神経系の高次機能① 新皮質の構造と機能分化 8. 中枢神経系の高次機能② 新皮質連合野の統合機能 9. 中枢神経系の高次機能③ 睡眠と覚醒 10. 中枢神経系の高次機能④ 辺縁系と視床下部の機能 11. 感覚系の構成と機能① 感覚の一般的性質 12. 感覚系の構成と機能② 体性感覚 内臓感覚 13. 感覚系の構成と機能③ 視覚 14. 感覚系の構成と機能④ 聴覚と平衡感覚 15. 感覚系の構成と機能⑤ 嗅覚と味覚 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行い、100点満点中60点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks	教科書「シンプル生理学 改訂第8版」南江堂 参考書「標準生理学 第9版」医学書院		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	生理学Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	種村 麻里	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>生理学は、生体の機能とそのメカニズムを解明する学問である。様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的な仕組みを解き明かすものである。</p> <p>特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上で、その生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となる。本科目では、血液、消化と吸収、栄養と代謝、内分泌系の機能、生殖について学ぶ。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1. 血液の生理① 血液の組成 細胞成分 2. 血液の生理② 血液凝固 3. 血液の生理③ 血液型 免疫機構 4. 消化と吸収① 消化管の基本的構造 口腔内と胃内の消化 5. 消化と吸収② 肝胆膵の働き 6. 消化と吸収③ 小腸内の消化と吸収 7. 消化と吸収④ 大腸の働きと排便 肝臓の機能 8. 栄養と代謝① 基礎代謝と栄養所要量 9. 栄養と代謝② 三大栄養素の中間代謝 10. 内分泌系の機能① ホルモンの一般的性質と分泌調節 11. 内分泌系の機能② 視床下部、下垂体のホルモン 12. 内分泌系の機能③ 甲状腺のホルモンと骨代謝 13. 内分泌系の機能④ 膵臓のホルモン 14. 内分泌系の機能⑤ 副腎のホルモン 15. 生殖① 精巣、卵巣のホルモンと生殖機能 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行い、100点満点中60点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks	教科書「シンプル生理学 改訂第8版」南江堂 参考書「標準生理学 第9版」医学書院		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	生理学Ⅳ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森 拓也	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>生理学Ⅳでは、人体における循環系の機能、呼吸の生理、尿の生成と排泄、体温とその調整について学習する。その中でも特に理学療法士に必要なかわりの深い内容、国家試験の頻出問題を解説する。到達目標は人体での生理的な機能の重要性を理解し、本講義範囲の国家試験問題を読解する経験を得るところまでとする。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 循環系の機能 心臓の構造と基本的性質 自動性・興奮性・伝導性・収縮性 2 循環系の機能 心電図と不整脈のメカニズム 心臓ポンプ機能 3 循環系の機能 血管系とリンパ系官、循環調整機構 4 循環系の機能 循環調節機構と局所循環 5 呼吸の生理 呼吸の仕組み、構造・構成・喚起、ガス交換 6 呼吸の生理 血液中の酸素運搬、二酸化炭素の運搬、一酸化炭素中毒 7 呼吸の生理 呼吸・肺換気量の調整、異常、人工呼吸 8 尿の生成と排泄 腎の機能的構造、糸球体ろ過 9 尿の生成と排泄 腎血漿流量、クリアランス 尿細管による再吸収 10 尿の生成と排泄 尿細管における分泌、尿の成分と排尿 11 体液とその調節 体液の区分と水バランス、体液のイオン組成 12 体液とその調節 体液の恒常性を維持するしくみ 13 体温とその調整 体温、熱生成、熱放散 14 体温とその調整 行動性体温調整、体温調整機構 15 体温とその調整 高体温と低体温 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	シンプル生理学 改訂第8版		
備 考 Other Comments	適宜、配布資料により講義を進める		

科目名 Course title	人間発達学 I (運動)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	松本 茂樹	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	(運動発達) ①作業療法を実施するうえで、正常発達知識が必要であることを知る。 ②乳幼児が、座位・立位を獲得するまでの過程を知る。 ③生後10ヶ月までの粗大運動発達が、視覚・聴覚・体性感覚・上肢機能、 認知・実務経験発達の基盤となり、関連しながら発達することを知る。 ④発達学的な運動分析を知る。 ⑤発達領域の作業療法を知る。		
授業計画 Course Content (予定)	1 オリエンテーション 2 新生児 3 頭部のコントロール 4 抗重力活動 5 立ち直り運動 6 座位・立位・歩行技能 7 視覚技能 8 上肢技能		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) レポート		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	人間発達学Ⅱ（心理）	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	三枝 好恵	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	<p>(発達心理)</p> <p>子どもから成人、老人への生涯発達。生まれたばかりで他者の世話なしには生きていけなかった赤ん坊も、やがては自分の周りの世界を発見し、言葉を発し、歩くようになっていきます。これまで自分が成長してきた過程を振り返り、認知や情緒、対人関係の発達を学んでいきます。基礎的な発達心理学の概念を習得することを目標とします。</p>		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 発達とは—発達心理学の基礎 2 乳幼児期の発達 3 言葉の発達① 4 言葉の発達② 5 心の理論 6 児童期のころ 7 青年心理学 8 老年心理学—認知症の理解 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 発達心理 テスト、出席率、授業内での小テスト		
教科書 Textbooks	Cross basic リハビリテーションテキスト 人間発達学 メジカルビュー社		
備 考 Other Comments			

＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	精神医学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	嶋 健作、高橋 隼、正木 慶大	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	<p>授業目的 精神医学の基礎的知識を習得し、精神医学という身近な疾患を理解する第一歩とする。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医学の意義と基本的理念を理解し、説明できる。 2. 基本的な精神症状の概念を理解し、用語を正しく使用できる。 3. 精神障害を生物・心理・社会的な観点から多面的に捉えることができる。 4. 精神疾患の分類体系を理解し、その概要を説明できる。 5. 代表的な精神疾患の特徴を理解し、その概要を説明できる。 6. 精神科的治療の種類と方法を理解し、その概要を説明できる” <p>授業概要本講義では精神医学を総論的に学ぶ。医学・医療における精神医学の意義と役割、基本的な理念、精神医療の歴史を概観したのち、多様な精神症状の概念的知識と評価・検査法を体系的に学ぶとともに、身体的基盤を有する精神障害から環境や心理的側面の関与が大きい精神障害に至るまで精神障害の成因論と、薬物・身体療法および精神療法に関する基本的知識を体系的に習得する。現在臨床に従事する精神科医師が自身の経験を交えて講義する。</p>		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、精神医学の歴史など 2 中枢神経の解剖と生理 3 神経徴候、せん妄 4 精神科に関する検査など 5 統合失調症総論 6 統合失調症各論 7 気分障害総論 8 気分障害各論 9 器質性精神障害総論 10 器質性精神障害各論 11 神経症、生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 12 人格障害 13 知的障害、発達障害 14 精神作用物質、てんかん 15 復習とまとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 80～85 点、小テスト 5 点 × 3～4 回 (15～20 点)		
教科書 Textbooks	医学書院 精神医学 第 4 版増補版 (標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野)		
備 考 Other Comments	<p>講義予定については進行状況などによって適時変更があります。</p> <p>準備学習: 上記に該当する部分をテキストで読んでおくこと。</p> <p>試験やレポートに対するフィードバック方法として資料、テキストを復習すること 小テストで要点を理解し、本試験に挑むこと。”</p>		
実務経験内容			

科目名 Course title	病理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	廣石 伸互	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	<p>病理学とは、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることによって、病気の本態を究明する学問である。</p> <p>本講義においては、始めに病理学の位置付け、役割、その重要性を説明した後、病気の原因（病因論）について講述、テキストの総論・各論各項目に沿って授業を進める。</p>		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 病理学とは 2 細胞・組織の損傷 3 炎症 4 免疫 5 アレルギー 6 感染症 7 呼吸器障害 8 循環器障害 充血とうっ血 9 循環器障害 虚血と梗塞 10 代謝障害 11 先天性異常の分類 12 先天性異常 染色体異常と遺伝子異常 13 腫瘍とは何か 14 悪性腫瘍の広がりと影響 15 脳・神経系の疾患 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 定期試験 (100%)		
教科書 Textbooks	「系統看護学講座 専門基礎分野 病理学」医学書院		
備 考 Other Comments	講義内容は理解度に応じて変更することがある。		

科目名 Course title	臨床心理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高橋 京子	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	臨床心理学について概説するとともに、臨床心理学的な方法や、理解について学ぶことをねらいとする。		
授業計画 Course Content (予定)	(15回で行う) 1 臨床心理学について 2 パーソナリティ 3 アセスメント 4 発達と心理的問題 5 心理的介入 6 臨床心理学の応用 7 国家試験対策		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験・レポート・授業中の態度など		
教科書 Textbooks	「心理学・臨床心理学概論 第3版」北樹出版		
備 考 Other Comments			

＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	社会福祉学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	後藤 登美子	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives (予定)	<p>社会福祉は日常生活に深くかかわるものです。この授業では第三者的に社会福祉の学習に取り組むのではなく自身の生活にひきつけて考えていきたい。社会福祉サービスが一人ひとりの行き方をできるだけ満足のいく形で実現できるよう支援するものであると認識してもらいたいです。</p> <p>尚、授業は講義だけでなく、ビデオ等を通しても行ないます。</p>		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における福祉制度と福祉政策 わが国における福祉制度の概念と理念 福祉政策の概念と理念について 福祉制度と福祉政策の関係とは 2 福祉制度の発達過程 日本における福祉の始まり 近代社会と福祉 現在社会と福祉 3 わが国の社会保障の概要 年金保険制度と企業年金の仕組み 医療保険制度 労働保険制度 介護保険制度 4 低所得者に対する支援と生活保護制度 公的扶助の概念 生活保護法について 5 自立支援プログラムと生活福祉資金貸付制度について 自立支援プログラムの意義と実際 低所得者対策 6 児童の福祉（子ども家庭福祉） 児童虐待問題について ひとり親家庭への支援・施策について DV問題について 7 高齢者の福祉 介護保険制度について 8 利用者本位における契約制度について 成年後見制度 日常生活自立支援事業 福祉サービス利用者保護のためのシステム 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 試験・平常点（レポート等）		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	リハビリテーション I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加・梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	4 5時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】 講義では臨床実習概要、感染対策、見学発表、施設の概要や療法士の役割、リハビリテーションの概論について学習する。早期見学実習を通じてリハビリテーション職種である療法士の役割を学習し動機を促進する。また障害者体験を通じ日常生活に機能障害や環境が及ぼす影響を学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの各分野の役割と目的を説明できる。 ・各施設の概要と各施設での療法士の役割について説明できる。 ・自己の目指す目標を発表できる。 ・スタンダードプリコーションについて説明できる。 ・障害が日常生活に及ぼす影響について説明できる。 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義概要 説明 2 リハビリテーションについて① 3 リハビリテーションについて② 4 感染対策 5 施設見学オリエンテーション 6 リハビリテーション施設見学 7 リハビリテーション施設見学 8 リハビリテーション施設見学 9 リハビリテーション施設見学 10 リハビリテーション施設見学 11 リハビリテーション施設見学 12 リハビリテーション施設見学 13 リハビリテーション施設見学 14 リハビリテーション施設見学 15 リハビリテーション施設見学 16 リハビリテーション施設見学 17 リハビリテーション施設見学 18 発表準備・障害体験オリエンテーション 19 発表準備・障害体験オリエンテーション 20 障害体験 21 障害体験 22 まとめ発表会 23 まとめ発表会 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>体験学習レポート 発表会内容</p>		
教科書 Textbooks	<p>別途資料を配布する</p>		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	<p>勝村智加：作業療法士として臨床経験 7 年及び専任教員 7 年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 7 年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	リハビリテーションⅡ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士に関する歴史・教育・法律・職域・対象等を学び職業としての理学療法士像を明確にする。 ・リハビリテーションの概念の理解を深める。 ・リハビリテーションチームの理解を深める。 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法の定義、リハビリテーションの定義、法律、カリキュラム 2. 保健制度、診療報酬 3. 歴史、倫理、職能団体 4. 理学療法の実際 5. 急性期の理学療法 6. 回復期の理学療法 7. 生活期の理学療法 8. まとめ、研究、行政、他 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 平常点		
教科書 Textbooks	なし。		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	理学療法士として臨床経験5年及び専任教員18年の経験を有する。		

科目名 Course title	リハビリテーションⅢ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】リハビリテーション医療にかかわる職種の役割について理解し、どのように他職種と連携するのかを学習する。実際に理学療法士・作業療法士・看護師での多職種連携の演習を行う。</p> <p>(内容はこの通りであるが概要からは削除：理学療法士のスポーツ分野での多職種連携、作業療法士の精神分野での多職種連携についても学習する。)</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションに関わる職種とその役割について説明できる。 ・多職種連携の必要性について説明できる。 ・症例を通じて多職種連携を経験し、対象者の支援について発表できる。 		
授業計画 Course Content	<p>(理学療法士)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 多職種連携 理学療法 総論 2 スポーツ理学療法 <p>(作業療法士)</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 多職種連携 作業療法 総論 4 精神科作業療法 <p>(看護師)</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 多職種連携 看護 総論 <p>(言語聴覚士)</p> <ol style="list-style-type: none"> 6 嚥下障害総論・嚥下障害の実際 7 言語聴覚総論・失語症と構音障害 <p>(リハビリテーション関連職種)</p> <ol style="list-style-type: none"> 8 多職種連携 医療ソーシャルワーカー 総論 9 多職種連携 ケアマネージャー 総論 10 多職種連携 栄養士 総論 11 多職種連携 心理士 総論 <p>(3科多職種連携)</p> <ol style="list-style-type: none"> 12 多職種連携総論 13 多職種連携 症例課題 グループワーク 14 多職種連携 症例課題 グループワーク 15 多職種連携 発表 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験と3科多職種連携課題(提出・発表)の合算で評価		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容			

《専門分野》＝基礎作業療法学＝

科目名 Course title	作業療法概論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	大江 俊	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>作業療法の基礎となる「作業」や「活動」、「作業療法・作業療法士とは」という意味を考え、歴史をたどり、法規などを知ることにより全体像を学ぶ。また、作業療法士にとって必要な知識・適正・態度などについて考え、今後につなげていけるようになることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>作業療法の歴史、意義、目的、対象、領域について他者に説明できる。</p> <p>作業療法に関わる法律について他者に説明できる。</p> <p>作業療法士として適切な資質、思考について理解し、医療人としての素養、倫理観を養う。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 「作業」及び「作業療法」の定義 2 世界における作業療法の歴史 3 日本における作業療法の歴史 4 作業療法の対象となる領域 5 医療倫理と作業療法士に求められる資質・適正・態度 6 作業療法における理論・モデル（MOHO、CMOP） 7 作業療法の実際（身体障害、精神障害） 8 作業療法の実際（発達障害、老年障害） <p>※詳細は初講の際に説明</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>小テスト（30%） 定期試験（70%）</p>		
教科書 Textbooks	<p>標準作業療法学 作業療法学概論 第4版 医学書院</p>		
備 考 Other Comments	<p>適宜資料を配布予定</p>		
実務経験内容	<p>作業療法士として臨床経験8年及び専任教員1年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	障害学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】</p> <p>障害の概要や器官別に生じる障害、および症候学について学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活機能分類・障害分類について説明・分類ができる。 ・各器官から生じる障害を説明できる。 ・リハビリテーションに関わる主な症候について説明できる。 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害について、器官別障害について、 2. 症候学 炎症・疼痛、 3. 可動域制限. 拘縮、 4. 筋力低下、筋萎縮 5. 麻痺、高次機能障害、 6. 運動耐用能の低下等、- 7. 器官別障害学 運動器 8. 器官別障害学 脳疾患 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし（資料配布）		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験5年及び専任教員18年の経験を有する。		

科目名 Course title	動作分析学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	藤善 将	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	本講座では、作業療法についての知見を振り返り深めたいうえで、作業療法士が ADL の向上・自立に向けて介入していく視点について学ぶ。作業という人の営みを様々な角度から分析する臨床的視点を持ち、言語化できることを目標とする。		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 作業療法についての振り返り 2 作業療法の理解に向けたグループワーク 3 活動分析（前開きシャツ・靴下など） 4 分析結果の発表・ディスカッション 5 巧緻動作と ADL の関係性についてのグループワーク 6 分析結果の発表・ディスカッション 7 食べる行為についての作業分析（グループワーク） 8 分析結果の発表・ディスカッション 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として教員 6 年及び臨床 2 5 年の経験を有する。		

＝作業療法評価学＝

科目名 Course title	評価学 総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】 評価学各論の前段階として療法士が行う評価の概要とその過程、および評価の意義や目的を（変更：について）学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療法士が行う評価の過程を説明できる。 ・療法士が行う情報収集について説明できる。 ・療法士が行う検査・測定の種類について説明できる。 ・療法士が行う統合と解釈について説明できる。 ・療法士が行う予後予測や目標設定について説明できる。 ・療法士が行う再評価と効果判定について説明できる。 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 評価の意義と目的、開かれた問題と閉じられた問題 2 ONE BEST SOLUTION はない！、クイズとパズル、問題認識 3 責任者は自分自身、評価の目的 4 評価の過程、評価のプロセス 5 各段階の特質①（情報収集、初回評価、ゴール設定） 6 各段階の特質②（OT 実施計画の立案、OT の実施） 7 各段階の特質③（再評価、フォローアップ、記録を書く際の基本的知識と原則） 8 まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①終講試験 ②出席状況		
教科書 Textbooks	PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版 羊土社 PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編（第2版補訂）金原出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験9年及び専任教員28年の経験を有する。		

科目名 Course title	評価学各論 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	赤松 眞吾、宝田 愛	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】 療法士として患者や対象者の身体に触れるための準備として「骨や血管の触診技術」を（変更：について）学習する。 また「バイタル測定」や「形態測定」の意義や目的、および測定技術を学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションに関わる主な身体の四肢・体幹の骨・血管について触診できる。 ・バイタル測定については、体温・脈拍・血圧・呼吸数・動脈血酸素飽和度の測定意義や目的、および測定方法を説明できる。 ・バイタル測定については、体温・脈拍・血圧・呼吸数・動脈血酸素飽和度の測定ができる。 ・形態測定については、体格（体重、身長、BMI）、四肢長、四肢周径の測定意義や目的、および測定方法を説明できる。 ・形態測定については、体格（体重、身長、BMI）、四肢長、四肢周径の測定ができる。 		
授業計画 Course Content	<p>1～8 触診（骨・動脈）について 9～11 バイタル測定について 12～15 形態測定について</p> <p>※詳細は初講の際に説明</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価	小テスト・実技試験（口頭試問） の成績を加味して判定する。		
教科書 Textbooks	PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版 羊土社 PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編（第2版補訂）金原出版		
備 考	なし		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員27年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年及び専任教員5年の経験を有する。		

科目名 Course title	評価学各論Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宮脇 孝治、大江 俊	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】 四肢体幹の「関節可動域測定」について意義や目的、および測定技術を学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四肢・体幹の可動域測定の意義や目的、測定方法について説明できる。 ・関節可動域の標準角度や制限する因子について説明できる。 ・四肢・体幹の可動域測定ができる。 		
授業計画 Course Content	<p>1 ROM総論 (ROM 定義・関節の構成要素・基礎知識)</p> <p>2～6 ROM上肢 (肩関節、肘関節、前腕、手関節、手指)</p> <p>7～13 ROM下肢 (股関節、膝関節、足関節、足趾)</p> <p>14～15 頸部、体幹・別法・まとめ</p> <p>※詳細は初講の際に説明</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価	小テスト・実技試験 (口頭試問) の成績を加味して判定する。		
教科書 Textbooks	PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版 羊土社 PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 (第2版補訂) 金原出版		
備 考	なし		
実務経験内容	宮脇教員：理学療法士として臨床経験8年及び専任教員5年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験8年及び専任教員1年の経験を有する。		

科目名 Course title	評価学各論Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宝田 愛、森谷 伸樹、高山 弘幹	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 2 単位
授業方法 Teaching Methods	60 時間 / 講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	<p>【概要】 四肢体幹の「筋力測定」について意義や目的、および測定技術を学習する。</p> <p>【到達目標】 筋力測定の意義や目的、方法について説明できる。 徒手筋力測定の実施ができる。またその結果を判定できる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 総論 筋力とは MMT の原理、原則、注意点 肩甲骨外転と上方回旋(前鋸筋)、肩甲骨拳上(僧帽筋)、 2 肩甲骨内転(僧帽筋中部線維)、肩甲骨下制と内転(僧帽筋下部線維) 肩甲骨内転と下方回旋(菱形筋群) 3 肩関節屈曲(前方拳上)(三角筋前部、棘上筋、烏口腕筋)、肩関節伸展(後方拳上)(三角筋後部) 4 肩関節外転(側方拳上)(三角筋中部および棘上筋)、肩関節水平外転(三角筋後部) 5 肩関節水平内転(大胸筋)、肩関節外旋(棘下筋、小円筋) 6 肩関節内旋(肩甲下筋)、肘関節屈曲(上腕二頭筋、上腕筋、および腕橈骨筋) 肘関節伸展(上腕三頭筋) 7 前腕回外(回外筋、上腕二頭筋)、前腕回内(回外筋、方形回内筋) 8 手関節伸展(長短橈側手根伸筋、尺側手伸筋) 手関節屈曲(橈側手根屈筋、尺側手根屈筋)、 9 PIP 関節および DIP 関節(浅指屈筋、深指屈筋)の屈曲 複合テスト 10 PIP 関節および DIP 関節、MP 関節伸展(指伸筋、示指伸筋、小指伸筋) 11 指 MP 関節屈曲(虫様筋と骨間筋)、 12 指外転(背側骨間筋)、内転(掌側骨間筋) 13 母指 MP、IP 関節屈曲(短母指屈筋、長母指屈筋)、母指 MP、IP 関節伸展(短母指伸筋、長母指伸筋) 14 母指外転(長母指外転筋、短母指外転筋)、母指内転(母指内転筋)、 15 対立運動(母指対立筋、少子対立筋) 16 股関節屈曲・伸展 17 股関節伸展別法 18 股関節外転、股関節内転 19 股関節外旋、股関節内旋 20 膝関節屈曲(総合)、内側・外側 21 膝関節伸展 22 足関節底屈、足関節背屈内がえし 23 足の内がえし、足の底屈を伴う外がえし 24 母趾と足ゆびの MP 関節屈曲、DIP、PIP 関節屈曲、 25 母趾と足ゆびの MP 関節、IP 関節伸展 26 頸部屈曲、伸展、回旋 27 頸部屈曲、伸展、体幹屈曲 28 体幹回旋、体幹伸展 29 骨盤拳上、体幹側面 30 安静な吸気 <p>脳神経支配筋のテスト 徒手筋力測定の別法(ハンドヘルドダイナモメーター、握力テスト等機器を使用するテスト法)</p>		
成績評価の方法・基準・評価	小テスト・実技試験(口頭試問) の成績を加味して判定する。		
教科書 Textbooks	新・徒手筋力検査法 原著第 10 版 協同医書出版社		
備考	なし		
実務経験内容	宝田教員：作業療法士として臨床経験 6 年及び専任教員 5 年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験 12 年及び専任教員 7 年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験 11 年及び専任教員 2 年の経験を有する。		

科目名 Course title	評価学各論Ⅳ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	中野 里佳、森谷 伸樹	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】 感覚、疼痛、身体で生じる反射、筋緊張などの各種測定について、意義や目的および測定方法を（変更： について）学習する。</p> <p>【到達目標】 筋緊張の検査について意義や目的について説明できる。 筋緊張の検査を実施できる。またその結果を判定できる。 深部腱反射・表在反射・病的反射・姿勢反射の意義や目的について説明できる。 深部腱反射・表在反射・病的反射・姿勢反射を実施できる。またその結果を判定できる。 感覚検査の意義や目的について説明できる。 感覚検査を実施できる。またその結果を判定できる。 疼痛検査の意義や目的について説明できる。 疼痛検査を実施できる。またその結果を判定できる。</p>		
授業計画 Course Content	<p>全 15 コマの内訳</p> <p>1～3：筋緊張の検査について理解し実施ができるようになる。 4～8：反射検査について理解し実施ができるようになる。 9～13：感覚検査について理解し実施ができるようになる。 14～15：疼痛検査について理解し実施ができるようになる。</p> <p>※詳細は初講の際に説明</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価	小テスト・実技試験（口頭試問） の成績を加味して判定する。		
教科書 Textbooks	PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版 羊土社 PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編（第2版補訂）金原出版		
備 考	なし		
実務経験内容	中野教員：作業療法士として臨床経験21年及び専任教員4年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員7年の経験を有する。		

＝作業療法治療学＝

科目名 Course title	動物介在療法学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	川嶋 舟	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	<p>犬や猫、馬やイルカなど、動物を介することで、人が癒されたり、人の機能の改善を図ったりすることが知られており、動物を介して行うため動物介在療法と言われている。動物介在療法に関わる人材の多くが、犬や馬、イルカなどの動物の専門家によるアプローチであり、人のリハビリテーションの専門家である理学療法士、作業療法士が動物介在療法を実践する場はまだ少ない。この講義では、動物介在療法の中でも、特に人に近い存在と言われる馬を介した馬介在療法について学び、理学療法士、作業療法士が馬介在療法を実践することのメリット、その実践に必要な知識を学ぶ。</p>		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 動物介在療法とは、馬介在療法とは 日本や世界で行われている動物介在療法を知る。そしてその中で特に馬を扱ってリハビリテーションを行う馬介在療法とは何かを学ぶ。 2 馬という動物について 馬の生理、運動、解剖学的な知識、馬の生態やについて学ぶ。 3 馬と人の関係について 人と馬が共に共存していく歴史を学び、人と馬の関係性を歴史的に考えていく。」 4 人について 単に人の解剖、運動、生理学的視点だけでなく、馬に関わっているときの人の身体機能や精神機能について学ぶ 5 馬介在療法の効果について（身体機能面） 馬介在療法の中で、乗馬を利用し体幹機能の向上を目的としたヒポセラピーなど、身体機能への効果について学ぶ。 6 馬介在療法の効果について（精神機能面） 馬は人の幼児程度の知能と言われ、それが人のにとってノンバーバルコミュニケーションを利用した精神機能面への効果が期待されるとされており、どのような効果が期待できるかを学ぶ。 7 馬介在療法の実践について 日本で理学療法士、作業療法士が実践しているホースセラピーはどのようなものがあるのかを学ぶ。 8 馬介在療法の運用について 馬介在療法を実施適応し実践してするための、運用方法や費用等について学び、理学療法士、作業療法士が実際の現場でどのように馬介在療法を実施するのかを学ぶ。 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 提出物および定期試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	必要に応じて、実際に馬との関わる機会を提供する。		

科目名 Course title	日常生活活動学Ⅰ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈、宮脇 孝治	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義・実技	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】</p> <p>日常生活活動について概要・評価、および動作介助の技術について学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活活動の概要について説明できる。 ・日常生活活動の評価について理解することが出来る。 ・日常生活活動にかかわる基本的動作の理解及び介助が出来る。 		
授業計画 Course Content	<p>1～8 座学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活活動の概念と療法士の役割 ・日常生活活動別の問題点と援助の視点 ・日常生活活動の障害 ・評価の方法 <p>9～15 実技</p> <p>※詳細は初講の際に説明</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実技試験、筆記試験の合算予定		
教科書 Textbooks	<p>「ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際 第3版」 医学書院 又は 「PT・OT ビジュアルテキスト ADL 第2版」 羊土社</p> <p>※変更の可能性あり</p>		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	<p>木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員10年の経験を有する。 宮脇教員：作業療法士として臨床経験8年の経験及び専任教員5年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	物理療法学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	赤松 眞吾	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【概要】物理的なエネルギーを生体に活用する物理療法について、エネルギーの特性や適応・禁忌事項、および実施方法について学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>温熱療法について、エネルギーの特性、適応、禁忌、実施方法について説明できる。</p> <p>温熱療法について、実施ができる。</p> <p>寒冷療法について、エネルギーの特性、適応、禁忌、実施方法について説明できる。</p> <p>寒冷療法について、実施ができる。</p> <p>超音波療法について、エネルギーの特性、適応、禁忌、実施方法について説明できる。</p> <p>超音波療法について、実施ができる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 物理療法の目的、理学療法の中での位置づけ、物理療法各機器の概説 2 物理療法の対象と病理(炎症と創傷治癒)、物理療法の対象と病理(疼痛) 3 物理療法の対象と病理(筋トーン異常)、物理療法の対象と病理(運動制限) 4 温熱が全身、局所に与える影響① 5 温熱が全身、局所に与える影響② 6 ホットパック・パラフィン療法 7 ホットパック・パラフィンの演習 8 超音波療法① 9 超音波療法② 10 極超短波療法 11 極超短波療法・超音波療法の演習 12 寒冷療法 生理学的作用について 13 寒冷療法の目的・適応・禁忌について、RICE について 14 アイスマッサージ、アイスパック、コールドパック、コールドスプレー、持続的冷却装置の使用法、注意点などについて 15 アイスパック コールドパックの演習 <p>※詳細は初講の際に説明</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>毎回の講義での提出物を評価：50%</p> <p>筆記試験：50%</p> <p>合計：100%として評価する</p>		
教科書 Textbooks	「物理療法テキスト 改訂第3版」 南江堂		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	理学療法士として臨床経験12年及び専任教員27年の経験を有する。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	地域臨床見学実習	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>到達目標</p> <p>(1) 職業人としての適正を理解することができる。</p> <p>(2) 対象者との適切な対人関係やスタッフとの適切な対人関係を構築できる。</p> <p>(3) 地域におけるリハビリテーションスタッフの業務と役割を理解することができる。</p> <p>(4) 患者（対象者）の持つ障害を ICF や ICDH を用いて分類し、それぞれの持つ問題の多様性を知ることが出来る。</p> <p>(5) 記録が出来る。</p>		
授業計画 Course Content	<p>（各実習施設による）</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の状況により一部学内演習で実施することがある。</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>実習施設の評定と実習終了後のセミナーを含めて総合的に評価する</p>		
教科書 Textbooks	<p>なし</p>		
備 考 Other Comments	<p>なし</p>		
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験 9 年の経験及び専任教員 2 8 年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験 1 5 年の経験及び専任教員 1 0 年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験 7 年の経験及び専任教員 7 年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験 6 年の経験及び専任教員 5 年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験 2 1 年の経験及び専任教員 4 年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験 8 年の経験及び専任教員 1 年の経験を有する。</p>		

講義概要

2025年度 作業療法学科
2年生

阪奈中央リハビリテーション専門学校
作業療法学科

《専門基礎分野》 =人体の構造と機能と心身の発達=

科目名 Course title	運動学実習	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	60時間 / 演習	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>本講座では1学年時に習得した運動学の基礎について、実際に体を動かして起こりうる運動を分析する手法を学習し、そのメカニズムを理解する。後半の運動分析は、実際の日常生活における動作をビデオカメラ等の必要な機器を使用して分析し、考察する。</p>		
授業計画 Course Content	<p>1・2 オリエンテーション、関節運動の考え方 3・4 筋走行と骨運動①（三角筋） 5・6 筋走行と骨運動②（肩甲骨腕リズム） 7・8 筋走行と骨運動③（菱形筋） 9・10 筋走行と骨運動④（前鋸筋） 11・12 まとめ①（グループ発表） 13・14 まとめ②（グループ発表） 15・16 運動分析①（椅子からの立ち上がり運動動作撮影） 17・18 運動分析②（椅子からの立ち上がり運動動作分析） 19・20 運動分析③（正常歩行、オリジナル歩行動作撮影） 21・22 運動分析④（立ち上がり動作分析発表） 23・24 運動分析⑤（正常歩行分析発表） 25・26 運動分析⑥（オリジナル動作分析発表） 27・28 重心と体重移動 29・30 （予備）まとめ ※前年度実績</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>①筆記試験 ②レポート ③出席状況 レポート課題は実習を進めながら作成します。筆記試験は記述式です。授業で習得した内容をしっかり理解しておくこと。</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	栄養・薬理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	小橋 真弓 ・ 前田 和宏	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間 / 講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>本講義は、リハビリテーションと栄養・代謝との関連についての理解および薬物による人間の反応の理解ができることを到達目標としている。</p> <p>したがって、栄養と代謝の概要並び代謝異常に関する講義を行い、その後栄養管理に関する内容を述べる。</p> <p>もう一つの学習目標としている薬理の理解に対し、薬物の基本および対象疾患と薬物療法、副作用の話を中心に行う。</p>		
授業計画 Course Content	<p>(栄養学)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 栄養とは <ul style="list-style-type: none"> ・基礎栄養学、応用栄養学、臨床栄養学、公衆栄養学の違いを知る ・5大栄養素の消化と吸収など 2 リハビリテーションに関わる栄養学 <ul style="list-style-type: none"> ・臨床栄養学を中心とした内容、身体計測、血液データからの情報収集 3 病態別（疾患別）の栄養管理 <ul style="list-style-type: none"> ・主に糖尿病、高血圧、褥瘡などを例にして留意すべき点 4 補足、ふり返り、まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・講義を通してのまとめ <p>(薬理学)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 薬理学総論：医薬品とその適切な使用の根拠となる薬理学の基礎知識を深め、薬物療法の基礎概念を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の分類と法律・作用原理について（薬物動態・薬物代謝を含む） ・好ましくない副作用（有害作用）と薬物相互作用 ・リスクマネージメント（多剤服用症状を含む）と薬物依存・耐性 2 感染症、炎症の制御と薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・神経疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 3 循環器系疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 4 精神疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・注意すべき頻用される薬物と要点チェック：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。併せて講義の要点を復習する。 <p align="right">※前年度実績</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>(栄養学) 授業態度 20%、筆記試験 80%を行い、評価する</p> <p>(薬理学) 筆記試験（薬物学分野：100%）を行い、評価する。</p>		
教科書 Textbooks	リハベーシック 薬理学・臨床薬理学 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	(栄養学) プリントを使用して授業を進める		

科目名 Course title	臨床検査学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山本 知子（講義・実験：筋電図） 竹村 京子（実験：脳波）	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	<p>人は様々な身体機能、精神機能を一連に行いながら生命活動を営んでいる。そこで、個体の実際の身体状況を知るため、生化学および生理学検査により情報を数値化・データ化・図示化して状況を把握し、さらに臨床的に血液検査やレントゲン検査、運動機能検査、感覚機能検査、脳波測定などを行って、詳細な身体情報を得て療法のより適切な対応をすることは重要である。</p> <p>作業療法士においては、解剖運動生理学、その他の専門基礎科目や専門科目から基礎知識を学ぶとともに、生化学・生理学的なデータを観察して人体をより詳細に理解することが大切である。</p> <p>当科目では、①筋電測定（運動機能の基本的な要素である「筋肉」の動き）②脳波測定（意識レベルを反映する「大脳皮質で発生する電気信号」）を実験的に記録観察して、身体の運動機能・精神機能についてより一層の理解を深めることを目的とする。</p>		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 筋電図、誘発筋電図の発生メカニズムについて（その1） 2 筋電図、誘発筋電図の発生メカニズムについて（その2） 3 実習 誘発筋電図、M-H波（その1） 4 実習 誘発筋電図、M-H波（その2） 5 脳波発生のメカニズムについて（その1） 6 脳波発生のメカニズムについて（その2） 7 （実習）ヒトの脳波の記録・観察（その1） 8 （実習）ヒトの脳波の記録・観察（その2） <p>※前年度実績</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>(予定) 本講座は、各専門職の講師によるオムニバス形式で進める。 講師ごとに筆記試験並びにレポート課題を行い、評価する。</p>		
教科書 Textbooks	<p>(予定)「生理学テキスト第8版」文光堂</p>		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	救急医療概論（喀痰吸引を含む）	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	<p>本講義、救急医療体制について学び、救急医療時の対応について実技も交えながら実施していく。また、救急医療現場だけでなく、その後のリハビリテーションにおいて必要とされる画像診断について学ぶ。</p> <p>さらに、喀痰・吸引の実践につながるように、実技を交えながらその概要について学習する。</p> <p>到達目標は、救急医療を理解すること、画像診断について説明でき、喀痰吸引を模擬実践できることを想定している。</p>		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 (救急) 救急医療体制とトリアージとは 2 (救急) 心肺停止に対する一時救命処置（実習あり） 3 (画像) 画像検査について 4 (画像) レントゲンの見方（一般） 5 (画像) レントゲンの見方（CT） 6 (画像) MRI の特徴と見方 7 (吸引) 嚥下機能と喀痰吸引の基礎知識 8 (吸引) 喀痰・吸引の実践（実技） <p>※前年度実績</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>(予定) 本講座は、各専門職の講師によるオムニバス形式で進める。</p> <p>講師ごとに筆記試験並びにレポート課題を行い、評価する。</p> <p>1・2回 井上先生：授業後半の実習でチームワーク、声、手技等を評価します。</p>		
教科書 Textbooks	(予定) なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	内科学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	栗岡 英行	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>リハビリテーションが必要とされる患者さんでは、脳神経や筋骨格系の疾病のみならず種々の内臓疾患に罹患していることが多い。より有効なリハビリテーションを実施するためには、それら内臓疾患についての理解が不可欠である。</p> <p>内科学では、これまでに履修した解剖学、生理学、病理学の知識をもとに、様々な疾患について病態生理から症状、診断法（様々な検査を含む）、治療法、予後などを学ぶ。</p> <p>特に臨床現場で頻回に遭遇する疾患について理解を深めるとともに、過去の国家試験問題にも留意しながら学習をすすめる。さらに医療従事者の一員として必要とされる一般的な医学的知識の習得にもつとめる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 内科学総論；内科学とは、主な疾患 2 診療の基本；カルテと問診 3 診察法（1）；バイタルサインの見方・考え方 4 診察法（2）；身体所見の取り方と疾患 5 内科的検査法、主な症候、治療法の進歩 6 循環器疾患（1）；循環器解剖生理の復習、高血圧と低血圧、ショック 7 循環器疾患（2）；動脈硬化と虚血性心疾患（①） 8 循環器疾患（3）；虚血性心疾患（②）、心不全 9 循環器疾患（4）；不整脈 10 循環器疾患（5）；様々な心疾患（弁膜症、心筋疾患、先天性心疾患など） 11 循環器疾患（6）；動脈・静脈疾患、リンパ系疾患 12 呼吸器疾患（1）；呼吸器解剖生理の復習、呼吸器検査と症候 13 呼吸器疾患（2）；病原微生物と呼吸器感染症 14 呼吸器疾患（3）；閉塞性肺疾患と拘束性肺疾患 15 呼吸器疾患（4）；その他の肺疾患（腫瘍、胸膜疾患など）と呼吸不全 <p>※前年度実績</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（授業時間内）と期末試験による		
教科書 Textbooks	「なるほどなっとく！内科学」南山堂		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	医師として臨床経験 36 年の経験を有する。		

科目名 Course title	内科学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	栗岡 英行	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>リハビリテーションが必要とされる患者さんでは、脳神経や筋骨格系の疾病のみならず種々の内臓疾患に罹患していることが多い。より有効なリハビリテーションを実施するためには、それら内臓疾患についての理解が不可欠である。</p> <p>内科学では、これまでに履修した解剖学、生理学、病理学の知識をもとに、様々な疾患について病態生理から症状、診断法（様々な検査を含む）、治療法、予後などを学ぶ。</p> <p>特に臨床現場で頻回に遭遇する疾患について理解を深めるとともに、過去の国家試験問題にも留意しながら学習をすすめる。さらに医療従事者の一員として必要とされる一般的な医学的知識の習得にもつとめる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 消化管疾患（1）；消化器解剖生理の復習、口腔～小腸までの疾患 2 消化管疾患（2）；大腸～肛門までの疾患、消化器腫瘍 3 肝臓・胆嚢・膵臓疾患（1）；肝臓・胆嚢・膵臓解剖生理の復習、肝炎・肝硬変・肝癌ほか 4 肝臓・胆嚢・膵臓疾患（2）；胆石・胆嚢炎、膵炎、膵癌など 5 代謝性疾患（1）；糖尿病 6 代謝性疾患（2）；肥満症・メタボリック症候群・脂質異常症・痛風・骨粗鬆症など 7 内分泌疾患 ；内分泌解剖生理の復習、主な内分泌疾患 8 血液疾患（1）；血液解剖生理の復習、貧血 9 血液疾患（2）；血液の腫瘍、造血幹細胞移植、出血性疾患 10 アレルギー・膠原病疾患（1）；アレルギー総説、主なアレルギー疾患 11 アレルギー・膠原病疾患（2）；自己免疫疾患総論、主な膠原病疾患 12 腎・泌尿器科疾患（1）；腎・泌尿器の解剖生理の復習、腎不全と透析・移植療法 13 腎・泌尿器科疾患（2）；主な腎疾患・泌尿器科的疾患 14 感染症（1）；感染症総論（感染経路、感染予防対策、治療法など） 15 感染症（2）；感染症各論（代表的な感染症） <p>※前年度実績</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（授業時間内）と期末試験による		
教科書 Textbooks	「なるほどなっとく！内科学」南山堂		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	医師として臨床経験36年の経験を有する。		

科目名 Course title	神経内科学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森下 真次	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	神経内科学の各論として各疾患について医学的な理解を深める。		
授業計画 Course Content	1 脳血管障害 2 中枢神経感染症 3 パーキンソン病 4 パーキンソニズム 5 不随意運動症 6 痴呆性疾患 7 てんかん 8 脊髄小脳変性症 9 運動ニューロン疾患 10 脱髄性疾患 11 脊椎・脊髄疾患 12 末梢神経疾患 13 ミオパチー 14 自律神経疾患① 15 自律神経疾患② ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	学期末のテストで評価する。		
教科書 Textbooks	「病気がみえる⑦ 脳・神経 第2版」メディックメディア		
備 考 Other Comments	講義ごとにプリントを配布		
実務経験内容	医師として臨床経験39年の経験を有する。		

科目名 Course title	精神医学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	小澤 裕子	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	・作業療法士として必要な精神医学の知識を身に付ける		
授業計画 Course Content (予定)	1 気分障害① 2 気分障害② 3 統合失調症① 4 統合失調症② 5 統合失調症③ 6 薬物依存① 7 薬物依存② 8 神経症性障害① 9 神経症性障害② 10 てんかん 11 知的障害 12 成人のパーソナリティ 13 精神障害の治療とリハビリテーション 14 精神科保健医療と福祉・職業リハビリテーション 15 社会・文化とメンタルヘルス		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験		
教科書 Textbooks	標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版増補版 医学書院		
備 考 Other Comments			
実務経験内容			

科目名 Course title	整形外科学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	寺西 朋裕	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	整形外科の基礎を修得の上、臨床応用への対応を学ぶ。続いて日常診療で遭遇する運動器疾患について学ぶ。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 整形外科の基礎知識 2 整形外科治療法 3 整形外科疾患総論 4 炎症性疾患 5 代謝・退行性疾患 6 先天性疾患① 7 先天性疾患② 8 循環障害と壊死疾患① 9 循環障害と壊死疾患② 10 骨・軟部腫瘍① 11 骨・軟部腫瘍② 12 神経・筋疾患① 13 神経・筋疾患② 14 脊椎の疾患① 15 脊椎の疾患② <p>※前年度実績</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	講義終了後、試験を行って評価する。		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第5版」医学書院 「標準整形外科学 第15版」医学書院		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	医師として臨床経験31年の経験を有する。		

科目名 Course title	整形外科学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	寺西 朋裕	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	脊髄疾患、外傷性疾患について学び、臨床能力のさらなる向上を図る。		
授業計画 Course Content	1 骨折① 2 骨折② 3 脊髄損傷① 4 脊髄損傷② 5 脊髄損傷問題 6 捻挫・脱臼 7 神経障害① 8 神経障害② 9 末梢神経損傷 10 腱・靭帯損傷 11 スポーツ障害① 12 スポーツ障害② 13 タナ障害 14 熱傷 15 切断・離断 ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	講義終了後、試験を行って評価する。		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第5版」医学書院 「標準整形外科学 第15版」医学書院		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	医師として臨床経験31年の経験を有する。		

科目名 Course title	小児科学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	西野 正人	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>臨床経験を多く入れて症例を通して疾患概念を理解してもらいたい</p> <p>小児の成長障害をきたす様々な症例を紹介し、合わせて小児科学概論、栄養、保健（健診等）についても随時触れてゆきたい。代謝疾患、内分泌疾患についても触れる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 小児の成長障害をきたす様々な症例を紹介し、内分泌・代謝性疾患への理解を深める 2 血液・免疫・救急・膠原病に関する理解を深める 3 免疫・膠原病・腎・泌尿器疾患 4 感染症・消化器疾患 5 新生児・未熟児疾患、先天異常と遺伝症 6 神経・筋・骨系疾患 7 循環器疾患、呼吸器疾患 8 習癖・睡眠関連疾患・心身医学的疾患・虐待、重症心身障害児 <p>※前年度実績</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版」医学書院		
備 考 Other Comments			

＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	リハビリテーション制度論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永宣典・勝村智加・中野里佳	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>この科目では、リハビリテーションを支える諸制度について学ぶ。具体的には、国の社会保障制度の枠組み、制度の中でも特にリハビリテーションに関連する制度をみていく。さらに、近年構築されてきている地域包括ケアシステムおよび自立支援・就労支援に関する制度や制度を用いて行われている取り組みについて話す。</p> <p>到達目標は、講義でとらえる諸制度について概要を説明できるようになること、対象者が使用できる制度とそのサービスについて理解することである。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会保障制度 <ol style="list-style-type: none"> I. 社会保障制度のなりたち II. 社会保険制度 III. 社会保障の財源 2 医療保険制度 <ol style="list-style-type: none"> I. 医療保険の仕組み II. 医療提供体制 3 医療保険制度 <ol style="list-style-type: none"> III. 診療報酬(診療報酬とその請求、リハビリテーションに関する診療報酬) 4 介護保険制度 <ol style="list-style-type: none"> I. 介護保険制度(介護保険制度の目的、制度創設の背景、制度の特徴、国民の義務) II. 介護保険のしくみ 5 介護保険制度 <ol style="list-style-type: none"> III 介護保険給付サービスの種類 IV. 介護報酬(介護報酬とその請求、リハビリテーションに関する介護報酬) 6 障害者・障害児サービスと就労支援 <ol style="list-style-type: none"> I. 障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳) II. 障害者総合支援法(制定された経緯、概要) III. 各種サービスと療法士のかかわり IV. 就労支援に関する施設と内容 7 予防・保健 <ol style="list-style-type: none"> I. 行政におけるリハビリテーション II. 行政リハビリテーション専門職の役割 III. 介護予防、保健指導、地域ケア会議 8 まとめ <p>※前年度実績</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験(10割)を実施する。		
教科書 Textbooks	齊藤秀之、能登真一 編：リハビリテーション管理学. 医学書院, 2020		
備 考 Other Comments	複数教員によるオムニバス形式		
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員28年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員7年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員4年の経験を有する。</p>		

＝作業療法評価学＝

科目名 Course title	生活行為向上マネジメント	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋和奈	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 演習	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>生活行為向上マネジメントの開発背景や構造を知る。</p> <p>事例を通して、情報を整理し対象者の全体像や取り巻く環境との関係について考察する。また、どのようなマネジメント方法があるかを検討していく。</p> <p>到達目標は、生活行為と生活行為の障害について説明できること、生活行為向上マネジメントのプロセスおよび各種シートの使い方を説明できること、各種シートの記載ができることである。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、開発の背景、用語の解説 2 生活行為と生活行為の障害、各種シートの使い方 3 演習①模擬事例 4 演習②模擬事例 5 演習③模擬事例 6 演習④模擬事例 7 演習⑤模擬事例 8 演習⑥模擬事例、まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（課題の発表および提出）		
教科書 Textbooks	「事例で学ぶ生活行為向上マネジメント第2版」医歯薬出版株式会社		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員10年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法評価演習	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	学科全教員	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	45時間 / 演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>仮定の症例について、作業療法評価計画を立案から作業療法評価レポートの作成までを演習する。その際、演習に必要な資料・文献等の収集学習や、専門基礎科目と専門科目の知識を関連づけながら考えていく論理学習等を同時に演習し、臨床実習への準備を整える。</p>		
授業計画 Course Content	<p>(45時間で行う)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ケースレポートの書き方 2 レポートを書くときの注意事項 3 ゼミ形式で担当教員の指導の下、レポートを完成させる。 4 実習セミナーに参加し、発表を傾聴し作業療法評価について考える。 <p>※前年度実績</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>期日までに提出されたケースレポート及び演習中の取り組みについて評定する。</p>		
教科書 Textbooks	<p>なし</p>		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員28年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員10年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員7年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員5年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員4年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験8年の経験及び専任教員1年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	作業療法評価技法Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／2単位
授業方法 Teaching Methods	60時間／演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	徒手筋力検査法について学びます。教科書的な技術を丸暗記するだけでなく、原理原則をしっかりと学ぶことで、対象者にあわせて対応できるようになることが目標です。環境設定、オリエンテーション、測定肢位など臨床的な技法も適宜取り入れながら講義を進めていきます。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション・学力確認テスト 2 徒手筋力検査における基本原則 3 下肢・体幹筋の総復習、下肢・体幹体表解剖 4 股関節の筋 5 股関節の筋 6 股関節の筋 7 股関節の筋 8 膝関節の筋 9 膝関節の筋 10 足関節の筋 11 足関節の筋 実技試験 12 頸部の筋 13 頸部・体幹の筋 14 頸部・体幹・骨盤の筋 15 体幹・骨盤の筋 実技試験 16 上肢筋の総復習、上肢帯体表解剖 17 肩関節の筋 18 肩関節の筋 19 肩関節の筋 20 肩甲骨の筋 21 肩甲骨の筋 22 肩甲骨の筋 23 肘関節・前腕の筋 24 肘関節・前腕の筋 25 肘関節・前腕の筋 26 手関節の筋 27 手関節の筋 実技試験 28 指の筋 29 指の筋 30 指の筋 実技試験		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	単位認定は、実技試験と終講時の筆記試験で実施する。ただし、本授業は医療現場での実践を想定しているため、受講態度、実習に不適切な風貌、は減点対象となる。本講義で行う実技試験は授業中ならびに後に定める実技試験の期間中に合格すること。		
教科書 Textbooks	「新・徒手筋力検査法 原著 第10版」協同医書出版 「ID触診術 第2版」三輪書店		
備 考 Other Comments	実技が身につくまでには多くの練習時間を要する。学生同士技術を磨きあってほしい。講義内容・実技の方法などが分からない場合は積極的に教員に質問して補習などを受けること。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員10年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法評価技法Ⅳ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	小澤 裕子	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	自分というフィルターを通して他者を観察・評価していくことを体験し、意識化・実務経験化する。 ワーク中心。		
授業計画 Course Content (予定)	(30時間で行う) 1 精神科領域の評価とは 2 主観と客観 3 自分を知る 4 ペルソナ 5 コミュニケーション 6 言動の評価 7 情報の取り扱い方 8 ものがたり 9 疾患について 10 観察 11 面接 ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	課題点＋試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験19年の経験及び教員7年の経験を有する。		

＝作業療法治療学＝

科目名 Course title	精神障害作業療法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	精神障害関連領域における基礎的な知識の整理（精神科医療の歴史、関係法規、社会資源、リスク管理、関連理論など）と障害特性、評価の特性を考える。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 精神障害とは・精神障害者の処遇の歴史・関連法規 2 自己理解とは？ 3 精神障害論・特性 ICF 4 精神疾患の生活のしづらさ・妄想・幻覚等症状の種類や特徴 5 評価の流れと評価手段① 面接法体験 6 評価の流れと評価手段② 箱作り体験 REHAB, LASMI 等評価バッテリー 7 精神科 OT の治療構造 回復段階 8 人と場・集団 治療因子と構造因子・集団の発達レベル 9 作業の分類 目的としての作業・手段としての作業 10 地域精神科医療（訪問・ACT） 11 リカバリーモデル・ストレングスモデル・エンパワーメント 12 就労支援① 13 就労支援② 14 認知行動療法：SST・ディベート体験 15 まとめ ※前年度実績 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験にて行う。		
教科書 Textbooks	ゴールドマスターテキスト「精神障害作業療法学」メジカルビュー社		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 7 年及び教員 7 年の経験を有する。		

科目名 Course title	老年期障害作業療法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	名倉 和幸	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>本邦の総人口は1億2,711万人（2015年時点）だが、65歳以上の高齢者人口は3,392万人を数える。総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は26.7%であり、世界に類を見ない超高齢化社会である。総人口が減少するなかで高齢化率は上昇を続け、2060年には高齢化率は39.9%に達し、2.5人に1人が65歳以上となる見通しである。</p> <p>このような環境の中、国や都道府県、各市町村自治体は地域包括ケアシステムの整備をすすめるとともに、要支援認定者や事業対象者（いわゆる軽度者）の支援のあり方とリハビリテーション専門職等の関与について様々な議論をおこなっている。本講座ではこれらの取り組みを解説し、高齢者の特性や尊厳をふまえた支援について検討することで高齢者領域における作業療法のあり方を考察する。</p>		
授業計画 Course Content	<p>（30時間で行う）</p> <p>1・2 高齢者の特徴と理解（市民向け講座から）</p> <p>3・4 日本のこれからと地域包括ケアシステム</p> <p>5・6 地域支援事業と総合事業/リハ職同行訪問アセスメント</p> <p>7・8 短期集中予防サービス/軽度者支援の実際と作業療法 ※5～8を「これからの軽度者支援」として講義</p> <p>9・10 高齢者支援の実際（各専門職の関わり、紹介など） その1 ・介護支援専門員（ケアマネジャー） ・地域包括支援センター ・言語聴覚士、歯科衛生士（口腔プログラム） ・管理栄養士（栄養改善プログラム）</p> <p>11・12 高齢者支援の実際（各専門職の関わり、紹介など） その2 ・リハビリテーションの目指すもの ・作業療法士（MTDLPも含めた） ・理学療法士（運動器の向上プログラム）</p> <p>13・14 自立支援を目的とした軽度者支援について 事例検討と演習</p> <p>15 まとめ（1～14の要約と説明、3年生の地域作業療法学へのつなぎなど）※前年度実績</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks			
備 考 Other Comments			
実務経験内容			

科目名 Course title	発達障害作業療法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	中野 里佳	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	<p>【一般目標】</p> <p>発達障害の各論を学ぶのに必要となる、発達障害の病態や種類、作業療法の基本的な考え方を理解する。</p> <p>【行動目標】</p> <p>① 基本的な原始反射を理解する。</p> <p>② 定型発達運動、感覚、遊びなどの概要を理解する。</p> <p>③ 脳性まひ児の種類や病態を理解し、作業療法の考え方を理解する。</p> <p>④ 進行性筋ジストロフィー、ダウン症、二分脊椎の作業療法の考え方を理解する。</p> <p>⑤ 自閉症スペクトラム障害の種類や病態、作業療法の考え方を理解する。</p> <p>⑥ 発達検査の概要や意義を理解し、必要な検査が選択できるようになる。</p> <p>⑦ 感覚統合など主な理論の概要を理解する。</p>		
授業計画 Course Content	<p>1 原始反射</p> <p>2 定型発達（粗大運動）①</p> <p>3 定型発達（粗大運動）②</p> <p>4 定型発達（巧緻運動）③</p> <p>5 定型発達（感覚・知覚・認知機能）</p> <p>6 定型発達（ADL）</p> <p>7 定型発達（遊び・社会性）</p> <p>8 発達検査</p> <p>9 脳性まひ児の病態、種類や特性</p> <p>10 脳性まひ児の作業療法</p> <p>11 自閉症スペクトラム障害の病態や特性</p> <p>12 自閉症スペクトラム障害の作業療法</p> <p>13 感覚統合、応用行動分析など</p> <p>14 知的障害、進行性筋ジストロフィー、二分脊椎などの作業療法</p> <p>15 まとめ</p> <p>※前年度実績</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト、単位認定試験		
教科書 Textbooks	「Cross basic リハビリテーションテキスト 人間発達学」メジカルビュー 「作業療法学 発達障害作業療法学 第3版」メジカルビュー		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験21年及び専任教員4年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法 I (発達疾患 I)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	黒澤 淳二	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	整形疾患、重症心身障害を中心とした疾患別の障害特性及び作業療法の進め方について、講義及びグループワークによって理解を深める。		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 DMD 児・者の概要および治療 2 DMD 児・者についてグループワーク、発表 3 重症心身障害児・者の概要および治療 4 重症心身障害児・者についてのグループワーク、発表 5 二分脊椎児・者の概要および治療 6 二分脊椎児・者についてグループワーク、発表 7 骨関節疾患児・者の概要および治療 8 骨関節疾患児・者についてのグループワーク、発表 <p>※前年度実績</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 試験 100%		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験33年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅱ (発達疾患Ⅱ)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	加藤 雅子	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	脳性麻痺についての概要、および障害特性によって分類されたタイプ別に、視聴覚教材を用いて臨床像や基本的問題点を確認し、障害特性のイメージと理解につなげる。また、それらの障害が、発達過程におよぼす影響についても講義し、評価～作業療法のアプローチポイントを理解する。		
授業計画 Course Content (予定)	1 脳性麻痺についての概要① 2 脳性麻痺についての概要② 3 脳性麻痺 痙直型両麻痺① 4 脳性麻痺 痙直型両麻痺② 5 脳性麻痺 痙直型片麻痺① 6 脳性麻痺 痙直型片麻痺② 7 脳性麻痺 アテトーゼ型・失調型① 8 脳性麻痺 アテトーゼ型・失調型② ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 筆記試験および出席状況		
教科書 Textbooks	(予定) なし 資料を配布		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験7年及び教員30年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅲ (精神疾患)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	精神疾患別の障害特性、作業療法の進め方について		
授業計画 Course Content	1 精神科の基礎知識① 2 精神科の基礎知識② 3 統合失調症のOT① 4 統合失調症のOT① 5 気分障害のOT① 6 気分障害のOT② 7 各種依存症のOT 8 神経性障害のOT 9 てんかんのOT 10 薬物療法 11 模擬症例の評価計画(GW) 12 精神科でかかわることのある発達障害① 13 パーソナリティ障害のOT① 14 パーソナリティ障害のOT② 15 模擬症例 評価計画発表		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	発表(40点満点) 筆記試験(60点満点)		
教科書 Textbooks	中央法規：疾患の理解と精神科作業療法 その他：適宜資料配布		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	勝村教員：作業療法士として臨床経験7年及び教員7年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅳ (老年期疾患)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	高齢期分野に多い疾患やそれに対応するアプローチなどを学ぶ。また超高齢化社会となっている我が国における高齢期分野の根底となりつつある地域包括ケアシステムなどについて知り、どのような支援を行うべきなのかを考える。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢期分野とは・・・老人疾患の特徴、加齢と老化 介護保険とその流れ 高齢マネジメント・地域包括ケアシステム 2 認知症とは・・・認知症全般に関連する症状・疾患など 認知症のリハビリテーションと関わり方①アルツハイマー型認知症/脳血管性認知症 3 認知症のリハビリテーションと関わり方②レビー小体型認知症/前頭側頭型認知症/その他認知症 4 HDS-R と MMSE 特徴・実技など。その他高齢期に関連する評価スケール 5 認知症の OT でよく使われる手法 脳トレ体験 6 高齢者の運動器疾患とリハビリテーション① 骨折と置換術/骨折の合併症/脱臼肢位 7 運動器不安定症・ロコモティブシンドローム 8 フレイル・サルコペニア 口腔体操体験 9 廃用症候群/誤用症候群/過用症候群 10 廃用への対応① CVA・廃用からの脱臼等の患部保護について。三角巾での保護実技 11 廃用への対応② 軽運動(棒体操)/ROMex 12 呼吸リハ① 13 呼吸リハ② 呼吸介助・胸郭ストレッチ 体験 14 地域リハ① 15 地域リハ② <p>※前年度実績</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	老人のリハビリテーション 医学書院		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員7年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅴ (脳血管疾患)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高橋 敏明	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	45時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	<p>脳血管障害患者は生活習慣病の中の代表的疾患であり、医療・保健・福祉の各分野におけるリハビリテーション、とりわけ作業療法部門においては避けることの出来ない対象である。</p> <p>脳血管障害に関する発生機序、心身に及ぼす障害について理解し、対応するリハビリテーションプロセス（リハビリテーション評価の流れ、心身機能、生活障害の程度を測る各手法、対象者のリハビリテーション課題を探るポイント、社会復帰への目標設定など）について整理する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 脳の機能解剖 2 脳の機能局在 3 脳血管障害の経過 4 脳血管障害の分類 5 脳血管障害による症状① 6 脳血管障害による症状② 7 画像診断 CT 8 画像診断 MRI 9 ブルーンストロームとは 10 上田の12段階評価とは 11 上田の12段階 実技 上肢 12 上田の12段階 実技 下肢 13 上田の12段階 実技 手指 14 手指機能検査 STEF ペグ 15 作業療法評価指針① 16 作業療法評価指針② 17 ADL 評価 パーセルインデックス 18 ADL 評価 FIM 19 ポジショニング実技 20 片麻痺の基本動作 21 片麻痺の応用動作 22 作業療法治療指針 23 まとめ <p>上記の進行に沿って、座学・実技を交えて講義する。 一項目が複数回に亘ることもあり、学生にはその都度、特に実技準備品について事前連絡を講師より行う。 ※前年度実績</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①出席率 ②課題レポートの内容 ③筆記試験の採点 ④授業態度		
教科書 Textbooks			
備 考 Other Comments	パソコン・プロジェクター使用		
実務経験内容	作業療法士として教員3年及び臨床34年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅵ (整形疾患)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	4 5時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手の機能解剖について理解する ・ 手の外科領域の専門用語について理解する ・ 手術法、術後療法、リスク管理について理解する ・ 標準的訓練プログラムについて理解する ・ 臨床実習および卒後診療に最低限必要な技術、知識を習得する 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 整形 OT とは、骨の機能、成長、新陳代謝、関節、関節の機能、筋、末梢神経 2 疼痛、変形、拘縮、強直、動揺関節 3 整形外科診断と検査、保存療法、手術療法 4 骨折総論① 5 骨折総論② 6 骨折総論③ 7 骨折総論④ 8 橈骨遠位端骨折① 9 橈骨遠位端骨折② 10 橈骨遠位端骨折③ 11 腱損傷① 12 腱損傷② 13 腱損傷③ 14 腱損傷④ 15 切断① 16 切断② 17 切断③ 18 切断肢の作業療法訓練 19 熱傷 20 末梢神経損傷① 21 末梢神経損傷② 22 関節リウマチ① 23 関節リウマチ② <p>※前年度実績</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「リハ実践テクニク ハンドセラピー」メジカルビュー社 「リハ実践テクニク 関節リウマチ 改訂第2版」メジカルビュー社		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験9年及び専任教員28年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅶ (難病)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高橋 敏明	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>「難病」とはその名のとおりに、根本的治療法が未だ確立されていない疾患の総称で、医療・保健・福祉の分野ではケアに長期間を要する。授業では以下の理解を深める。</p> <p>① 難病疾患に関する社会支援制度、とりわけ公的介護保険制度との関係について、</p> <p>② 代表的な神経難病についての疫学、症状、リハビリ評価、対応について整理する。</p>		
授業計画 Course Content	<p>1 神経難病とは</p> <p>2 神経難病に関する医療、福祉制度</p> <p>3 パーキンソン病とは</p> <p>4 パーキンソン病の評価、作業療法</p> <p>5 多発性硬化症</p> <p>6 脊髄小脳変性症</p> <p>7 廃用症候群について</p> <p>8 まとめ</p> <p>※前年度実績</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>① 欠席状況、遅刻・早退</p> <p>② 定期試験採点</p> <p>③ 授業態度</p> <p>等で評価いたします。</p>		
教科書 Textbooks	講師作成プリント・スライド		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として教員3年及び臨床経験35年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅶ (高次脳機能障害)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	高次脳機能について概説をした上で、諸症状別に内容及び作業療法による介入方法を知る。高次脳機能障害の各症状と作業機能障害との関連性を考え、介入方法を検討できるようになる。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 高次脳機能って？脳の局在？脳の発達と高次脳機能 2 失語症のOT① 3 失語症のOT② ブローカー ウェルニッケ 動画 4 失行症のOT コース立方体体験 5 失認症のOT① 6 失認症のOT② 7 USNのOT① 8 USNのOT② BIT 標準検査体験 9 記憶障害のOT 10 注意障害のOT① 11 注意障害のOT② TMT かなひろい ハノイの塔 レイ複雑図形 体験 12 遂行機能障害のOT① 13 遂行機能障害のOT② 14 遂行機能障害に関する検査 FABとは？BADSとは？ FAB・ストループ・動物園地図課題など体験 15 プッシャー現象は高次脳機能障害?? 振り返り・まとめ <p>※前年度実績</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（100%）		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学 第2版」医学書院 「リハビリテーションにおける 評価法ハンドブック - 障害や健康の測り方 - 」医歯薬出版		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験7年及び専任教員7年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法区 (脊椎損傷)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	脊髄損傷の症状の特性を理解し、作業療法での評価・治療を含め、リハビリテーションチームとしての 関わりや社会復帰についての OT アプローチ等を学習する。		
授業計画 Course Content (予定)	1 脊髄損傷とは 2 麻痺の特性と随伴症状について 3 受傷原因、急性期の症状と対処 4 急性期におけるリハビリテーション 5 合併症とその管理について 6 脊髄損傷者の基本動作 7 脊髄損傷者の車いすや移乗方法について 8 評価と訓練計画 9 食事、整容動作 10 排泄動作 11 更衣、入浴動作 12 住宅改修の特徴と福祉機器 13 脊髄損傷の損傷髄節レベル別の ADL の特徴 14 作業療法の具体的支援方法 15 症例検討 ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 出席状況、授業態度、筆記試験。		
教科書 Textbooks	(予定)「頸髄損傷のリハビリテーション 改訂第3版」協同医書出版		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	動物介在療法Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山本 妃呂己、磯脇 知世	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	<p>【講義概要】</p> <p>すでに1年次後期の動物介在療法Ⅰでは、馬介在療法（Horse-assisted Therapy）について概論的に学び、馬の特徴、人と馬の関係、人と馬の類似点、馬のリハビリテーションへの活用方法、馬と社会資源などについて大まかに知識を得た。</p> <p>この講義では、実際に馬介在療法を児童福祉施設で実践・活用している理学療法士、作業療法士をお招きし、馬介在療法の上でどのように実施して理学療法、作業療法を実践するのか、実践例や実技を交えて学んでいく。また、理学療法士、作業療法士が馬介在療法を使って支援する際、どのように評価、プログラム立案をするのか、その考え方の基礎を学ぶ。さらに、馬介在療法を実践する際は、数名のスタッフが連携して実施することが多いため、その際が多職種連携についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 馬介在療法を実践する上での理学療法的な評価の視点を理解する。 ② 馬介在療法を実践する上での作業療法的な評価の視点を理解する。 ③ 馬介在療法を実践する上での支援の基本的な考え方を理解する。 ④ リハ職が馬介在療法を実践する際が多職種の連携を理解する。 		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 馬介在療法と理学療法について 理学療法士が馬介在療法を実践するとはどういうことか、専門性は何かについて学ぶ。 2 馬介在療法を介しての理学療法評価上の視点について 特に基本的な身体機能面を評価する際に重要な視点について学ぶ。 3 馬介在療法を介しての理学療法評価についての実践例 実際に馬を活用しての実技を通して、馬介在療法における理学療法評価の視点を学ぶ。 4 馬介在療法を介しての理学療法的支援について、多職種連携の視点について 理学療法計画を立てる際の重要な視点を学ぶ。また、馬介在療法は複数のスタッフで実践することが多いので、多職種の連携の必要性を学ぶ。 5 馬介在療法と作業療法について 作業療法士が馬介在療法を実践するとはどういうことか、専門性は何かについて学ぶ。 6 馬介在療法を介しての作業療法評価上の視点について 特に応用動作的な評価、精神機能面を評価する際に重要な視点について学ぶ。 7 馬介在療法を介しての作業療法評価についての実践例 実際に馬を活用しての実技を通して、馬介在療法における作業療法評価の視点を学ぶ。 8 馬介在療法を介しての作業療法的支援について、多職種連携の視点について 作業療法計画を立てる際の重要な視点を学ぶ。 また、馬介在療法は複数のスタッフで実践することが多いので、多職種の連携の必要性を学ぶ。 <p>※講義は、馬の体調や天候、学生の理解によって順番が変わることがある。 ※前年度実績</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 主に講義態度（出席など）と筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	馬を使った実践をするため、服装に留意すること。 動物アレルギーのある者は事前に申し出ること。		

科目名 Course title	日常生活活動学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	日常生活活動、生活関連活動とは何か？個人がその人らしく『生活する』とはどういうことなのか？を学びます。各人を取り巻く環境は同じではなく、万人が行っている身の回りの活動ひとつとっても、その中に個別の「こだわり」が存在するものもある。そこに作業療法士が関わることで、対象者の生活をどのように取りもどし、援助していくのかを考えていきます。		
授業計画 Course Content	日常生活活動(ADL)と作業療法 1 オリエンテーション 「ADL」とは / 「日常生活とは」 2 ADLとは 定義・概念・範囲について 3 基本動作と Self-care 4 Self-care の5項目について考える 5 「できるADL」と「しているADL」 6 ADLの自立とQOL 7 健常者の動作とは 8 ADL動作と動作分析 9 ADL動作と動作分析 10 生活関連活動について 11 日常生活活動の評価 / テストバッテリー 12 生活と文化的側面とは 13 疾患別ADLについて(呼吸器疾患) 14 疾患別ADLについて(脳血管疾患) 15 疾患別ADLについて(整形疾患) ※順番が変わることがある		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「作業療法学全書第11巻 作業療法技術学3 日常生活活動 改訂第3版」 協同医書出版		
備 考 Other Comments	実技を行うことがあるため、基本的に動きやすい服装で受講すること。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験15年及び専任教員10年の経験を有する。		

科目名 Course title	義肢学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	橋本 寛	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 演習	実務経験 Experience	(義肢装具士)
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>義肢の概観を学び、リハビリテーションとの関連や基本原理を講義します。基本的な義肢装具の用語や概念が説明でき、基本原理を理解応用できるようになることを到達目標とします。見本や臨床例などを交えて講義を行います。アクティブラーニングの手法を織り交ぜて実施しますので、積極的に参加してください。また他の専門科目の知識を活用して理解を深めるようにしてください。</p>		
授業計画 Course Content	<p>※ () 内は教科書の章 例：1-1…第1章1 1 義肢総論 (0-1, 1-1) 義肢装具の位置づけ、義肢の歴史 2 義肢総論 2 (1-3, 4) 義足 3 義肢総論 3 (1-2, 5, 6) 義手、基礎医学、臨床医学 4 前腕義手 (1-7) 5 上腕義手 (1-8) 6 その他の義手 (1-9, 10) 7 義手のチェックアウト (1-7, 8) 8 義肢学まとめ</p> <p>※・授業の進捗状況に応じて、進度を変更することがあります。 ・理解する項目や覚える事柄が多く出てきます。各回で復習をいれますので、丸写しにせず、“思い出す努力”をしながら理解し、ほかの人に説明できるようになってください。 ・適宜討論や発表、指名発言を求めますので、積極的に参加してください。</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>最終試験合計60%以上を合格とします。試験範囲は教科書及び講義中の配布資料とします。</p>		
教科書 Textbooks	<p>「義肢装具学」作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト メジカルビュー社</p>		
備 考 Other Comments	<p>教科書を使用し、不足部分を講義の配布資料で補います。平常点は、授業への積極的な参加（発表、討議、質問）とします。</p>		
実務経験内容			

科目名 Course title	装具学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	4 5時間 / 演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	上肢装具の機能、適応について教授し、代表的な装具に関しては採形から制作までを実施し、修正技術、適合判定技術を習得する。		
授業計画 Course Content	1 装具概論（装具とは、機能、適応） 2 装具の分類、目的、原理 3 製作実習① 指用装具 4 製作実習② 指用装具 5 製作実習③ 指用装具 6 カックアップスプリント① 7 カックアップスプリント② 8 カックアップスプリント③ 9 カックアップスプリント④ 10 カックアップスプリント⑤ 11 カックアップスプリント⑥ 12 カックアップスプリント⑦ 13 カックアップスプリント⑧ 14 カックアップスプリント⑨ 15 カックアップスプリント⑩ 16 短対立装具① 17 短対立装具② 18 短対立装具③ 19 短対立装具④ 20 短対立装具⑤ 21 短対立装具⑥ 22 短対立装具⑦ 23 まとめ ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 実技課題の提出		
教科書 Textbooks	イラストでわかる装具療法 医歯薬出版		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験9年及び専任教員28年の経験を有する。		

科目名 Course title	福祉用具支援技術論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典 ・ 隅野 裕之	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	2000年4月より介護保険制度も開始され、わが国でも福祉用具のレンタルや住宅改修が積極的に利用されつつあるが、まだ全体的な利用率は低い水準にとどまっている。本講座では作業療法士として必要な機器支援の方法、機器の使用法の基礎を学習する。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉用具とは、背景、分類、ISO9999 2 介護保険制度、貸与と特定福祉用具、作業療法士の役割 3 機器使用者に対する支援、機器提供のプロセス 4 中間ユーザーとしての役割、福祉機器の情報 5 車いす、電動車いす 6 車いすの種類、機能、機構 7 移乗用具（ホイスト、吊具） 8 ベッドと周辺機器、テーブル 9 排泄のための機器 10 入浴のための機器 11 手すりスロープ 12 コミュニケーション機器 13 起居関連用具②（マットレス、ベッド手すり、サイドレール） 14 起居関連用具③（寝返り補助用具、姿勢補助用具） 15 起居関連用具④（椅子、いす車、手すり） 16 起居関連用具⑤（ベッドの利点と欠点、寝具選択のポイント） 17 移動関連用具②（歩行者・歩行車、床上移動用具） 18 移動関連用具③（車いすの分類、自走用車いすの種類） 19 移動関連用具⑤（介助用車いす、チルト機構、リクライニング機構） 20 移動関連用具⑥（電動車いす・電動化ユニット） 21 移動関連用具⑦（車いすオプション・クッション） 22 移動関連用具⑧（車いすの選択・車いすに求める要因） 23 移動関連用具⑨（障害形態別移動法） ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「作業療法学全書第10巻 作業療法技術学2 改訂第3版 福祉用具の使い方・住環境整備」 協同医書出版 福祉用具支援論 財団法人テクノエイド協会		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験9年及び専任教員28年の経験を有する。 隅野講師：作業療法士として臨床経験23年の経験を有する。		

科目名 Course title	福祉用具支援技術論演習	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>作業療法士の援助技術の一つとして自助具適応による生活能力の向上が上げられる。この講座では自助具に関する基本的な考え方と適応技術について学ぶ。</p> <p>後半はいくつかの対応課題について実際に自助具を設計・作成し、材料の選択加工方法についても学ぶ。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 自助具とは基本的知識 2 自助具の製作、注意点 3 製作実習① 4 製作実習② 5 製作実習③ 6 製作実習④ 7 発表会 8 まとめ <p>※前年度実績</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<ol style="list-style-type: none"> ①実技（作品の提出） ②レポート ③筆記試験 		
教科書 Textbooks	<p>「作業療法学全書第10巻 作業療法技術学2 改訂第3版 福祉用具の使い方・住環境整備」 協同医書出版 福祉用具支援論 財団法人テクノエイド協会</p>		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	<p>作業療法士として臨床経験9年及び専任教員28年の経験を有する。</p>		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	臨床見学実習 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害の中から2つの領域において、臨床での作業療法場面を見学します。臨床実習指導者の指導のもと、初めて臨床で具体的なモデルを直接観察したり、会話をしたり、触れたりすることで、疾患像・障害像・患者像を明確にしていきます。</p> <p>また、直接作業療法士の仕事をし、作業療法の流れや役割等を確認し、2年次後期課程に予定されている各領域での作業療法各論を効果的に学習できる態勢を整えていきます。</p>		
授業計画 Course Content	<p>(各実習施設による)</p> <p>感染症などにより公欠となった場合、実習期間外にて後日補充実習となる場合あり。また各実習施設にて実習困難な場合、状況によっては一部学内演習とする場合がある。</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習施設の評定と実習終了後のセミナーを含めて総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員28年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員10年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員7年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員5年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員4年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験8年の経験及び専任教員1年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	臨床見学実習Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	45時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害の中から2つの領域において、臨床での作業療法場面を見学します。臨床実習指導者の指導のもと、初めて臨床で具体的なモデルを直接観察したり、会話をしたり、触れたりすることで、疾患像・障害像・患者像を明確にしていきます。</p> <p>また、直接作業療法士の仕事ぶりを見学し、作業療法の流れや役割等を確認し、2年次後期課程に予定されている各領域での作業療法各論を効果的に学習できる態勢を整えていきます。</p>		
授業計画 Course Content	<p>(各実習施設による)</p> <p>感染症などにより公欠となった場合、実習期間外にて後日補充実習となる場合あり。また各実習施設にて実習困難な場合、状況によっては一部学内演習とする場合がある。</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習施設の評定と実習終了後のセミナーを含めて総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員28年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員10年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員7年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員5年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員4年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験8年の経験及び専任教員1年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	臨床評価実習	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／3単位
授業方法 Teaching Methods	135時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	本臨床評価実習の主目的は、前職業人として実習施設職員ならびに担当症例と望ましい人間関係を保ちながら、担当症例に対して必要な作業療法評価（情報収集、面接、観察、検査、測定）を実施し、全体像把握から問題点抽出、目標設定、援助計画の立案までを学習することとします。総合臨床実習に向けて、今後の自己の学習課題を明確化することに主眼が置かれます。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による） 感染症などにより公欠となった場合、実習期間外にて後日補充実習となる場合あり。また各実習施設にて実習困難な場合、状況によっては一部学内演習とする場合がある。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	① 実習前評価（OSCE） ② 実習施設の評価 ③ 実習終了後評価 上記①～③を以って総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員28年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員10年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員7年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員5年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員4年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験8年の経験及び専任教員1年の経験を有する。		

講義概要

2025年度 作業療法学科
3年生

阪奈中央リハビリテーション専門学校
作業療法学科

《専門分野》＝基礎作業療法学＝

科目名 Course title	作業療法研究法	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	中野里佳	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	①作業療法研究の必要性と意義を説明できるようになる。 ②研究の種類とデザイン、統計について説明できるようになる。 ③論文の構成と記載すべき事項を説明できるようになる。 ④実証研究を実施しレポートを作成できるようになる		
授業計画 Course Content	1 作業療法研究、臨床倫理と研究倫理、臨床疑問と研究の種類概要 2 研究の種類とデザイン（量的研究：観察研究、介入研究） 3 質的研究：混合法、事例を通じた研究 4 調査票の設計、尺度開発、文献研究、データベース研究 5 研究対象者の選定、アウトカム 6 研究目的に応じた統計解析（概観） 7 実証研究実施 8 実証研究実施		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験、レポート		
教科書 Textbooks	編集 山田孝：「標準作業療法学専門分野 作業療法研究法」. 医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員4年の経験を有する。		

＝作業療法管理学＝

科目名 Course title	作業療法管理学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永宣典・中野里佳	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>講義概要</p> <p>作業療法士としてだけでなく、職業人として部門を管理・運営していくには何が必要か。こうした問題意識を起点として、医療・介護保険・障害者総合支援法の制度概要と仕組みについてみていき、部門を管理するための視点を検討する。さらに、業務管理における書類作成など遵守事項や医療の質を高めつつリスクをマネジメントする方法について講義をしていく。</p> <p>到達目標</p> <p>①診療報酬制度・介護報酬制度について理解し、概要について説明できるようになる</p> <p>②診療報酬制度・介護報酬制度の改定情報を自身で得ることができるようになる</p> <p>③業務管理について理解する</p> <p>④医療の質、リスクマネジメントについて理解する</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会保障制度の振り返りと制度・グループワークテーマの説明・ワーク開始 2 医療保険制度の仕組みと作業療法部門・介護保険制度の仕組みと作業療法部門 3 障害者総合支援法の仕組みと作業療法部門・予防、保健行政の仕組みと作業療法部門 4 業務管理（前半）：病院・施設の組織、療法士の業務、コンプライアンス 5 業務管理（後半）：労務管理、組織マネジメント 6 医療の質とリスクマネジメント 7 EBMと診療ガイドライン 8 まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	<p>教科書：齊藤秀之 能登真一 編集：リハビリテーション管理学. 医学書院</p> <p>参考資料：中村隆一・佐直信彦編集：入門リハビリテーション概論. 医歯薬出版株式会社</p>		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員28年の経験を有する。</p> <p>中野教員：作業療法士として臨床経験21年及び専任教員4年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	作業療法管理学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宝田 愛	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>講義概要：保健医療専門職に求められる職業倫理や関連法規を理解し、リハビリテーションサービスを提供する上で必要な多職種連携・地域連携の基礎を学ぶ。また、作業療法士が保健医療専門職として社会の中で担う役割・知識・技術・学習理論・教育手段についても学ぶ。加えて感染症が社会にもたらす影響を理解し、その具体的な予防法について修得する</p> <p>到達目標：①専門職に求められる職業倫理について理解する。 ②保健医療をめぐる法律や医療スタッフに関する法律について理解する ③多職種連携・多職種協働の必要性について理解する。 ④地域包括ケアシステムについて理解する。 ⑤感染症に関する知識をもち、具体的な感染予防対策をとることができる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 職業倫理① 専門職に求められる職業倫理 2 職業倫理② 身分法と倫理綱領 3 多職種連携 4 地域連携 5 養成教育 6 卒後教育 7 感染症の現状と対策 8 感染症の予防（実技） 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（100%）		
教科書 Textbooks	齊藤秀之 能登真一 編集：リハビリテーション管理学. 医学書院		
備 考 Other Comments	適宜配布資料を使用し授業を実施する		
実務経験内容	宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員5年の経験を有する。		

＝地域作業療法学＝

科目名 Course title	地域作業療法学 I	学 科 Department	作業療学科
担当者名 Instructor	名倉 和幸	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	<p>本邦の総人口は1億2,711万人（2015年時点）だが、65歳以上の高齢者人口は3,392万人を数える。総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は26.7%であり、世界に類を見ない超高齢化社会である。総人口が減少するなかで高齢化率は上昇を続け、2060年には高齢化率は39.9%に達し、2.5人に1人が65歳以上となる見通しである。</p> <p>このような環境の中、医療介護の持続可能性を高めるための施策として地域包括ケアシステムの構築が急がれるが、中でも介護予防・自立支援の観点から進められる軽度者支援については最重要テーマであり、全国さまざまな自治体でリハビリテーション専門職への期待が高まっている分野である。</p> <p>本講義では、医療保険福祉の様々な分野において作業療法士が基本とすべき支援のあり方を整理し、その中でも地域在住高齢者への支援と地域支援事業・日常生活支援総合事業への関りという観点から作業療法士の将来展望を学ぶ講義としたい。</p>		
授業計画 Course Content (予定)	<p>全8コマ（1コマ90分）の講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保健医療福祉の各領域について 2 地域包括ケアシステムについて 3 介護保険制度について 4 介護保健施設の取り組みについて 5 地域支援事業と総合事業について 6 リハ職同行訪問アセスメントについて 7 短期集中予防サービスについて 8 軽度者支援の実際と作業療法について <p>※5～8の4講座をまとめて「これからの軽度者支援のあり方」として講義予定 ⇒同内容を2年生で受講しているが、厚生労働省や自治体などの最新の取り組みや状況を加えた内容で学習をおこなう。</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	特になし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	名倉講師：作業療法士として臨床経験26年の経験を有する。		

科目名 Course title	地域作業療法学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	寺村 肇・伊藤 健次郎・武平 孝子	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	様々な領域での地域作業療法について講義を行います。		
授業計画 Course Content (予定)	<p>(15時間で行う)</p> <p><精神障害領域> 精神障害領域での地域リハビリテーションの具体的な取り組みの紹介。 ケアマネジメントの考え方について講義。 講義① ・地域リハビリテーションの歴史的背景 ・ケアマネジメントの紹介 講義② ・地域リハビリテーションの取り組み ・地域リハビリテーションでの作業療法士の役割</p> <p><訪問リハ> 地域作業療法の実践や現状を訪問看護ステーションや就労支援事業所で勤務する OT、介護保険、障害福祉サービスを利用している利用者さんから聴き取る。 ワークショップ、参加型の講義を通して、学生さん自らで地域作業療法をデザインしてもらい、アイデアを共有し自分なりの地域作業療法のカタチを見出す。 講義①「地域作業療法のカタチ①」 1. 自己紹介、キャリア紹介 2. 各定義の紹介、日本地域作業療法学会、地域包括ケアシステムなどの説明 3. アクティブの紹介 訪問リハ、デイ、アクティブクラブ、就労支援、求められること、 活動・参加応援事例集、心意気実践チーム等の紹介 4. 利用者さんの紹介 ～疾患、障害のこと等を紹介～ 講義②「地域作業療法のカタチ②～ケースを実際に通して～」 1. 利用者さんトークライブ ～ご病気のこと、障害のこと、お仕事のこと、訪問看護・リハに望むこと～ 2. 質問タイム、運動麻痺のある左上肢の触診体験 3. 感想文作成 講義③「地域作業療法のカタチ③～地域で活躍する病院 OT から&地域の社会課題とは～」 1. 講師紹介 / 2. 活動報告 / 3. 地域の社会課題とは、ソーシャルキャピタルとは、 地域コミュニティづくりの事例等の話題提供 4. 感想文作成 (A4 用紙) 講義④「地域作業療法デザイン～地域包括ケアシステムのなかでの OT の役割とは～」 1. グループワークのルールや流れ、LTP などのフレームワークの活用方法の説明 2. グループワーク / 3. 発表・報告 / 4. まとめ</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>(予定)</p> <p><精神> 2回の講義を踏まえて、地域リハビリテーションの課題についてレポート A4 1枚程度作成。 <訪問> グループワーク中で作成した LTP2 レポートを個別に完成させたものを A4 用紙 1枚程度作成。</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	地域作業療法学Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	中野 里佳	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>〈発達障害領域の地域作業療法〉</p> <p>発達障害を伴う子どもたちや大人とその家族が地域で生活する際の課題を知り、支えるための社会資源、制度などについて学び、作業療法士の責務を理解する。</p>		
授業計画 Course Content	<p>近年、医療ケアが必要な子ども、自閉症スペクトラム、学習障害、発達性運動障害などを伴う子どもが増えている。子どもたちやその家族が抱える問題、支援するための社会資源、制度について体系的に学び、ディスカッションを通して作業療法士の役割について考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域作業療法（発達障害領域）概論 作業的公正、作業権、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョンなど作業療法実践に必要な理論や概念について理解する。 2 0歳～未就学児の支援 新生児集中治療室（NICU）、新生児診療相互援助システム（NMCS）、児童発達支援事業、保育所等訪問支援事業、訪問リハビリテーション等、子どもや家族を支えるサービスと作業療法士の役割について学ぶ。 3 学童期～思春期（小学生～高校生）の支援 放課後デイサービス、特別支援教育、個別支援計画、保育所等訪問支援事業など、教育を受ける権利および地域参加を補償するための包括的な支援について理解し、作業療法士の役割を学ぶ。 4 青年期の支援 就労支援、自立生活支援、意思決定支援、ACP（アドバンスケアプランニング）についての理解と作業療法士の役割を学ぶ。 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	グループディスカッション、筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員4年の経験を有する。		

科目名 Course title	居住環境整備論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	隅野 裕之	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	住宅改修を中心に福祉用具の利用も併せて、生活環境調整の為の評価と実際を学び、より豊かな生活と活動範囲の拡大を目指した関わりができることを目的に学習する。		
授業計画 Course Content (予定)	(15時間で行う) 1 「障がい者・高齢者の機能特性と問題点・住環境整備の必要性」 2 「住環境整備に必要な基礎知識 (関連法規や建築に関すること)」 3 「住環境の評価」 4 「住環境整備の手順・方法 (総論)」 5 「疾患別住環境整備の手順・方法」 6 「事例検討 (GW・2症例程度)」		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) レポート (50%)、学期末試験 (50%) などによる総合評価		
教科書 Textbooks	作業療法学全書 改訂第3版 第10巻 作業療法技術学2 福祉用具の使い方・住環境整備		
備 考 Other Comments	授業に興味・関心が持てるように、また学生の自主的な学習意欲を引き出せるように、教材や授業方法の工夫に努めます。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験23年の経験を有する。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	総合臨床実習 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期／9単位
授業方法 Teaching Methods	405時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>総合臨床実習は、3年間の作業療法士養成課程の総決算的な意味を持ちます。当校教育目標としても掲げている「有資格者の作業療法援助と比べ、未熟で時間を多く必要としても、作業療法対象者をリハビリテーション目標に導くために、責任を放棄せず、最後まで全力を尽くし最善の解決策を講じることができる問題解決能力を身につける」ことを主目的としています。</p> <p>また、前職業人として実習施設職員ならびに担当症例と望ましい人間関係を保ちながら、担当症例に対して必要な作業療法評価（全体像把握から問題点抽出・目標設定・援助計画の立案）、作業療法援助、作業療法再評価、作業療法援助の修正、作業療法目標達成までを学習します。</p> <p>その際、担当症例の抱える様々な生活障害を、治療だけにこだわらず、あらゆる方法を担当症例と共に考え試みながら、どうすれば担当症例が主体的な生活者として、生活を送ることができるようになるか、その答えを作業療法士として導きだすことができるようにならなければなりません。</p>		
授業計画 Course Content	<p>臨地での実習を原則とするが、新型コロナウイルス感染症の状況により一部学内演習となることがある。（臨地での実習については、各実習施設による）</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>① 実習前評価 ② 実習施設の評価 ③ 実習終了後評価 上記①～③を以って総合的に評価する</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員28年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員10年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員7年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員5年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員4年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験8年の経験及び専任教員1年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	総合臨床実習Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	3年次 後期／9単位
授業方法 Teaching Methods	405時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>総合臨床実習は、3年間の作業療法士養成課程の総決算的な意味を持ちます。当校教育目標としても掲げている「有資格者の作業療法援助と比べ、未熟で時間を多く必要としても、作業療法対象者をリハビリテーション目標に導くために、責任を放棄せず、最後まで全力を尽くし最善の解決策を講じることができる問題解決能力を身につける」ことを主目的としています。</p> <p>また、前職業人として実習施設職員ならびに担当症例と望ましい人間関係を保ちながら、担当症例に対して必要な作業療法評価（全体像把握から問題点抽出・目標設定・援助計画の立案）、作業療法援助、作業療法再評価、作業療法援助の修正、作業療法目標達成までを学習します。</p> <p>その際、担当症例の抱える様々な生活障害を、治療だけにこだわらず、あらゆる方法を担当症例と共に考え試みながら、どうすれば担当症例が主体的な生活者として、生活を送ることができるようになるか、その答えを作業療法士として導きだすことができるようにならなければなりません。</p>		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>① 実習前評価 ② 実習施設の評価 ③ 実習終了後評価</p> <p>上記①～③を以って総合的に評価する</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員28年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員10年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員7年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員5年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員4年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験8年の経験及び専任教員1年の経験を有する。</p>		

＝総合実習＝

科目名 Course title	作業療法総合学習 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	専任教員	期間及び単位 Term/Credits	3年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>講義概要：国家試験専門基礎分野の内容の復習と定着を過去問等の活用により図る。 グループディスカッションなども活用し、学生の自主性を促す。</p> <p>到達目標：卒前教育として、作業療法士に必要な知識・技術を再確認し構築する。 国家試験合格を目標とする。</p>		
授業計画 Course Content	<p>【専門基礎分野】</p> <p>① 解剖学（骨・筋・神経） ② 生理学 ③ 運動学（上肢帯・体幹・下肢帯） ④ 神経内科学 ⑤ 内科学 ⑥ 精神医学 ⑦ 整形外科学 ⑧ まとめ</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	国家試験対策に準ずる教科書		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員28年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員10年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員7年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員5年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員4年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験8年の経験及び専任教員1年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	作業療法総合学習Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	専任教員	期間及び単位 Term/Credits	3年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>講義概要：国家試験専門分野の内容の復習と定着を過去問等の活用により図る。 グループディスカッションなども活用し、学生の自主性を促す。</p> <p>到達目標：卒前教育として、作業療法士に必要な知識・技術を再確認構築する。 国家試験合格を目標とする。</p>		
授業計画 Course Content	<p>【専門分野】</p> <p>① 身体障害分野 ② 精神障害分野 ③ 老年期障害分野 ④ 発達障害分野 ⑤ 装具学 ⑥ 義肢学 ⑦ 福祉用具 ⑧ まとめ</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	国家試験対策に準ずる教科書		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員28年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員10年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員7年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員5年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員4年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験8年の経験及び専任教員1年の経験を有する。</p>		

2024年度 学校関係者評価報告書

評価対象期間 自：2024年4月1日
至：2025年3月31日

評価基準日 2025年4月1日

学校関係者評価委員会 2025年5月26日（評価委員7名参加）

学校法人栗岡学園
阪奈中央リハビリテーション専門学校
理学療法学科／作業療法学科

評価項目の達成および取組状況

- 1 教育
- 2 施設・設備
- 3 学生サービス
- 4 教育面などでの特筆すべき取り組み

教育分野 リハビリ

1 教 育

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	臨床現場で信頼される理学、作業療法士を目指し、知識、技術のみならず社会人として通用するよう指導にあたっている。	動物介在療法、スポーツリハに関連する科目などを設け、多様化する理学、作業療法士への医療・福祉・地域のニーズに対応したカリキュラムを継続して実施している。	5 4 3 2 1 十 ぶ 不 ← つ → 十 分 う 分	今後も教育内容の見直しを進め、学習の効率化を図り、より学生の個性性に合わせた効果的な教育手法を実施する必要がある。	動物介在療法に学生はどの程度興味をもっているのか、法人内に馬がいる環境を活かして関わる機会を多くとってあげて欲しい
2. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	時代のニーズに即し、地域リハビリテーション、予防リハ、がんリハ、生活行為向上マネジメントなど現代のリハビリテーション医療に不可欠な内容をカリキュラムに反映している。	知識・技術、情意・態度のバランスのとれた人材を輩出し、現場からも高評価をいただいている。 今後も職域を拡大するため、学修内容の見直しを定期的に行うことが必要。	5 4 3 2 1 十 ぶ 不 ← つ → 十 分 う 分	引き続き信頼される理学、作業療法士の育成を目標とし、職域の拡大や時代の変化に対応したカリキュラムに設定する必要がある。	特になし
3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	新型コロナウイルスの取り扱いが5類に移行したことによって、コロナ禍以前の状態に戻すことを前提としているが、一部の臨床実習と科目において学内実習、オンライン授業となっている。	特に2学年においては過密なスケジュールとなったが、臨床実習施設の拡充とスケジュールを行い、また学内実習を組み合わせ、年度内に規程の時間数を終了させることができた。時間割に学年間の偏りがある。	5 4 3 2 1 十 ぶ 不 ← つ → 十 分 う 分	授業スケジュールを調整することで学生の休養期間を確保し、過度に負担を与えないよう配慮する必要がある。 教育課程の改定による進捗を確認しつつ適宜調整を図りたい。	特になし
4. シラバス(授業要項)を作成していますか(内容は適切ですか)	科目ごとの教授内容を明確化し、幅広い知識と技術が習得できるよう調整している。	指定規則改定により加わった新たな教授内容を盛り込んでいるが、年々変化する学生の能力に対応が追いつかないところがある。	5 4 3 2 1 十 ぶ 不 ← つ → 十 分 う 分	学生の能力に合わせた授業構成や学習に対するモチベーションが向上するような工夫が必要である。	特になし

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	令和7年度入学生については1年次の理学療法士・作業療法士の教育内容を共通化し、積極的に合同授業を取り入れることにより教育効果の向上を進めている。	教育効果が最大限に発揮できるよう学科間で意見交換を行い、授業内容の見直し等を行っている。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	学科間で学修内容や到達目標の差が生じないよう情報交換し、調整を進めていく。	他の職種についても知ることが大切なので、PT・OT学科間での交流はよい取り組み。
6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか	昨今の学生の状況や国家試験の出題傾向等を考慮し、また出版社の意見なども参考にして原則、科目担当講師が厳選している。	出版社から献本を積極的に取り寄せ、学生の現状に合致したテキストを選定している。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	今後も学生の現状と国家試験の出題傾向などを考慮し、適切なテキストの選定を行う。学生の意見を踏まえ、購入後使用頻度の低い教科書については、改善を提案していく。	特になし
7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	原則シラバス等で到達目標が示され、各科目で求める能力を問う試験を実施している。	原則、科目ごとの単位認定は担当講師が行い、進級・卒業判定については、学科会議を経て、運営会議で最終判定がなされる。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	学修目標を取り入れた目標に合致しているか評価する新たに求められる能力要素があった場合には、成績評価ができるように追加する。	特になし
8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	授業アンケート結果から、ほとんどの講師が学生の理解度に沿って授業を展開している。	学修範囲が広い科目では小テストや中間テストを実施するなどし、学生の理解度を確認しながら進めている。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	学生による授業アンケート結果を担当教員や講師に適宜フィードバックし、次年度に向けた講義内容の調整を行っている。	特になし
9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	進研アド基礎カリサーチの結果に基づき、適宜学生面談を実施している。学生個々の課題を明確にして指導を行っている	カリキュラム外に適宜補修等を実施している。ただし、学生の過剰な負担にならないよう、バランスを取りながら進める必要がある。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	基礎カリサーチび結果を詳細に分析し、新たな学習に対する不安を軽減し、学習意欲・学習習慣を維持できるよう取り組む。	特になし

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	臨床でのマナー・身だしなみ等については普段の学校生活から適宜指導している。当校敷地内では全面禁煙とし受動喫煙防止に努めている。	入学時から社会人、医療人に求められる姿勢、態度についてきめ細かい指導を実施している。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	本校の教育方針の意図を理解していただけるように努める。教職員も手本を示し、職業人としてのマナーやモラルの向上を目指していく。	特になし
11. 教育技術(教育方法)の研究・研究を実施していますか	以下の内容に取り組んでいる ・認定理学、作業療法士取得 ・講義担当科目に関する研修会 ・学会発表 ・査読つき論文投稿 ・学位(修士、博士)取得準備	学科内で業務を調整しながら研修・研究等にかかる時間を確保する。スキルアップについて各自目標設定し、セルフマネジメントを継続していきたい。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	リハビリテーション医療の変化に対応した講義内容にするために計画的、積極的に学会発表、研修会参加、研究活動を実践し、教職員の質向上に努める。	特になし
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	講義の終講時に授業アンケートを全科目に対して実施している。	評価結果は希望に応じ閲覧できるようにしている。非常勤講師が授業評価を把握する方法の改善は必要である。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	今後もアンケートは継続し、さらに、教員の能力開発の一環として、専任教員、非常勤講師ともにアンケート結果をフィードバックし、講義方法等を見直す機会を作っていく。	特になし

2 施設・設備

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. 教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	教室等の部屋数や付帯設備に関しては十分である。ただ、一時期において、不足が生じることもあるが、学科間で調整を行っている。	講義棟、実習棟合わせて教室の数は十分であるが、HR教室で単位認定試験を行うにはやや狭いため、別室で行う必要がある。視聴覚設備は充実しており、授業進行はスムーズである。実習棟の空調設備更新が必要。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	単位認定試験の実施教室は、レクレーション室や大研修室を活用している。HR教室でも試験を実施できる対策を検討する。	特になし

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか（有効に活用されていますか）	基準を満たした蔵書数を保有している。メディカルオンラインを導入しており、文献検索が容易になった。	同じ建物内に図書室があるため、利便性が向上したことによって利用率が向上した。	5 十 分 4 ふ う 3 2 1 不 十 分	引き続き配架を効果的に行い、利用の促進を図っていく。	特になし
3. 実習・実験室の数や広さ、附属設備は適切ですか	実習教室については十分な数と広さがある。検査機器、研究機器を新規購入し、学習環境が向上した。	新指定規則に必要な物品が納入され、学習環境が向上している。今後も年間購入計画を作成し補充・更新していく。	5 十 分 4 ふ う 3 2 1 不 十 分	新規購入の必要な機材や更新が必要な機器の管理を徹底し、サービスが低下しないように努める。	特になし
4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか（有効に活用していますか）	各教室のプロジェクターやマイクについては利用できる環境である。	一部更新が必要な機器があるが概ね教育環境は充実している。学内 Wi-Fi が充実し、利便性が向上した。	5 十 分 4 ふ う 3 2 1 不 十 分	授業やイベント時にも対応した環境を今後も整備していく。	特になし
5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか（有効に活用されていますか）	学生寮を保有している。学生寮はキャンパス敷地内にある。	学生寮には専任の管理者を配置している。オートロック付きの入口で、セキュリティ面は安心である。隣接する関連看護校の女子寮も利用できるようになり、選択の幅が増えた。	5 十 分 4 ふ う 3 2 1 不 十 分	試験や国家試験前など短期での利用をできるようにしていく。	特になし
6. 体育館や運動場などを保有していますか（有効に活用されていますか）	体育館、運動場ともに保有している。授業やレクリエーション、また例年であれば式典で利用している。学生が放課後に有志でフットサルを楽しむなどの利用もある。	和幸会グループのクラブ活動や、関連病院と連携し競技復帰前のスポーツ選手も活用している。芝生広場は、学生や法人の関係者をはじめ、近隣住民の方々にも開放し活用されている。ホースセラピーを行う馬場が完成し、動物介在療法授業にも有効活用している。	5 十 分 4 ふ う 3 2 1 不 十 分	体育館は学生が普段から利用しやすいように管理・運営方法を検討し、さらに有効活用していきたい。	特になし

3 学生サービス

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	担任制をとっている。課題を抱える学生については、毎朝のミーティング、学科会議、運営会議等にて担任だけでなく、教職員全体で対応を心がけている。又新入生については、入学前課題やアンケートを行い、学生の抱える不安や問題点について早期に把握し、面談を行っている。	演習・臨床実習では、全専任教員指導体制により、個々のレベルに応じ、きめ細かい教育ができています。さらに随時面談を実施し、学科全体で学生の情報を共有している。	5 4 3 2 1 十 ← 分 つ → 十 分	教員の事務業務の効率化を図り、一層の教員の指導力と資質向上に努め、学生個々のレベルに応じたきめ細かい教育を継続する。	就職に対策について、就職試験で暗記してきた志望動機を述べるだけではアピールできない。自分の言葉で自分の気持ちを語れるよう、手厚く指導をしてあげて欲しい。
2. 学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	学生本人の申し出または教員が必要と認められた場合は関連施設の臨床心理士のカウンセリングを推奨している。	臨床心理士と教員が連携し、担任だけでは対応しきれない問題のある学生については、臨床心理士に対応を委ねることもある。	5 4 3 2 1 十 ← 分 つ → 十 分	現状では十分な環境が整っていると思われる。	特になし
3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	大学生ホール、小学生ホールを2部屋、また、各所に椅子やソファが設置されており、休憩時間や自習時に学生が有効利用している。	学生用スペースとしては広く、充実している。	5 4 3 2 1 十 ← 分 つ → 十 分	照明が暗い傾向にあり、点灯していない時間があるなどの部分を改善できるよう、働きかけを続けていきたい。	特になし
4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	食事場所は原則教室と学生ホールを開放している。学内に売店はないが、弁当の注文販売を行っている。また、2023年度からは月に一度キッチンカーが来校し、食事の選択肢がさらに増加した。	弁当と自動販売機によって購入の選択肢を広げている。自動販売機の商品はカップ麺や菓子パンの他、お菓子などを販売している。キッチンカーは学生から好評を得ており、継続していく。	5 4 3 2 1 十 ← 分 つ → 十 分	食事場所のスペースは十分であるが、感染対策の亚克力パーテーションなどがあると良い。自動販売機の商品の種類や価格については随時検討していく。 学外ではあるが徒歩圏内にドラッグストア、コンビニエンスストアもあり、利便性は向上している。	特になし

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	独自の支援制度としては、診療費補助制度や特別学費支援制度、家族割引制度がある。	一般病院から、またその他奨学金の案内をいただいた際は、随時掲示にて学生に連絡を行っている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	日本学生支援機構や一般病院等の奨学金に加え、高等教育無償化認可校となっており、新しく始まった多子世帯の授業料減免制度などについては、受給漏れがないようきめ細かく周知をしていく。	特になし
6. その他	カリキュラム改正で理学療法学科、作業療法学科ともに科目を新設し、学生の自主性に任せていた国家試験対策を最低限必要な内容は教員主導で指導している。	模擬試験過去問ライセンス契約で学内模試の回数を増やし、スマートフォンで学習できるプログラム等を契約することで、教員が学修状況を把握し、個別指導を行う環境を整備した。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	学生の学修状況に応じて、個別性に特化した対応を取り入れる必要がある。なお、カリキュラム外での時間の使い方について学生に説明し同意を得た上で、その必要性を共有することも重要である。	特になし

4 教育面などでの特筆すべき取り組み（自由記入）

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組みがあれば記入ください。

- ①アクティブ・ラーニング：講義形式ではなく、ディスカッションやグループワークを重視した授業の導入。
- ②教育のデータ分析：基礎カリサーチ等データを活用して学生の学習進捗や課題を把握し、個別化された支援を提供する。
- ③医療・福祉の関連法人を持つ学校という強みを活かし、一人一人の学生の状況に合わせた実践的な学びが経験できるよう連携・調整しています。
又地域との連携も図り、健康予防の観点で実践力を養っている。
- ④高校、大学クラブチームのフィジカルチェックに教員とともに学生が参加することで当校 理学療法学科の特徴が明確になってきた。
- ⑤学校祭をはじめ、交流会、球技大会などの学科を超えた交流行事や、ハロウィンやクリスマスなどのイベントも積極的に取り入れ、学生満足度の向上につながっている。

※学校関係者コメント

- ・自分が学生の時はP T・O T間での交流は少なかった。活発に交流があるようで羨ましく思う。
- ・昔の専門学校は非常に指導が厳しかったが、今は逆に保護者からのクレームが多い時代ではないかと思う。単位を落とさないよう学校から早めに対応をしていることや、何かあれば保護者に早めに連絡を入れていることなど、きめ細かな指導や対応が出来ている。
- ・スポーツ関係に進みたい場合、アスレティックトレーナーや鍼灸師との競合が厳しくなっている。現場で選ばれる理学療法士となるよう、意識の高い学生を育てて欲しい。
- ・歴史ある学校で、しっかりした学生が多く卒業生の現場での評価も高いので、募集停止となったことは非常に残念である。最後の学生までしっかり面倒をみて、この学校の卒業生であるというほこりをみんなが持てるようにして欲しい。

2024 年度 学校関係者評価報告書

評価対象期間 自：2024 年 4 月 1 日
至：2025 年 3 月 3 1 日

評価基準日 2025 年 4 月 1 日

学校関係者評価委員会 2025 年 5 月 26 日（評価委員 7 名参加）

学校法人栗岡学園

阪奈中央リハビリテーション専門学校

日本語科

評価項目の達成および取組状況

- 1 教育
- 2 施設・設備
- 3 学生サービス・募集
- 4 教育面などでの特筆すべき取り組み

教育分野 日本語科

1 教 育

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	当科は、将来の医療・福祉（主に介護）人材を育成するため、社会の一員として自立・自律できる人間を育成することを教育目標に掲げている。上記目標の下、日本での生活や資格外活動にマッチした、真の意味での「コミュニケーション能力」の向上を目指したカリキュラムデザインを充実・発展させてきた。	教室でのアウトプット活動や教室外での社会活動等を重視することにより、コース目標である「コミュニケーション能力」の習得を目指した授業が展開できている。アウトプットをする機会が多いことで、日本語能力の定着もしやすくなっている。一方で読解能力に関しては、母国での読書習慣も少ないこともあり、日本語の書籍に対して苦手意識を持っている学生が多い。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	コース目標達成を見据えたカリキュラムおよびシラバス内容は現状では問題はないと考える。学生同士の日本語を使用してコミュニケーションを増やすために、宿題などでグループワークを与えるなど、教室外での日本語を使った会話量を促している。 読解への苦手意識をなくすべく、読み物に触れる機会を増やす工夫を考えていく。	特になし
2. カリキュラムに卒業後の職場のニーズをどのように反映していますか	当科修了後の学生の進路は、介護福祉士養成のための専門学校進学または特定技能（介護）による就職に絞られてきている。これらの学生達のニーズに即した日本語能力の獲得を目指した教育を行うべく、カリキュラムに「一般常識」「介護の日本語」などを取り入れるなどの工夫・挑戦を続けている。	「介護の日本語」は、高齢者体験や介護現場で使用する基本的な語彙・漢字・声かけ表現などを学習項目に取り入れている。学生から「非常に役に立つ」というプラスの意見を多数もらった。 「一般常識」は、日本文化、日本人の働き方など、今後日本で生活していくために必要な情報・知識を学習し、学生が日本に興味を持つ役割を担っている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	学生のニーズを正確に把握するとともに、「異文化で働く」ということ、社会の一員として身につけておくべきこと等について具体的に言語化し、普段から繰り返し伝えることが必要であると考え。 アルバイト先や就職先の外国人職員の担当者の方たちと意見交換を行い、現場で求められている能力の聞き取りをし、授業に反映させていきたい。	アルバイト先等、受け入れる側の異文化理解も非常に大切。 実施中の異文化研修の継続が必要。

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	入学時のクラス編成から学生の学習進捗度に応じて柔軟にクラス編成と講師配置を行っている。現状では言語学習に必要な少人数クラス(10名前後)の状況が確保できている。	2年コースの学生においては、学年進行や時間配分について特に問題はない。 一方、1年半コースの学生は学習時間及び進路決定までの時間が短く、十分な日本語能力の養成という点において課題が多いと考えられる。	5 + 分 4 3 ふ ← つ → 1 不 十 分	1年半コース生については、入学時点である程度の日本語運用能力を保持していることが望ましい。学生募集時から明確なキャリアパスを学生に周知しておくこと、現地の日本語教師と能力レベルの情報共有を行うなどして、入国時に一定レベル以上の日本語能力を身につけてもらう。	特になし
4. シラバス(授業要項)を作成していますか(内容は適切ですか)	学生の状況やニーズに応じて、常に見直しをしながら科目毎のシラバスを作成している。 学期ごとに非常勤教員も含めた講師会を行い、授業内容に関して意見交換をし、シラバスの見直しや修正が必要なことがあれば、教員間で精査し変更している。	学生のニーズや状況の変化に応じて柔軟に検討や見直しをすることができている。 卒業後に役立つ、一般常識(日本文化、マナー、自己分析)やスピーチ&ディスカッションの授業を取り入れている。 スピーチでは、自分の意見や考えをまとめて、相手に伝わりやすい伝達方法を学習し、コミュニケーション能力向上に役立っている。	5 + 分 4 3 ふ ← つ → 1 不 十 分	講師会で、各教員間でシラバスの内容や授業の目的についての理解を深めている。今後認定日本語教育機関となるべく、文化庁が明示している「日本語教育の参照枠」に照らし合わせたシラバス作成が必要になる。	特になし
5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	日々更新される授業報告や、資格外活動先である介護施設職員からの声等をもとに、学科運営会議等で随時進度・教材・クラス編成等についての見直しを行っている。 また学期ごとに学生アンケートを実施。授業への満足度をはかり、学生が取り組みたい日本語能力の技能等の聞き取りを行い、学生からの意見をカリキュラムにも反映するようにしている。	日本語教育業界全体で、言語を使って何ができるか(Can-do)を中心としたコミュニケーション重視の教育法が取り上げられており、当校のカリキュラムはそれに沿ったカリキュラムで取り組んでいる。 ただ、ごく一部の学生は日本語能力をはかる民間試験のための学習を重視している者もあり、学生のニーズと学校として力をつけてほしい能力のギャップがないとは言えない。	5 + 分 4 3 ふ ← つ → 1 不 十 分	今後期待される日本語教育の形を把握した上で、学生のニーズも考慮しながら、当校の学生に合った学習内容をカリキュラムに取り入れていく。これからも変化する日本語教育業界にも柔軟に対応し、引き続きカリキュラムの再考の必要がある。	特になし

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項				
6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか	コース目標を念頭に、言語運用能力を重視した初級、中級教材を採用している。また、介護福祉士養成校への進学や特定技能による就職に必要な日本語能力の試験対策教材を学生のレベルやニーズに応じて採用している。	言語運用能力を高める初級用教材の採用により、単なる文型の学習にとどまらず「学習した文型が生活の中でどのように使用できるか」に焦点が当たり、教室活動の質が大きく変わった。それにともない学生の発話量も増え、日本語運用能力を重視し、日本語を使って何ができるか(Can-do)を中心としたアウトプット活動の授業展開ができています。	5 + ← 分	4 ふ つ う	2 不 → 分	1 十 分	日本語教育のテキストも時代に合わせて新しくなり、効果的に学習が進められる教材が生まれる。常に日本語教育に関する新しい情報収集のためにアンテナを張り、教材研究に費やせる時間を確保し、新たな取り組みを目指す必要がある。	特になし	
7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	基本的言語能力（「読解」、「文法」、「文字語彙」、「聴解」）の知識に加え、運用能力についても「会話」「作文」「介護の日本語」の試験を実施し、成績評価を行っている。「平常点」として出席率、授業態度、日々の提出物や小テスト等の結果も成績評価に反映させている。	言語知識に対する評価と、それらの言語知識をいかに運用できるかについての評価を筆記試験と口頭試験によりバランスよく行っている。「平常点」の授業態度に関しては主観的な判断になるので、今後授業態度に関してはどのように扱うか考える必要がある。	5 + ← 分	4 ふ つ う	3 不 → 分	2 十 分	1 十 分	今後の学生数の増加を視野に入れ、信頼性かつ合理性の高い評価法を検討していく必要がある。「日本語教育の参照枠」にも提示されているコミュニケーション能力をはかる評価方法の作成が必要となる。	特になし
8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	レベル別クラスによる日本語能力試験対策授業、グループワーク等によるアウトプットを主眼に置いた技能別授業等、学生の能力や授業の目的に応じた活動を展開してきた。また必要に応じて、補助教材や復習プリントの配布を行った。	学生の理解度は個人により、かなりの差が出てきている。現在の授業運営は学生の能力や理解度に応じたクラス設定がある程度可能となっている。	5 + ← 分	4 ふ つ う	3 不 → 分	2 十 分	1 十 分	学生が自律的に学習を進めていけるような環境整備が課題となる。今後自律学習を進めるべく、何ができるかを教員間で話し合いを行う。	特になし
9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	学力不足が認められる学生については、課題を与えたり、自習プリントを配布したり、クラスでの学習に追いつく補助としている。小テストや課ごとのテストでの点数が大きく下回る学生に関しては、テスト内容の復習を課題として与えている。	授業内外でのフォロー体制や個々の学生とのやり取りについては、メッセージングアプリ(Slack)を利用し、課題の進捗状態の確認、質疑応答など、学生の要望に応じている。また、半期ごとの担任面談の中で学習状況を確認し、学習方法のアドバイスも行っている。	5 + ← 分	4 ふ つ う	3 不 → 分	2 十 分	1 十 分	学力不足の学生への迅速な対応が肝要であることは言うまでもないが、社会的・職業的自立までのトータルな日本語学習の一時期を担っているという長期的な観点からのサポートも必要である。	特になし

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	全教員と通訳を含めた事務職員が協力し、学生の出身国とは異なる習慣（特に時間の厳守、衛生、マナー等）についての指導や、日本語の授業などを通じて日本人の行動規範や思考様式などを学ぶ授業を行っている。また、マナーに関する問題が発生した際にも、その都度全学生へ繰り返しマナーについて話をしている。	入学時のオリエンテーション、学期末・学期初めのオリエンテーション、また2年目を中心とした授業内で、日本社会における日本マナー等についての理解を深める教育を行っている。母国での文化や宗教間に関して、教職員の理解を示しつつ、日本社会で生活する上での必要なことを伝えている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	全ての事柄について短時間で伝えることは難しく、理解度にも個人差があるため、今後も教職員とアルバイト先職員が情報共有を密にし、一丸となり繰り返し忍耐強く指導を継続していく必要がある。（既に学校と職場の連携のための会議を定期的に実施している） また、必要に応じて母国の親御さんにも日本の文化やマナーを伝えることがある。	特になし
11. 教育技術（教育方法）の研究・研究を実施していますか	研究会や学会等への参加を奨励し、得られた知見について学科内教員で共有している。 2024年度参加研修 ・日本語政策学会「多文化共生のまちづくりと言語政策」 ・日本語教育学会 外国介護人材の日本語教育はどうあるべきかー協働への新たな文脈 ・アジア人材還流学会(ポスター発表)	現在は、外部で得た情報を学科内で共有するのみにとどまっているので、科内独自の教育関係の研修等を今後行っていく必要がある。 全教員が自己研鑽に励み常に成長できる環境を整えていきたい。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	理論と実践のバランスが取れた教育活動の展開を目指すとともに、その成果について広く社会に伝えられるよう研究発表等による情報発信を行っていききたい。学内での教員のスキルアップを目的とした勉強会や、外部の研修に参加する年間研修計画を作成する必要がある。	特になし
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	学期ごとにアンケート（選択肢、自由記述による）を行い、授業や学校に関する学生の意見を集めている。また個別面談では、学習内容や授業、及び留学生活について聞き取り、教員間で共有し、学校運営に反映させようとしている。	授業全体及び科目毎の授業評価を行うことにより、コース全体のみならず担当教員に対する評価も把握できるようになっている。 学生との信頼関係＝授業評価になりがちで、授業内容に関しての評価を得られているか不確かなところがある。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	留学生は授業に関する不満があっても表出しないことがある。聞き取る項目や方法を検討し、思いが反映される授業を展開したい。一方で、教育目標については、ぶれることなく教員間で一貫性を持って学生に示していきたい。	特になし

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
13. カリキュラムに沿った授業を実施し、想定通り成果はあらわれていますか	発話・発表、協働学習などの活動を含むカリキュラムに沿って、目標達成のための授業展開ができています。発話機会が増えることにより、日本語習得の自信をつけ、ペーパーテストの点数アップにもつながっている傾向が見られる。	入学当初は、母国での受身な学習スタイルが抜けない学生(特にベトナム)が、発話中心の授業で積極的に発話できない場面も見られる。しかし、教員からも声かけや他の学生からの問いかけなどを通して、少しずつ発話に対するの苦手意識が和らいでいるように見られる。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	受身な学生や発話の少ない学生への参加を促す工夫を考えていく必要がある。	特になし
14. 修了については、認定基準を明確に設けて判定していますか	修了認定条件を定めており、それを基に修了判定を行っている。修了要件については、入学時に配布する「留学生生活ガイドブック」に記載しており、学生が常時確認できるようにしている。	入学時の説明だけでは、修了要件に関してイメージできない学生が多く、在学中の小テスト・期末試験などの成績や出席率を修了要件と紐づけて意識できている学生が少ないと感じる。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	入学時に修了要件を伝えるだけでなく、学期末・学期初めのオリエンテーションでもその都度確認のために何度か伝える必要がある。そうすることで、卒業間近に「知らなかった」ということが防げると考える。	特になし

2 施設・設備

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. 教室の数や広さ、付帯設備は適切ですか	教室の数は十分である。施設整備の点から、隣の部屋との仕切りのない部分があり筒抜けになっているので、聴解や保温等について課題がある。	教室の数と広さは適当である。イスラムの学生のために祈祷室も設けている。休憩時間に学生達が楽しめるよう、卓球・バドミントンなどの用具も揃えている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	隣の部屋の間仕切りに関しては、設備担当者に確認中。用具の使用方法や片づけについても学生に周知する必要がある。	特になし

2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか (有効に活用されていますか)	図書室および書棚を設置し、多読教材をはじめとする書籍が閲覧できるようにしている。学生への貸し出しも行っており、日本語の本の読書の機会を促している。また自律学習用に日本語読解学習支援システムなども紹介している。	今年度若干の多読用教材の補充を行ったが、まだ書籍の点数が少ない。寄付などで頂いた書籍もあるが、古い書籍も多く、学生が興味を持ちにくいものもある。今後、多読に慣れるため、学生が興味のある幅広い分野の蔵書の充実が必要である。	5 + ← 分	4	3 ふ つ う	2 → →	1 不 十 分	教材費の充実、不要となった書籍の寄付を募る等の方法により、第二言語として日本語を学ぶ学生が満足できる内容の蔵書を充実させていきたい。	特になし
3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	実習等は行わない。		5 + ← 分	4	3 ふ つ う	2 → →	1 不 十 分		
4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか (有効に活用していますか)	パソコンやプロジェクター等は利用しやすい環境にある。 学生のクラスワークなどのコミュニケーションツール確保のために Wi-Fi が設置されている。	効果的な授業活動を行うのに必要な PC の設備は整っている。 聴解学習の際にプロジェクターからの出力音声だと、音が割れて聞きにくいことがある。円滑な授業の流れに支障をきたすことのないよう、スピーカー等を用いることも必要となる。また、経年劣化が原因と思われる不調が時折みられるので、今後順次買い直し等の必要がある。	5 + ← 分	4	3 ふ つ う	2 → →	1 不 十 分	非常勤教員等も設備をスムーズに使用できるよう、各教室に PC とプロジェクターの設置を行い、授業前に動作確認をしておく。 また不具合があった際に対応できるよう、常勤教員は各機器の使用法をきちんと理解しておく。	特になし
5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか (有効に活用されていますか)	留学生全員に寮が安価な価格で提供されている。 講義棟に併設している寮(男女別)があり、通学に便利である。 寮内共有部において、掃除を人任せにしている学生が多く、現在は掃除当番制取り入れ、掃除当番は定着しており、自主的に掃除できる学生が増えた。	寮内の施設用品等について不具合の生じたものは、適宜、改善及び改修を行っている。 寮内には日本人学生も住んでおり、学校以外の場でも日本人と交流できる場所となっている。	5 + ← 分	5	4 ふ つ う	3 → →	2 不 十 分	寮生同士が協力することで、今後必要となる協調性を身につけてもらう場となってほしい。	特になし

6. 体育館や運動場などを保有していますか (有効に活用されていますか)	グラウンドでは、サッカー、ジョギング、散歩、動物との触れ合いをする姿が見られる。夏はグラウンドで水遊び、冬は雪遊びを行った。体育館を使用する機会は少ないが、新入生との交流でスポーツ大会を行ったこともある。	体育館や芝生広場は、学生や法人の関係者をはじめ、近隣住民の方々にも開放し活用されている。	5 + 分 4 ← 分 3 ふ つ 2 → 分 1 不 十	今後、充実した学生生活を目的とした更なる有効活用を考えていく必要がある。	特になし
-----------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------	------

3 学生サービス・募集

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	専任教員が担任業務を行い、成績等の管理、学生面談を行っている。担任1人にすべてを任せのではなく、各教員が相互に他クラスの担任業務をサポートする体制が整えられている。 必要に応じて臨時の学生面談を行い、問題の早期解決に取り組んでいる。	定期的な面談以外にも、問題があればすぐに面談を行うことで、問題の早期解決、対策ができています。必要に応じて、母国の保護者にも参加してもらい、オンライン面談を行っている。	5 + 分 4 ← 分 3 ふ つ 2 → 分 1 不 十	現状は全教員が全学生の状況がある程度把握できているが、今後学生数、クラス数の増加に伴い、授業を担当しないクラスについては該当クラスの学生の把握は難しくなると思われるので、学科会議の中で学生に関する情報共有を行う。	特になし
2. 学生に対してカウンセリング(心理相談)を行っていますか	通訳を介した母語による面談を随時行い、状況の把握を行っている。 (通訳は事務職員・介護施設職員である卒業生が担当) また関連の医療施設にカウンセラー(日本人)がおり、必要に応じて個々に相談できる体制が整っている。	語学力の問題でカウンセラーに本人が直接相談できる状況にはないためプライバシーが守られにくい上に、異文化理解の知識のある専門のカウンセラーがいないことが課題である。 また、ベトナム語通訳ができる事務職員はいるが、インドネシア語ができる職員は常駐していない。	5 + 分 4 ← 分 3 ふ つ 2 → 分 1 不 十	寮やアルバイトなど学生の生活全般に関するカウンセリングを含めた「生活指導」や通訳スタッフの拡充が必要である。 当校卒業生が関連施設で就業しているため、スムーズに通訳ができる体制を整える必要がある。	特になし
3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	教室前に広いロビーがあり、ソファやテーブル、十分な備品及びスペースが確保されている。	ロビー内は季節に合わせた日本の年中行事にまつわる飾り物や学生の成果物などを設置し、温かみのある空間になるよう工夫している。	5 + 分 4 ← 分 3 ふ つ 2 → 分 1 不 十	将来的には未利用部分を整備し、留学生快適に過ごすことのできるスペースを作っていきたい。	特になし

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	学生寮が隣接しているため、学生がロビー内で食事を取ることは少ない。売店はないが、弁当の注文販売があり、自動販売機も十分設置されている。 ロビー内に電子レンジや電気ケトルなども設置している。	留学生が校内で食事をとる機会はまだ多くないが、休憩時間に温かいコーヒーやお茶を入れるなどして、学生達がほっとできる場を提供できている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	食事場所については十分である。売店については近所にドラッグストアやコンビニがある。	特になし
5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	学校独自の支援制度として、診療費補助制度がある。	学校独自の奨学金制度はないが、納付金自体を低く設定している。留学生が利用できる学費減免等はないものの、寮費等を安価に設定していることが生活への支援となっている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	成績優秀者等への奨学金が更に充実していけば、学習動機の上につながると考える。	特になし
6. 募集から入学手続きにいたるまで、財務に関しては適正に処理されていますか	ベトナム ・ハノイ市立ハノイ医療短期大学：仲介手数料 50,000 円/人。募集担当者が学生入学後のベトナム初回訪問時（毎年 5 月、または 11 月）に日本円現金で支払う。 ・KOSEI VIETNAM 株式会社：仲介手数料 100,000 円/人。学生入学月に KOSEI VIETNAM 株式会社指定のベトナム国内の銀行口座に送金する。 インドネシア ・KSK 株式会社：仲介手数料 100,000 円/人。学生入学月に KSK 株式会社指定の日本国内の銀行口座に送金する。	現在に至るまで各紹介機関には事前に合意した計画通りに支払いを実施している。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	世界を取り巻く様々な要因から起こる経済状況の変化により仲介手数料も変動する可能性が考えられるが、それらに対しては柔軟に対応し、さらに募集国ごとに仲介手数料の大幅な差異が生じないように各国ごとに対応する。	特になし

4 教育面などでの特筆すべき取り組み（自由記入）

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組み

・今年度参加イベント一覧

○夏！まつり(グリーンホール田原)：ボランティア参加

○七夕まつり(グリーンホール田原)：浴衣を着て盆踊り参加

○田原フェス(北谷公園)：ステージ参加

○朝のあいさつ運動(田原地域)

○いこま国際 Friendship フェスタ(たけまるホール)：ステージ参加

○クリスマス・キャロル(グリーンホール田原)：ステージ参加

○クリーン作戦(田原地域)

○精華町メッセージコンテスト：最優秀賞、優秀賞

・日本、日本文化等への理解を深める機会を与える工夫として、お正月文化体験をはじめ各種行事をカリキュラムに取り入れている。今年度のお正月文化体験（着付け、書き初め、茶道体験）では、地域ボランティアの方々の全面的な協力をいただき、地域住民との交流を図る貴重な機会となった。

※学校関係者コメント

・少子化の現在、高校でも留学生の数は大幅に増えており、国籍も多様である。また、専門学校への進学者も、日本人の数は減少しているが留学生の数は増加している。

今後の日本で、留学生の存在はマストである。積極的・活発に学校運営をしていって欲しい。

・現在はベトナムとインドネシアからの受け入れとなっているようだが、もっと視野を広げてはどうか。受け入れる側の意識改革も必要である。

・卒業生の進路について、学生にとって卒後が良い形となるよう、進路指導をしてあげて欲しい。